253

341

始

東京高等師範學校
初等教育研究會編

佐佐木吉三郎教育論集

東京
目黒書店發兌

大正
15. 6. 7
内交

異彩

進乎齋

學識經驗放斯異彩

進乎齋

果行育德

253-341

序

○故雷風佐々木吉三郎先生が當初等教育研究會員として、教育研究誌上に、卓拔なる識見を吐き、我教育界を指導せられたことは、二十年にも餘る長い歳月です。

○その中、主幹として本誌を主宰されたのは、明治四十三年より大正十年九月に至る十一ヶ年間で、その間海外に在る日も、常に本誌の卷頭に、言論の勇姿をかゝげ、われらが教育界のために奮闘されました。

○この書を編纂するに當つては、その全部の言論を收むべきか、その一部にすべきか、一部といつても如何なる部分を採擇すべきか、かなり迷ひました。

○結局、その論旨が、生前公にせられた數多い名著の中に於て窺はれるものは之を省きました。それでも、尙餘りに資料が多すぎるので、一時はいつそのこと、全集にしてはといふ考へも樹てゝ見ました。

○が、さうなると、事業の質も量も、あまりに廣大になつて到底同人等の力では如何ともすることが出來ません。それで、種々考へぬいたあげく、先生の大正年間に執筆された全部を收錄することに致しました。

○收むるところ全篇八十六の教育論は、大正の初頭より當會の主幹を辭されるまで、凡そ十ヶ年間のすべてゞあります。

○今、一々年次によつて編纂してみますと、そこに興味深い大正教育の歷史を發見することが出來ます。全國訓導協議會の第一回に於ける宣言を一讀しても、今日まで に第二十五回を重ねた日月を隔てゝ、うたゝ今昔の感にたへぬものがあります。

○その他視學制度に關し、掃除問題に關し、教科書民營に關し、教員待遇問題に關し、それがやがて國庫支辨論にすゝんで來る經路、思想問題の勃興等、わが教育に重要にして忘れることの出來ない當時の論爭上の中心が、悉くこの論集の中に焦點を結んで居ります。

○時は進んで大正十五年、先生逝いてもはや一年有餘になりますが、今日の教育をあらしめた母胎として、はたまたその苗床として、この論集を手にとるとき、實に興味の新たなるものがあります。

○殊にも、流麗なる佳筆は、紙上に生きる先生の風丰をおもはせます。高邁の識見を語るにも極めて平易に、深遠な理想を說くにも極めて平明に、而してつくるなきユーモア、輕妙なる比喩、一切の面目を傳へて止みません。その點からいへば、本書は正に先生を目前にしての談論に接する趣があります。

○この書を編纂するに當り、前校長嘉納先生の題字現校長三宅先生の序文を得て卷頭を飾ることが出來、また書肆目黑甚七氏が、一は以て雷風佐々木吉三郎先生の高德に酬いんため、一は以て吾等同人の擧を意義あらしむるため、一切の援助を甘諾されたことは、吾等同人の衷心より感謝に堪へぬところであります。

○わが初等教育界の人士よ、

われらは、今、先生の多年教育界に盡瘁されし功勞を記念するため、こゝにその論集を蒐して一冊としました。もとより同人の微衷です。その事業は小であつても、學は美事たるを自信します。

△あへて座右に献ずる次第であります。

大正十五年四月一日

初等教育研究會同人謹記

佐々木吉三郎教育論集

目次

一　全國小學校訓導協議會につきて……一
二　視學機關・教育調査機關・朝鮮國語教科書……三
三　全國小學校訓導會開かる……五
四　視學制度の眞の改良は何時か……七
五　小學校令の部分改制につきて……九
六　第二回全國訓導協議會に對する希望……一〇
七　教育社會の自主自治……一二
八　海國民としての陶冶……一五
九　此の上は國庫補助あるのみ……一九

目次

一〇 創刊十周年記念號發刊の辭……二四
一一 文部省内に常設研究機關をおくべし……二五
一二 掃除の是非……二一
一三 尙思想に覺めよ……三一
一四 時勢と教育……三五
一五 人種問題と教育……三八
一六 教育と政治との密接を要す……四三
一七 大隈伯の國定教科書論……四六
一八 イズムからイズムへ……五二
一九 選擧と教育……五七
二〇 國民を飢餓より救へ……六〇
二一 法制經濟科よりは寧ろ社會科……六四

二二 觀察實驗の學風を興せ……六八
二三 健全なる輿論……七二
二四 百の空論より一の經驗……七五
二五 都市好箇の記念事業……七九
二六 時勢の要求と小學校令改正……八三
二七 御即位の勅語を拜して……八五
二八 御沙汰と文相の訓令……八八
二九 國情に基ける教育實施案……九一
三〇 第百五十號發刊を祝す……九五
三一 教員優遇について……九八
三二 教育界に續發する事故について……一〇二
三三 國を出よ、而して働け……一〇六

三四　義務教育は少くとも八年……一一〇
三五　町村を背景とせる教育施設……一一四
三六　日本の運動界……一一八
三七　家事裁縫の改良と法令との接觸……一二一
三八　教育者海外派遣を實行せよ……一二三
三九　一誠崩百道生……一二七
四〇　よいかな此の學……一三〇
四一　教員の修養について……一三三
四二　小學校教員給の國庫支辨……一三六
四三　夏……一四〇
四四　結局は人……一四三
四五　渡米にのぞみて……一四八

四六　憂國の斷……一五〇
四七　人と法……一五四
四八　擠排孤立の愚……一五八
四九　四あつて三を缺く……一六二
五〇　事務的材幹……一六五
五一　組織的經營……一六八
五二　深さと廣さ……一七二
五三　臨時教育調査會に望む……一七六
五四　戰後か戰中か……一七九
五五　寺內內閣の文部省……一八三
五六　東京市派遣渡米小學校長團諸君を送る……一八七
五七　任用令の改正について……一九一

五八　教育者待遇改善の必要迫る……一九四
五九　デモクラシーの逆襲……一九八
六〇　思想統一と生活の統一……二〇三
六一　教育時事八則……二〇六
六二　六人の委員が愧死するまで……二一〇
六三　國民教育の將來を如何せんとする……二一四
六四　生活の不安と思想の險惡……二一八
六五　時務四則……二二二
六六　改惡始末……二二六
六七　新眞產業教育……二三〇
六八　小學校教員俸給國庫支辨の請願……二三四
六九　思想問題の回轉期……二三八

七〇　教育者大會及東京市小學校教員會……二四二
七一　教育社會の五大覺醒……二四六
七二　勞働道德宣揚の時來れり……二四九
七三　社會教化の中心……二五三
七四　尼港虐殺事件と教育者……二五七
七五　夏期休業と兒童の生活……二六一
七六　教育界の新事業……二六四
七七　教育界の人選法を愼め……二六八
七八　孤立奮鬪の試錬……二七二
七九　先づ現狀の眞覺醒次に理想への發動……二七六
八〇　內閣組織者の一大教訓……二八〇
八一　教育の擁護……二八三

八二　二部教授國兼入學困難國……二八七
八三　教育實際家の海外派遣を斷行せよ……二九一
八四　教育に華咲く世！來れ……二九五
八五　朝鮮に遊びて……二九八
八六　皇太子殿下の令旨を奉讀して……三〇〇

目次終

佐々木吉三郎教育論集

東京高等師範學校
初等教育研究會　編

一　全國小學校訓導協議會につきて

吾人は、本誌前號に於て、教育方法を、事實經驗に基きて、歸納的に研究すべきことを想想したりしが、吾人の手に負ふべき計畫の一つとして、茲に、先づ、題號の如き會合を企て、天下同職諸君の賛同を仰ぐ運びに立ち至れり。

訓道は國民教育の柱石なり。新興國の國民教育者たる以上は、教育の大本、國家世界の前途を指導するについて、一隻眼を有し、居常、天下の大勢を論議する、固より必要缺くべからざる事に屬す。而も、かゝる大問題は、關係する所廣く且つ深く、數回の談、到底其の歸趨を見難きのみならず、此の種の問題に焦慮するもの、天下其人に乏しからず。吾徒も、須らく、此等の國士

と共に、徐に考覈して可なり。

吾等訓導は、訓導として、日常の職務を有す。吾徒が此の本務に向つて、細心着實の研鑽を遂け、斯道の權威となり、國家に對し父兄に對し、十分其の負擔に堪へんことは、吾徒の飽くまでも努力すべき所にして、一日も緩ふすべき問題にあらず。思ふに斯道の熱心家諸君、選良諸君と數日の懇談を兼ね、平生の蘊蓄を與り聞くことを得ば、穩健なる改良策の上に、一新時機を劃することを得べけん。吾人は、此の擧の成功を祈るがために、玆に愚見數條を附加して、其の趣意のある所を明かにせんとす。

一、各府縣より出席せらるべき入會者の選定を、各地の教育會や各府縣の官廳に委せざるは、肩書のみえらくして實地に迂なる人の混入を欲せざるがためなり。

二、會員數を百名以内としたるは、徒に喧囂たる論戰を事として、着實なる水入らずの研究を妨ぐるを厭へばなり、此の會に出席して奇焔を吐かん、演說ぶりを見せんなどいふ野心のみある人は來られぬを宜しとす。報告の時間も、十分間内外とせる時、不要なる前置きや、仰々しき口上を引き去つて、正味正直の所を陳述する趣旨にて、十分間は中々に長きものなりと信ず。

三、協議會は、御互に、苦心のある箇處々々につきて、經驗を提出し、知識の交換を謀るを目的とするものなるを以て、其の結果の利用は、各自從來の造詣の如何、各自の頭腦の組織及才能如何によつて、差異あるべし。協議會は、受動的講習會にあらずして、自から批判し組織せんとするものの活資料蒐集會なり。袖手傍觀して御土產をのみ得て歸らんとする人は、來らざるを宜しとす。

四、吾等同人は、繁劇の職をとりつゝあるものにして、授業時間の明き間を利用して、かゝる周旋をとるものなれば、入會者諸君に對して、別に御客樣取扱をせず。從つて、會員各自が主人役のつもりになつて初めて此の會は生くべし。

五、會場の都合と研究の都合とにより、本會に於て入會を承諾したる人々の外は、一切傍聽をも禁ずるが故に、如何なる方面より、如何なる運動をなさるゝも、そは全然無効なり。

滿天下の清新潑剌たる訓導諸君、眞面目なる研究家諸君は、此趣意に於て賛同せられよ。

——二・一・一——

二　視學機關・教育調査機關・朝鮮國語教科書

視學機關の改正は、毎々論じたる如く待遇を高めるのが最大急務に候。平均六十圓位に致さねば駄目に候。之を郡役所に置いては、權衡がとれぬとならば、吾輩には、一案之れあり候。即ち、

今の郡視學の半數だけを縣廳に置き、奏任官と判任官と半々にし、俸給は、今の郡視學二人分を一人に給し、二郡づゝ受け持たしめ、專ら教育の實施を指導せしめ、郡役所には、教育の事務を、郡書記の一部分の仕事に移して、十分なりと信ずることに候。而して縣には、縣視學官といふものを、知事の次に置き、ボッチャンの法學士などは、小僧として引き廻す樣に巡視し、今少し刷新するを要すと信じ候。今日の大學の講義のやりぶり、筆記勉强、試驗學の實情等は、心ある大學生は痛歎致居候。官立の大學すら然り、他の官公私立の大學や高等なる專門學校も、まだ〳〵勉むべき事少なからじ、視學官は、小學校や中學校のみお世話なさるべきものにあるまじく存候。寧ろ大學や高等なる學校を十分に監督指導する人々を要すべしと存候。

教育調査機關の設置は、昨今彼是論議せらるゝ樣に候へども、先づ、物になるまじく存候。若し教育界の元老に十分時勢と共に歩む元老が、十指を屈するを得ば、そして、國語調査會の決議とか、文官任用令の改正とか、教育基金塡補問題とかを、ギリ〳〵物にする勢力あらば、多少の期待を囑し得べく候はんも、教育界の元老は、勢力としては、悲しいかな、國家の第一流には之れなく、第二流には六かしい位故、所詮、實行力なき空論機關となり申すべしとの評判に候。

朝鮮の國語教科書第一の卷、出來上り候。大體結構に候。立柄教俊君等編修諸君の勞を謝し申候。

殊に、其の假名遣の歴史的ならざるが馬鹿に氣に入り申候。一日も早く内地の教科書もこの例になることを熱望いたし候。聞く所によれば、臺灣にては内地に倣つて、歴史的假名遣を使用することに改めたりとか、吾々は寧ろ朝鮮のやり方の、遙に實際的なるべきを信じ、歴史的假名の如きは、後學年に至りて、一應、讀み方位を心得させ置くを以て十分なりと信ずるものに候。序に國語調査會の健在を祝し申候。——二・二・一——

三　全國小學校訓導會開かる

全國小學校國語科擔任訓導會は、五月二十四日より二十八日まで、東京高等師範學校附屬小學校内に開會せられて、全國斯道の熱心家、國語教授界の選良百名が、五日間、水入らずの研究調査を遂げ、斯道のために貢獻せんとするは、兎も角も前古未曾有の企に御座候。此の會は、一切の御祭騷ぎをやめ、先づ總會に於て會員全部の講演を開き、眞摯忠實に、各自が年來調査研究せる結果を披瀝して、相互の智識を交換し、次に、部會を開いて、審議討論、其の結果を組織的にし、更に之を總會に報告して、批評訂正を加へんとの段取に候。今回の研究は、主として、讀み方綴り方に關する事項に候。吾等は、公務の傍、極力之に盡瘁して、一は、遙々地方より集合せ

る會員諸君の熱心を空うせず、一は此種の會合の最初の試みとして、多大の同情と希望とを寄せられたる有識諸君の、好意を空うせざらんことを期し居り候。

今回參加せられたる訓導諸君は、四つの高等師範學校に於て、特に國語科を擔任せらるゝ諸君を初め、府縣師範學校訓導諸君及び全國小學校訓導諸君中、斯道について、特に意見を有せらるる諸君のみに御座候。

我國の教則を見る時は、國語科の教授時間數は、多きは毎週十四時間に上るといふ、世界無比の多數の時間を割き、全授業の半數近く占め居るものに候。然るに其の成績如何と見るに、壯丁檢査の結果に徴するも、實に寒心に堪へざるものあり。某村落の如きは、忠君愛國の四字を讀み得たるもの、百分中の三に過ぎざりきといふ。これ固より卒業後、書籍に親しむ機會なき漁村の一例なりと雖も、今日義務教育終了者の國語の力が、案外に少なきものなることは、誰人も認むる所に候。吾等は、授業時間數のみを貪るも、教授者其の人の造詣、教授者其の人の方法の改良を決行するにあらざれば、到底滿足の効果を收め得べきものにあらずと存じ候。教授者其人の學識及び方法上の改良だに出來得ば、教授時數は今より大いに減少して、最大限を十時間としても、優に今日以上の成績を擧げ得べしと確信するものに候。今回の會合が、重要なる國語科教授の改良上、一大刺撃を與ふることを得て、或は時間數の大節約となり、或は確實なる効果の收得となつて、多年の難問を解決する端緒たるを得ば、實に國家のため、多大の獲物なるべしと存候。

天の時はよし人の和はあり。願くば此の會合が今後相續いて起るべき幾多會合の先驅として、多幸多福ならんことを　――二・六・一――

四　視學制度の眞の改良は何時か

視學制度の改良は、教育界の輿論にして、郡視學の待遇を高め、府縣に視學官を置き、經驗學識、優に地方の各種學校を監督指導し得るものを以て之が司長とし、文部省視學官の待遇を高め、視學局を特設して、全國の視學系統を有機的に連絡すべしといふが如きは、既に、全國聯合教育會、全國教員大會等の場合に、幾度も建議せられたる多年の懸案なり。

今回の行政整理は、大體の主眼が經費の節減にあるを以て、誰人も、此の場合に於て、擴張を求め、增員を迫るが如き希望は有せざりしならんも、府縣視學官が復活せらるゝなどの呼聲高かりしため、幾分の改良を（言葉の眞の意義に於て）期待せるは事實なりき。然るに、愈々其の發表を見るに及んで、教育界は、少なからず、失望せるものゝ如し。

之を文部省で見るに、督學官の官等が、視學官よりも、一等上りたるは、兎も角も結構なれど、量に於て定員の減少を見たるのみならず、從來教育を視察したりし主義が一變して、事務を見ることが主となりたるより見て、寧ろ質に於て惡化せらるゝが如し。かくては、從來教育上の方面、專門學術の方面より、入つて視學官となりし人は、事務官の見習をなすが如き奇觀を呈し、果して適材を適所に使ふ趣旨に叶ふや否や疑なき能はざるのみならず、地方教育の視察は、從來の二分の一にも或は三分の一にも及ばざるに至るべく、他に視學員の增員が、何等かの方法を以て埋め合せを講ぜざる以上は、教育界に對する多大の損失たるは、疑を容れざるなり。

更に、之を府縣に見るに、視學官復活の聲の、徒に大なりしに似ず、事實は、理事官の補職たるに過ぎずして、其理事官の選任は、從來の如く、若き法學士か、文官高等試驗に及第したる少壯理事官にして、中には、從來、比較的教育に熱心なりし事務官の、今回免黜せられたるものあるを見れば、之が選任は、果して文部省の與り知れる所なるか疑なき能はざるを見る。かくては、視學官復舊の語、無意味たるに終るなきか。

果して然らば、今回の改革は、文部督學官が、高等官三等まで上り得たといふの外、何等の好影響を教育の實際界に及ぼさゞるのみならず、文部省の視察を著しく減却し、府縣視學官として、新に適任者を得來れる事實あるを見ず。教育界の失望せる、無理ならずといふべし。改革の手を下さずんば止む。苟くも手を下さば、教育界多年の輿論を酌み、今少し、實際に意味ある改革を行はれんことは、吾人も、滿天下の教育者、及び教育事情に通ぜる人々と共に、切望して止まざる所なり。——二・七・一——

五　小學校令の部分改正につきて

七月二十六日の官報を以て、小學校令及び同施行規則の部分改正が公布になつた。從來府縣師範學校卒業生は其の府縣限りに於て教員たることを免許せられて居つたが、今回全國に對して共通に有効なることゝなつた、これは嘗ては教員の他府縣轉任を沮止して、正教員を各處に普及せしむる意味があつたが、時勢が進歩して各府縣に正教員が一通り配置せられた今日には、却つて徒に事務を煩雜にする以外得る所なきを見るに至つたので、今回の改正は時宜に適したる處置である。次に教授時間數の增減男女混合學校の編制及び教科書採用に關しては、地方長官の認可を要せずして、小學校長の權限によつて處置し得ることゝなれり。これ事務簡捷のためとはいへ教育者の權

限が幾分でも擴張せられたことであるから、十分其の責任を重んぜられ、小學教育のことは小學校當事者に委任するのが最良の方法なることを證明せられんことを望むのである。

次に二部教授を施行せんとするには、單に「土地の情況により」といふ箇條あるのみで、其他に何等の制限なきに至れること及び三學級に二教員を置くことを得といふことに定まりたるは、經濟の事情止むを得ざる村落等に取つては便利なるべし。去乍何事もかゝる消極的のことは、忠勤顔に奬勵だとか厲行だとか狂奔する地方俗僚が、又しても飛び出さぬ樣に見張る必要があると思ふ。教育社會は今少し落付がなければならぬ。

要するに、今回の改正は大體に於て宜しきを得たり。唯、今後教育者が目的ある常識を以て、よく機宜に處せられんことを希望せざるを得ざるなり。——二・九・一——

六　第二回全國訓導協議會に對する希望

第一回の讀方綴方に關する協議會は、五日間の熱心なる研鑽討議の結果、一部の報告書として、既に公にされた。此の報告は、直ちに採つて以て實際を指導すべき具體的の成案ではないが、斯道の熱心家に對して現今我國の實際家が各地方各學校に於て實施せる結果より絞り出した、理想や信念や要求等が、那邊まで到達して居るかゞ分り之によつて、幾多の研究問題を見出し、幾多の暗示を得べきことは疑ない。又、實地の要望を熟知する便宜なかりしを總合して、歸納的に覺醒を建設し、施政の方針を立てる上に、好資料を提供し得たものであることも疑ない。果して然らば、吾等同人五日間の努力が、社會國家の發展のために、決して徒爾ならざりしことを信じて可なりと思ふ。

今や、豫定計畫たる第二回の協議會は、特に算術科に關する研究調査を目的として開かれんとして居る。申込人は既に定員以上に達し、來會諸君の範圍も一層擴張せられたるより見ても、恐らく、第一回以上の盛なる會合を見るに相違なからうと思ふ。

かくて、「小學教育の改良は、親しく小學校の實際に從事して、苦心經營しつゝある小學校訓導の手によつて、その方針が立てられる。」といふ世の中に、一日も早く近づかんことが吾等同人の切なる希望である。願くは、來會者諸君、自重自愛して、十分の研鑽を積まれ、確實な、內容に富んだ、穩健な、實際より蒸餾した精粹を齎らして斯界の着實なる改良を企圖せられんことを。

——二・一〇・一——

七　教育社會の自主自治

無意識的群集が自覺ある有機的統一となるは、社會進歩の通義なり。近來、哲學界文學界に喧傳せられ、政黨政派などに實現せられつゝある個人的民主的傾向は、畢竟これ、自覺を呼ぶ聲たるに過ぎずして、若しこれを以て、個人萬能を說き、民主萬能を信ぜんとするものあらば、其愚や寧ろ憐れむべきなり。個人は飽まで自覺するを要す。これ、社會國家の一員として、十分の寄與貢獻をなし得んが爲めなり。獨り、各個人が各個人として自覺あるべきのみならず、社會や國家も、皆、自覺ありて、自家の任務職分が發揮する必要あるは、個人の場合と毫も異なる所なし。自由といひ、個性の發揮といひ、歷史といひ國粹といふ皆自家獨得の長所を認識して、全體に對する獨得の一地歩を占め、以て、有機的に併合せんとするの意に外ならざるなり。

我が教育社會の振はざるや久し。其の病根は、一に、教育社會が自から悔るによる。教育社會を形ち作る所のもの、小學校教員といはず、郡縣の教育會といはず、行政廳といはず、皆、教育其物を悔蔑し、教育の權威を自覺せずして、徒に阿媚迎合を事とするによる。これ、正しく文明の通義に反す。教育社會は、自ら他の職業社會に對して、一個獨立の地歩を占め得る域に達し居らざるを示せり。見よ。小學校教員の會合には、會長副會長に、醫師や辯護士や金持を戴き、其の指呼のまに〳〵動くに甘んじ、縣教育會には、素人の最も純粹なる素人たる少年理事官の御詫宣を謹聽し、又は、縣會議長などいふ人々を拉し來つて、勅語を讀んで貰ひ、行政廳も、實業家や代議士に依頼して、教育の大問題を解決せんとし、學者や朝野の大家に依頼して、小學校の教科書を編纂せしめつゝあるにあらずや。一言に之を盡さば、事柄を最もよく知りて居るものに、責任も改革も委ねずして、自ら未成年者を以て甘んじ、互に未成年者を以て目せんとしつゝあるなり。吾人は繰返していはん。

小學校のことは、小學教員に任せよ。小學校の改良には、誰よりも小學教員の言說に耳を傾け、小學教員をして立案せしめ、小學教員の蘊蓄を盡さしめ、之を裁するに堪能なる文政當局者の責任ある斷を以てせよ。制度の改革に於て、教科書の編纂に於て。

中學校、高等女學校の教授細目の改正は、全國中學教員全國高等女學教員をして、研究調査せしめよ。校長會議を一年に一度位開きて、極めて大體の教育問題を討議せしむるが如きは、五年に一度位にて足れり。教育の大方針はしかく年々變る必要なきなり。反之、全國英語教師會、數學教師會、地理教師會、手工教師會——の如きは各府縣より數名づゝの選良なる代

表者を派出せしめ、經驗上よりの諸說を盡さしめ、以て、修正の資に供し、時勢の進歩に伴へる改革を行ふべし。一回の會合には、約二百圓の少額あらば足れり、十回之を開くも二千圓、五十回開くも一萬圓に過ぎず、而して、此の結果は、いはゆる大官富豪連の漠々論と相距ること千里なるべし。

高等學校問題、大學問題、高等師範學校問題皆然り。傭兵を以て大事を議するを止め、素人を以て苦勞人を束縛するを止めざる限りは、文教は長へに振ふことなし。文政の局に當る者が、自から矢面に立ち、國家に對して、十分の責任を以て、事に當り、教育者は、それ〴〵自家の職分に對して、自信自任事に當り、教育社會のことは教育社會自らの手を以て進歩の改良を謀るに至つて、茲に始めて分業あり、茲に始めて權威あり、茲に始めて自覺ある有機的統一あるを得べし。事大主義を以て唯一の政略とせる國は滅びき。呪咀逡巡、阿諛迎合を以て能事とせる教育社會は年々歲々其影を薄うせんとす。かくて教育社會は、愈シミッタレ、不景氣を重ねて、誰一人、進んで言ふものなく、爲すものなきに至らんとす。明治天皇は「人心をして倦まざらしめんことを要す」と宣まはせ給へり。今や、教育社會は、車轍を深田に沒してまた動く能はざらんとす。

吾人は、明敏を以て天下に鳴る奥田文相閣下を始め、文政當局の諸士に、我が教育社會に自覺を與へ「人心をして倦まざらしめんこと」を講ぜらるゝことを望むと同時に、滿天下の教育者諸君に檄して、教育を以て身に許し、事教育に關するものにして、自家責任の存する者に向つては、門外漢をして一指だも染めしめぬ丈の自信自任を以て事に當り、以て、分業の本旨を顯明にし、文明の通義に合せんことを求めざるを得ざるなり。

年は大正に入りて既に三つを重ねぬ。幸に、我教育社會も長夜の眠りより覺めて、天下をして、別に、教育社會といふ一個の權威あることをしらしめよ。「なきものは奪はる」若し、荏苒、自卑自屈に甘んぜば、益、踏まれ揉まるゝに過ぎざらん。これ、決して、教育界が、國家の附托に忠實なる所以にあらざるなり。——三・一・一——

八　海國民としての陶冶

游泳の普及、航海設備の整頓、操船術の教育

世界的文化が發達しかけたのは、フエニシャの國民が地中海を利用して、埃及希臘の商業を始めた以後のことで、地中海の利用が、國内の仕事を國際的の仕事に變化した第一階段である。續いて、印度洋が利用せられ、大西洋太平洋が利用せられて、今や四海同胞、水を見ること陸の如く、

茲に初めて、國際的社會關係が現はれたることは、叙說を要しない。

我が日本は、謂ふ迄もなく海國である。吾々日本國民は海國民である。日本國民が海を恐れて偏に安を此島國內に貪らんとする樣では、將來の運命が思ひやられる。我が明治天皇は、英邁の天資を以て、四十六年間の大偉業を成就せられ、明治初年の五箇條の御誓文を綱領として、終始一貫、勇往邁進、國民は指導激勵せられたる結果、東洋の蕞爾たる一帝國をして、世界列强に伍せしむる偉大なる國民たらしめ賜うたのである。今や、南に臺灣あり、西に朝鮮あり、北に樺太あり、吾々は、否でも應でも、海を渡つて、吾々の事業を經營し、進んで、明治天皇が吾々に示し賜はつた使命を全うすることに於て、遺憾なからんことを期せねはならぬ。世界の發展が水に關係し、我が帝國の將來の運命が水に關係して居る以上水を恐れ、海を恐れて、吾々海國男兒は今後なすべき仕事がない。吾々國民教育の重任に當つて居る者は、國民をして、一人だも水を恐れる國民を作つてはならぬ。臺灣へ行くと云つて涙を零し、朝鮮に渡ると云つて、水杯をするやうな、其樣な小規模の國民を養成してはならぬ。

國民教育上、水に親しみ、海に親しむ方針を探つて進む第一條は、泳ぐ事と、國民全部が練習することである。駿河灣頭に於ける愛鷹丸の椿事に觀ても分る通り、あの中には大學生あり、高等師範附屬中學校の學生があつたが、かねて水練の達者であつた者は、皆その難を免かれ、同行した父親を失ひ、若くは先輩を失つたけれども、本人等は、拔手を切つて泳いだといふことである。岸に泳ぎ着かぬ迄も、自信を以て、靜かに、泳ぎながら救護者の來るのを待つて居たのである。然るに、游泳を知らざる者は、過度に驚いて舉措を失した結果、益々悲むべき結果を見るに至つたのである。之に因つて懷ひ起すのは、歐米諸國が、我が日本ほど海に依つて包まれて居ないにも拘らず、游泳に非常に努力して居ると云ふことである。殊に丁秣の如きは、非常に盛んなものである。試みに、去つて丁秣の首府、コーペンハーゲンの小學生徒游泳熱を見よ。全市の兒童一人も剩さず游泳を眞劍に學びつゝあるのである。女の子も男の子も、一人殘らず之を練習して居るのである。瑞典の如きも亦見るべきものである。我邦は細長い島國である。海に接せず、水に賴らずしては、何事も出來ない國民である。將來の國民の教育は、泳ぐことを以て、國民必修の技術としなければならぬ。

次に注意すべきは、近海航行の設備である、吾々は英米獨其他の諸國に於て、親しく運河、內外海峽等を航海したが其の度每に、實に、氣持の好い、立派な船が用意してあつて、汽車や電車のうるさい、不潔なる旅行をするよりは、遙に愉快なることを感心せずには居られなかつた。然

るに、我邦は、陸の交通機關が、次第に改良せらるゝに對し、海の交通機關は、甚だ不整頓である。今回愛鷹丸の椿事の如きも、其の適例である。外海の航海は勿論のこと、内海の航海でも、甚だしきは東京灣内航海すらも、人は非常に恐れを抱かねばならぬ有樣であつて、海に出ることが、常に一種の恐怖心に依つて包まれて居るのは、今日の現狀である。此の如くにして曩其哥に出掛けよの、南洋に出掛けよと云つた所が、是は根本を培はぬ奬勵である。

第三は、船を操縱する術を會得させて置く事である。海國男兒と云ひつゝ、船を一つ動かすことの出來ないやうな者を以て滿ちて居つては、甚だ辱かしいことである。ボートレースも其一の方法であらうが、和船を漕ぐこと、筏を行ること、總て木片一つあつたら、之を利用して、自分の行かんと欲する方面に漕ぎ着けると云ふやうな練習は、全國民に成る可く會得させて置きたいものである。近世治療法の一として居る、斷食法の經驗に依れば、普通の人間は、十二日間位は絶食して居ても、ドシ〳〵平日の如く活動が出來ると云ふことである。假りに暴風雨に會つて、吹飛ばされたとしても、一葉の木片につかまつて浮游して居つたならば、せめて其半分の七日間位は活きて居られさうのものである。無論、寒氣凜烈な候であつたならば、凍死するかも知れぬが、空腹から死なねばならぬと云ふまでには、隨分の餘裕あるものであると思ふ。航海の心得があり、船を操縱する心得があり、十分の自信があつて、心靜かに天命を俟つて居つたならば、恐らく四日や五日は生き存へて居ることは出來るに相違ない。然るに、其等の心得のない所から、擧措を失ひ、過度の心配をして神經を刺戟するから精神的に早く生命を縮めることになると思ふのである。

吾々は、近海の椿事を傳へ聞いて、此際、特に我が國民の海國的思想を養成することについて、特に、朝野の有力者及び教育者に向ひ、一層の努力を希望して止まないのである。

——三・二・一——

九　此の上は國庫補助あるのみ

我國の教育行政に口を容るゝ人士が、揃も揃うて、消極的論者なるは、實に不思議なり。先年、澤柳總長が、意見書を配り、幾分積極的の論をなしたる時、多くの人は、目して國情に迂なりとし、空想論者とし、無責任の論をなすものと評するもの多かりき。かくて、最近數年、益々、消極的政策を行ふに於て、實に力めたりといふべし。これ以上は、教育を止むるより外に取るべき策あるを見ず、吾人は、消極策の實例を、枚擧する迂愚を學ばざるべし。只、最近教育社會に於

ける幾多の悲慘なる現象を目擊して社會學者のいはゆる「運動は最少抵抗の線路を辿つて進む」といふ適例を、遺憾なく暴露せるを惜まずんばあらざるなり。見よ、今日の中等學校の首席教諭主事等、多少上席に進みたる教師が、何等の過失なきに拘はらず、單に經費の緩みをつけんがために、續々諭示免職せられ、十數年、席暖かなるに暇あらざる努力を以てして、一朝、妻子と共に、路頭に迷はざるを得ざる悲劇を演じつゝあるもの頗る多きを。嗚呼、十年奉公の結果が、かくの如き悲慘の運命を生むものとせば、これ實に山々しき人權問題ならずや。而も、積年の餘弊牢として拔くべからざる教育界は、敢て之を以て驚くべき事相とせず、此の鐵槌が自家の頭上に落下して來る瞬間までは、袖手傍觀して止まんとす。朔風枯枝を鳴らして、薄暮道遠し。教育界の光景轉た悽愴たらずとせんや。

吾人は、日本の貧困なるを知れり。消極論者が、身を以て教育の味方たるを許しつゝ、而も、消極策を以て臨まんとする心事を解せざるものにあらず。然れども、彼等は、國政全般に渉る査覈の頭腦を具せりやといはゞ、吾人は大いに疑ふものなり。國家と教育との的確なる關係を解せりといはば吾人之を信ぜず。況んや世界の大勢を洞察せりといふをや。

吾人は陸海軍と競爭し各者と競爭して、文教のために國費の奪ひ合ひを敢てせよといふものにあらず。貧乏國の經營に當るものは、朝野何等の事業たるを問はず、一金だも徒費する勿れとは、吾人の熱心に主張する處なり。我國の國防費と教育費との關係は、恐らくは、英國よりも獨逸よりも、幾分國防に重きを置きて可ならん。然れども、忘るべからざるは幾分のみ。決して甚しき不釣合なることを、我が日本國一つがせねばならぬ理由なきなり。否同じく教育の事業たりながら陸海軍の學校なれば、見事なる施設なるに反し文部省の治下といへば、總て見すぼらしくてよしといふ程、懸隔あるべからざるなり。

吾人は中等教育以上については、暫らく玆にいふことを避け、聊か、義務教育の範圍について一言せん。我が國は、六ヶ年の義務教育を國民に强うる國なり。世界列國が、七八年乃至十年の義務教育を强制して、國民の陶冶平準を高めんとする時勢に當りて、我が國のみが、六年に甘んずるは、民度國情の點より、目下止むを得ざる處置なりとせん。而も例の教育のお味方を以て任ずる元老教育論客の多數は、貧村が、教育費の負擔に苦干の事實を引用して、無雜作に教育費節減と呼び、義務教育延長を說き、三學級二教員をすゝめ、半日學校を本體とせよと說き、約一割は恐るべき肺病患者たる待遇菲薄、營養不良の小學校教員を鞭ちて、のたれ死ぬまで之を驅使せんとす。これ尙、教育の使命を解するものといふを得べきか。

卿等貧民に同情せんとするはよし。然れども、貧民の事情に適合せんとせば義務教育は之を四年にするも三年にするも決して彼等を救ふこと難かるべし。元來、義務とは何ぞ。義務は、之を負ふ人々の能力によつて差等あるべきものなり。百萬圓の資産あるものが必ず一萬圓を投ずる義務あらんや。自己の能力の及ぶ以上に何等の義務を負ふことなし。これ三尺の兒童も解する世界の通理に從ふ時は、能力を異にする多數のものに、一樣の義務を果するは、既に不條理なり。若し最低のものを以て義務の標準とせば、中以上のものは、實は不當に過少なる義務のみを負ふ事となる。かくて、世のいはゆる義務は、大凡平均を見、中準を取つて義務の標準を立つるものなり。我國の義務教育も、貧富の兩極端を除きて、略六箇年を至當と見做したるものたるや疑を容れず。されば、六ヶ年の義務教育は、必ずや、貧民に取つては、負ふ能はざる者たること論をまたず。國家が之を强制する以上は、無能力者若くは少能力者に對して、相當の補助を與へて、始めて一程度の義務を一般に强制し得べきは理の當然なり。然るに國家が親たるものに義務を强ひつゝ、己は何等之に向つて義務を負はず、而も、就學を監督して假借せざらんとす。これ、國家として甚だ「虫のよすぎる注文」ならずや。貧村が苦痛を訴へ、窮民が苦情をならす、理圖より當然たるべきなり。

世界文明國中、我國ほど、國庫補助額の割合少なきはなし、國庫より補助を與ふるは、等しく國民の膏血たるに相違なきも、之によつて平均を得たる教育を行ふことを得るは、多大の利益なり。教育社會が、國庫補助を絶叫して止まざる、大いに理由あるなり。

吾人は思ふ、國家が相當額の國庫補助を支出する覺悟なくば、義務教育制度を布くべからずと。何となれば國家が何等の義務を負はずして他人のみ多大の義務を負はさんとするは條理にあらざればなり。教育は、元來親の自由にありしものにして恐らくはこれ天理なり。國家が絶大の權力を以て親に臨み、其の子を親の手より奪つて、之に六ヶ年間の義務就學を强ひんとするは、國家が、世界競爭上社會組織上、よく〳〵の必要あり、よく〳〵の覺悟あつてのことならざるべからず。世界列强に伍し二十世紀の活舞臺に立つ日本國民として、一程度の陶冶を必要不可缺と認めたるによる。果して然らば、貧村に對し、國民に對し、國家が、如何なる態度を以て之に臨むべきかは、義務教育令を布く數十年の昔に於て、斷乎たる覺悟あつての事なりしなり。

卿等、眞に國家の前途を思はゞ、先づ、一國の行政全局に向つて節すべきを節すべし。「最少抵抗の線路」を趁ひ、弱いものをいぢめて、一日の安を偸まんとするが如きは、策といふものにあらざるなり。策なくんば默すべし。策あらば、今少し、世界の議理に合する策を考へて、然る後

に世に問ふべきなり。吾等は卿等、十數年來の消極政策、而も其の甚だ徹底せざる愚策によつて、既に業に、國家のために、教育のために、多大の禍を蒙れり。此の上、更に之を重ぬべき義務も雅量もなきなり。これ敢て反省を乞ふ所以なり。——三・三・一——

一〇　創刊十周年記念號發刊の辭

我が「教育研究」は、發刊以來年を閲すること正に十星霜茲に、創刊十週年の記念號を發行して、聊か祝意を表するに至れり。吾人は、謹んで滿天下一萬二千の讀者諸君に向ひ、吾等同人の感激措く能はざる衷心の謝意を受納せられんことを希望し、次で吾等のために、直接問題に同情を垂れ示教を賜はりし朝野の縉紳各位に對し、及び、本誌生れて以來、本誌の經營のために、多大の援助を與へられたる諸君に對し、同人今日の喜びを分たれんことを冀はざるを得ず。顧みれば我が「教育研究」は、其の外形内容に於ても固より、東洋日出の新興國に於ける教育雜誌として、何等誇るに足るものあるにあらず。吾等同人、識低く才拙く、徒に窓々の苦衷を存して、更に事效の之に伴ふなきを恥づと雖、吾等は、生の盡くる限り、教育と終始するを以て、無上の光榮と確信して疑はざるもの、若し、世間の同情を繋ぎ得るものありとせば、唯、一眞摯あり一誠實あるのみ。幸にして、吾等同人の微衷は、江湖諸彦の諒とする所となり、消長盛衰の定まらざる今日にありて、本誌が終始一貫、而も、隆々たる幸運、唯進むあるを知つて退くあるを知らざりしは、偏に、滿天下諸彦同情の賜に外ならず。惟ふに、大正維新の前途、吾人教育者の奮勵努力を要するもの、比々皆然らざるはなし。吾等同人、益々駑馬に鞭ち、時勢の進運に伴ひ、斯界のために奮戰して、江湖諸彦の知遇に酬ゆる所あらんとす。創刊十週年に當り、茲に恭しく、謝意を表す。——三・四・一——

一一　文部省内に常設研究機關を置くべし

一木文相は、從來の手腕に徴して、確に新内閣の一智囊たり、文相としても、歴代文相の一異彩たるべし。吾人は、此の意味に於て、文相の就任を衷心歡迎するものなるが、就任匆々難問題を提出する樣なれども、吾人は、教育の着實なる改良上、どうしても、此の必要を確信して疑はざるものなるを以て、敢て一言すべし。

文部省を、治め難き所といひ、教育家を、御し難き者といふは、眞赤な嘘なり。治むるに道を以てし、御するに法を以てせば、之程大人しき社會は、恐らく外になかるべし。然らば、何故に

今の文教界が、外、社會より輕侮せられ、内、部内の不平を絶つ能はざるかといふに、今日までの文部當局者が、殊に善意を以て事に當り居るに拘はらず、改廢が往々實地の背馳に中らず、施設往々實際の要求と矛盾するが如きことありて、動もすれば、教育界をして、一時の彌縫を事とするにあらずやと思はしむることによる。一言にいへば、内外教育の實相に適合せざるによるなり。若し實相に精通して、時勢に合し國情に照して、是と信じたるものを斷行し、十分責任の矢面に立つの覺悟を示さば、天下靡然として之に歸せんのみ。然るに、事茲に出でず人氣を伺ひ老人に氣兼ねし、單に日々勃發し來る事件のカタツケのみを以て滿足するが如く思惟せらるゝは歴代文相のために取らざる所にして、文部省内高等幹部の爲にも取らざる所なり。奥田文相は、智慧ある人といはれたれども、遺憾ながら、教育の方面にては歴代的なりき。殊に、教育調査會の如き尾大不掉のものを設けて、何か責任逃れでも企てたるが如く解釋せられ、世人をして氏の誠意に疑をはさましめたりき。教育調査會は、名の如くに眞に調査研究能力ある適任者を任じて、眞の調査研究機關たらしめば、天下何人も異議あるべきなし。今日は、分業の社會なり。各人それ〴〵、其の能に任じ、一生の心血を濺いで研究し調査するも、尚、世界の大勢、國内の實情を捕捉し得ざらんを恐る。況んや、門外漢、一日の會談によつて、肯綮に中る建策も、時勢に適切なる調査も出來得べきものにあらざるなり。有體にいへば、教育社會は、今の如き教育調査會には、何物も期待し居らざるなり。從つて、かゝる所にて決議したればとて、教育の實際家を、毫末も鎮撫することも啓發することも出來ざるべし。教育家は、「餘り見當違ひのことをされねばよいが」といふ位に思ひ居るのみなり。若し之を以て、教育言義に重きを置かんとか、教育問題を可重に扱はんとかいふ趣意ならば、恐らく見當違ひなるべしと信ずるものなり。故に、眞に、調査力、研究力ある斯道の專門家、斯道の實際家を網羅して、常設の研究機關とし、文部省の高級役員も常に參加して、審に、内外の教育事情を調査研究し、其の愼重なる調査の結果を實行するに當つては、責任を他に嫁する態度なく、斷乎として決行すべし。これ、治むるに道を以てし、御するに法を以てするものなり。辯ずるもの曰く「官立系統の人には、何時も聞く機會あり」と。嗚呼果して何時も聞かれしや。曰く「素人の意見が、却つて要領を得ん」と。然らば、國防問題も、博覽問題も、皆素人に依賴すべきか。斯かる俗論は、今の教育は、世界の學術と何等交渉なきものなりと信ずるほど、それほど教育について知識のなき漠然漢の漠然觀のみ。時勢を知らざるの甚だしきと、之を公言して憚からざる盲男とには驚かざるを得ざるなり。——三・五・一——

一二　掃除の是非

近頃、小學校の掃除について、可否の論をなすものあり。遠山醫學博士は、國民新聞紙上に於て、掃除の恐るべきものなるを報導し、香川縣知事の如きは、掃除禁止の命を發したりと傳へられ、地方の教育家より、吾人に向つて、意見を徵せらるゝ向少からず。これ、一言の止むなき所以なり。

一口に掃除といへど、程度も方法も色々ありて、決して一概に論ずべきものにあらず。第一に生徒をして、通學の際使用する靴の儘昇校せしむるか否かによつて相違ある。若し上靴と下靴を區別する場合には、室内は決して甚だしく汚るゝことなきが故に、掃除は左程危險なるものにあらず。況んや、村落の小學校の或るものゝ如く、徒跣の儘、上草履をも用ひしめざる學校にして、日々の掃除を怠らざる學校の如きは、家庭に於ける緣側、板の間と何等擇ぶ所なきまでに、光り輝き居る所少なからず。かゝる學校の掃除の如きは、何等の危險なしといふも過言にあらざるを見る。之れに反し、土足（勿論靴に限る）の儘昇校を許す學校、又は、往々都下の私立學校などに見るが如く、駒下駄高下駄の儘にて昇校するを默認し居るが如き所にありては、塵埃の飛散甚しく、掃除の頗る危險なるのみならず、掃除其の物の意味も甚だ薄弱なるを見る。これ固より一考を要する問題なるべし。第二、掃除の方法も多種多樣なるべし。單に掃くのみにて拭かざるもあり。中には、一日に幾回も拭く所もなきにあらず。概していへば、掃除を叮嚀にする學校、掃除を度々する學校など掃除より受くる害は却つて少なかるべし。これ、常に清潔を保持し得ればなり。反之、一週一回掃くのみなりといふ學校の如きは、塵埃を飛散せしむるために掃除するに過ぎざるが如き觀なきにあらず。これ勿論問題なり。故に、掃除に注意して毎日叮嚀に掃除し居る學校は、掃除の害寧ろ少なかるべきなり。我等は、掃除について各種の經驗を有す。而して、結論は此の如し。「上靴と下靴とを區別し、毎日一回以上掃いて拭いて居る學校ならば、決して衛生上害あるを認めず」と。現に、我が東京高師附屬小學校に於ては、明治四十一年以降この意味の掃除を行ひ、職員生徒共々に之に當り居れども、これがために、傳染病が增加したることもなく、缺席者が增加したることもなく、反對に、利益は數へ盡せぬほどあるなり。惟ふに醫者の中にも、御用醫者風の軟派と自由主義的の硬派とあつて、必らずしも一定せざるのみならず、教室の片隅の塵埃に、黴菌が幾種ありたりとて、直に掃除を云々せんは、可笑しとも可笑し黴菌は吾々の爪の間にも吾々の食物の間にも澤山あり、中には有益なるもの少なからず。假に其の中の幾

種かは、確に有害なる黴菌なりと決定したりとも、かゝる場合に、掃除を廢止して如何にせんとするか。掃除せざる時は其の黴菌は床板に固着して室内に飛散もせず增殖もせざるものなりやといはば、誰人も然りといはざるべし。然らば、病毒にかゝりてもよいと見做された小使をして、今日以上叮嚀な掃除せしめよといふに歸せん。然り、吾々は、學校に多くの小使を使役して、叮嚀に掃除せしめよといふ說其物には、何等反對すべき理由なし。縣知事が「學校には、それだけの小使なくては叶はぬものなり」として、ドシ〳〵小使を多く使役せしむるたけの經費を供給するには、毛頭反對せざるべし。乍併、こは、事實、不可能なるのみならず、よく經費がそれを許すとしても、吾人は、果してこれほど神經過敏なる施設が、理想的の教育方法なりや否やを疑ふものなり。かゝる筆法は兒童又は家族をして、一家の掃除をなさしむることをも、肯定すべき理由を見出し難からしむべし。各家庭の片隅の塵埃には黴菌なし」といふ確證は何處かにこれありや。更に笑ふべきは、東京市を始め、塵埃の甚しき所、別けて風の日には、道路咫尺を辨ぜざる日少なからず、而して道路の塵埃は、矢張幾十種の黴菌あること勿論なるを以て、道路を歩行することを禁じ、體操や散歩を止むべきか。果してかくの如くして、百歲の長壽を保つが如き健全なる國民を養成し得べきか。

行政官や醫學者は、一寸の思ひつき、一二回の塵埃檢鏡にて、直ちに禁止とか危險とかを呼ぶ前に、先づ、實際兒童と供に掃除しつゝある教育家と熟談して徐ろに掃除方法の改良を企圖すべし。掃除の結果、教師生徒に如何なる病氣が流行し傳染しつゝありやを調査すべし。又、各校について掃除の情況を視察すべし。而して、禁止する場合には、之に代る良方法を指示し、實行すべし。只、漫然として之を呼號し、或は監督權を暴用して突然諸種の訓令を發するが如き、甚だ輕卒の擧措なりといふべし。吾等は香川縣知事が、掃除禁止の訓令を突然發したること、果して世評の如くなるや否やを知らず。又よし禁令を發したりとも、そは、突然にはあらずして、實地の教育家と共に調査したる結果、十分なる善後策を具して然る後に發したるや否やを知らずと雖、かゝる問題は、單に醫者の問題にもあらず、單に行政官の問題にはあらずして、同時に實際上に色々の理由ある一個の教育問題たるを記憶せんことを希望するが故に世說を假りたるのみ。吾人は、他日、我校の調査を、多少詳細に報告する時機を俟たんとするものなりと雖、豫め、吾人の態度を告白して、滿天下の同好諸君の參考に供し置くものなり。——三・六・一——

一三　尙思想に覺めよ

我國の昨今が、道義的に覺醒し、各種の方面に、風教の刷新を企圖せんとするのは、吾人の痛快を感じつゝあるところなり。日本の德教が、宗教の力を藉ることなしに、果して如何程まで、信用の出來るものとなり得るかといふ問題は、海外の先覺者の、期待と疑問とを以て、繰り越しされつゝある疑問なりき。吾人は、近時の政界が諸種の罪惡を爬羅剔抉するを見し時、一たびは世界の手前に恥づること大なりしと同時に、宗教なき道德國にも相應の制裁の力あるを示すことを得たるを喜ばざるを得ざりしなり。道義界は、かくして覺醒したり、かくして驀進して可なり。

乍併、尙、根本問題の日本人の奥底に潛めるを見る。何ぞや、根本思想の問題なり。世界的人生觀の問題なり。吾人は今の時に於て思想界の偉人少なきを悲まざるを得ず。否、偉人の少なきを憂へず、更に思想界の麒麟兒なく、風雅なきを悲しまざるを得ざるなり。今の新聞記者の思想を論ずるものなどに、アメリカ邊りの民主黨の低級思想を祖述するものはあり。今の文士に、佛蘭西邊りの墮落思想を鼓吹するものはあり、かゝる思想は、勿論、英國にもあり獨逸にもなきにあらずと雖も、此等諸國には、低級思想とせられ、一部に行はるゝ思想とせられ、今日の歐米は、決してかゝる思想によつて實際の運用をなしつゝあるにあらざるなり。我國の論客は、歐米に行はるゝ民主黨や勞働者階級の思想のみを高調して、空驚ぎをなしつゝある間に、歐米諸國は國民教育を說き、公民の團結を敎へ、國家教育を策し、着々として、國家の利權を獲得し、國運の發展を策しつゝあるを見る。英國に年々提出せらるゝ教育法案の精神は那邊にあるかを思へ。獨逸が、最近四五年間に國民としての教育を如何に鼓吹し居るかを思へ。最近に露西亞すらも義務教育令を布きたる所以を思へ。亞米利加は、一面民主的の國なれども一面に於て近時著しく、社會的試練、共同的精神、團體的生活を幼年時代より實行體認せしめよと絶叫しつゝあるを思へ。吾人は、我國の大學が、法科の全盛を來し私立大學といへば、法科大學たるが如き奇觀ありし當時既に警戒を與へて、此事は、必ずや、他日恐るべき何物かを結果すべしと斷言せり。我國の大學は、法科の全盛に續いて、工科一時振ひ、醫科今や大いに振ふ、而も文科大學の振はざる事十年一日の如きなり。これ、日本の思想界のために悲しむべき現象なり、日本は、今少し思想を重んずる事を學ばざるべからず。これ人間の根本發足點なればなり。この根本的精神なくして徒らに拚當を携へて役所に通ひ、この根本覺悟なくして徒らに算盤をはじく、これ、斷々乎として危ふき所以なり、自動車にてかけずり、電話にて號令する程、それほど其の危ふきを濃厚にするに過ぎざるなり。

吾人は文科大學に、今少し人材を吸集する方策を立てんことを切望す。中學校の教育たらしめ

んなどの如き看板にては到底文科大學は繁昌せざるべし。思想の人は、政界にも事業界にも言論界にも等しく必要なり。少なくとも、法科と同等以上の遣ひ口を有するものなり。若し、文科大學の優等卒業生を擴張として、初老中老となれる時、卒業したての法學士に頭を抑へらるゝ如き制度を立て置きなば、末來永刼、文科大學は繁昌すべき理由なきなり。

吾人は、一文科大學のために氣を揉むものにあらず。日本人が、思想界の盲者となり、低級思想家、似非思想家の跋扈跳梁を許して、國民を邪に導くの害毒恐るべきものあるを思うて、一言を禁ずる能はざるなり。今や、ベルグソンを讀み、オイケンを論ずる風あるは、日本國民に、たしかに思想を要求するの證左なり。物質以外名利以外或るものを要する證左なり。而して思想を論じ、思想を紹介するもの果して其の人を得たりやと問はゞ、吾人は大いに疑はざるを得ざるを感ずるものなり。何となれば、案りに舶來の說を有り難がるのみにして、我國古來の學說との交渉を究めず、彼我の國情を究めず、又此の思想と我國の將來との關係を十分公平に批評する人少なければなり。

衆愚に媚び俗衆を煽動して得意とする賣文者は玆に論ずるの價値なし。吾人は、三宅（雪嶺）桑木、井上等の諸博士を始め斯道に興味を有する人々の奮起を乞ひ、我が日本の思想界のために今一層社會の實際に接觸し、適當なる指導法を講ぜられんことを希はざるを得ざるなり。

——三・七・一——

一四　時勢と教育

生きた教育者は、時勢を解し、時勢を指導せねばならぬ。此の意味に於て、吉田松陰先生は生きたる教育者なりき。福澤諭吉新島襄先生の如きも、之に近きものなりき。今日の教育者は然らず。教授要目を文部省にて作つて貰ひ、教科書を文部省で編纂して貰ひ、教案の樣式を郡小學校長會できめて貰ひ、ヂャン〳〵と合圖の鐘の鳴りたる時、此の時間は國語の講讀なり、修身の作法なり算術の應用問題なりといふのみ。教科書の幾頁より幾頁までと片附けねばならぬといふのみ。かくて、教育者てふ尊き仕事は、技手の如く職工の如きものとなり了りぬ。

教育は、一面に於て、世界の道義に則るべきと同時に、他面に於ては、場處と時と開化の程度とによりて、變形せらるべきものなり。一言でいへば、教育は、普通の眞理を、時勢てふ秤量（バカリ）によつて加減せざるべからざるものなり。吾人は、世界人類を教育すると同時に、何國の國民、何縣何郡何村の人民を教育するものなり。此の意味より見れば、教授要目などは、大體の參考資料

たるに過ぎず、國定教科書は、平均點としての參考材料に過ぎずして、生きた教育を行ふ生きた教育者には、固より運用の余地多々あるものなり。

教育者は、單に學校教室内の行動に於て、右の如き自由を有すべきのみならず、尙一歩を進めて、社會國家の過現未を洞察し、一村一町一郡一縣の先覺者となり、俗に入つて俗に汚れず、よく、徹底せる見識と、執着力の强き熱誠とを以て衆生を指導することを望まざるを得ず。「吾をして、小學教師たること五十年ならしめよ。よく天下の形勢を一變せん」と喝破したる獨逸の志士を目して、巢鴨の病室の標語たるべしと冷笑すること勿れ。一人の教師或は之をなすことを難んぜん。然れども、滿天下の小學校教師、結束して五ヶ年間合せよと令しなば、天下は合するに相違なし。教育の効果は、悠久なるものに相違なきも、隨分敏速にも効驗を現はすものなり。日清戰爭當時に、黃海の戰の話をきゝ居たる小學兒童は、日露戰爭當時には、日本海戰の勇士たりしなり。

教育家、殊に小學教師諸君中、技手たるに甘んぜず職工たるに甘んぜずして、眞に活きたる教育者として、働き甲斐ある教育を施さんとせば、今日以上に、よく天下の形勢に注目することを力めざるべからず。現代は、外形上、物質上、如何なる時代になりつゝあるか。內部上、精神上如何なる時期に頻しつゝあるか。世界の形勢を見ること之を掌に指すが如くして、玆に始めて、眞の社會後繼者を養成し得べきなり。

今や、日本は、內外國債二十有餘億、昨年一昨年の貿易の帳尻は、輸入超過一億餘、頗る情けなき經濟情態に立てり。而して、前山本首相が、苦心慘憺の結果、節約したる金額は、約六千萬圓、吾人は山本前首相の努力を多とするも、六千萬圓はソレホド吾人の魂消る程の大金なりとも思はざるなり。吾人は節約としては、これ以上節約し得ざる事を信じ、又、節約する必要なしと信ず。我日本、如何に貧國なりと雖、國政を阻害する恐れあるものまでを惜んで、節約して費ふ必要はなきなり。我々日本國民は、寧ろ、積極的に、それ丈の金を働き出す覺悟あるを要す。六千萬圓の金は、六千萬の日本人に割り當つれば、一人一圓の目くサレ金なり。端た金なり。日本國民が結束して日々三厘の仕事をなせば、六千萬圓は直ちに浮ぶことなり。一家五口と見るも、一家の戸主が、一日に一錢五厘だけ働き出せば、六千萬圓はピョイト浮び出るものなり。若し、一奮發して、三錢づゝ働き出せば、直に一億二千萬圓となるなり。若し一層奮發して一日に六錢働き出せば、二億四千萬圓はピョコンと浮び出ることなり。日本國民如何に痩腕なりとも、五人中の一人か、一日に六錢を働き出す能力なかるべきか。吾人はしかく日本國民を甲斐なきものと

見做すこと能はざるなり。要は、日本國民の覺悟足らぬためのみ。自覺の深からざるのみ。之を啓發し激勵する教育者＝小學教師＝の熱烈痛烈なる意氣足らずして、少年の心膽に燒きつくること能はざりしのみ。

之を、道德界に見るも然り。之を學術界に見るも然り。之を職業界に見るも然り。我が國に志士なし。我國に國士なし。志士國士全くなきにあらざれども、誠に少なし。殊に、教育界にこの意志あるもの少なし。これ、教育が、末を趁うて本益々枯るゝ所以なり。

時正に盛夏、人は炎熱の高きに苦しまんも、吾人は、讀書の暇長きを喜ぶ覺悟あるを要す。此の場合に當り、日本の社會國家の性質、經濟の現狀、政治、道德、外交、國防等に關する第一流の人々の著書幾冊を執つて、諸君の思索の伴侶とし、靜かに日本の天運と、吾人の使命とを悟得し來るべし。これ、教育者修養の第一義なり。然り教育者修養の第一義たるなり。

——三・八・一——

一五　人種問題と教育

日本人と白哲人との接する所に、必ずしも、人種問題をひき起すとは限らず。何となれば、日本人の優等なるもののみ往來する所には、此の現象なければなり。獨逸に在留する日本人は、常に二百を下らず。而も、未だ嘗て、日本人の排斥を聞かざるなり。所謂黃禍說は、獨逸に於ては、寧ろ日本人に秘密を示す勿れ、日本人には油斷をする勿れとの聲にして、日本人排斥よりは、日本人畏敬若くは、畏怖と見るを至當とす。然るに合衆國の西海岸に於て、加奈太に於て、濠州に於て日本人排斥の聲を聞く所以のものは、劣等なる日本人種の相赴く所なればなり。居を卜すること十數年にして、尙、英語を解せず、白人と思想感情の交換をなすを得ず、歐米の風習を解するを得ずして、單に下等の勞役に服し、品性下劣風儀醜惡、依然として改むる所なしとせば、かかる人間を排斥するは、獨り、歐米人のみにあらざるべし。これをこれ思はずして、新渡戸氏や島田氏や江原氏や添田氏に依賴して、二三回の辯解演說をして貰ひたりとて、米國民の日本人憎惡の情を一洗し得べしと思ふは、甚だしき幼稚なる考なり。一二回の演說を聞きて日本人に惡感を懷く樣になりたるものならば、一二回の辯解演說によりて、或は之を雪ぐことを得ん。然れども日本の下等社會が、裸體同樣になつて橫臥し、ブラットホームに立小便し、十年立つても二十年立つても、言葉も理解せず風習も學び得ずして、單に低廉なる賃銀の下に、日傭取たるに甘ぜんとせば、事實上、人間と豚との中間に位する人種に過ぎるが如き感を懷かしむる外なきにあら

ずや。吾人を以て之を見れば、人種問題の根本的解決は、教育の力を藉りて始めて根本的に芟除し得べきものにして、辯解演說などの到底効を奏すべきものにあらざるなり。教育の力によりて日本人の一人々々の粒を揃へ、世界人類として、當代の紳士淑女として、正直忠實なる勞働者として、如何にも心地よき、品のよき眞人間たらしめ、溫良謙讓、海外の風習に同化し、世界の人類を調和し得る如くせば、頭髪の黑赤、皮膚の黃白の如き深く憂ふるべき問題にあらざるなり。移民會社にして、單に爺編のヘソクリ金を體裁よく絞り上ぐることを講ずる以外に、國家の體面と移住民の將來とに注意する所あり、政府にして移民教育、殖民學校の經營等に、今少し早く留意する所ありしならんには、加州問題濠洲問題の如きは、或は起らずして濟みしやも測るべからざりしなり。吾人今更之を追究するも詮なきことなるを信ずるが故に、敢て玆に之をいはざるべしと雖、最近の時局は、諸種の紆餘曲折の裡に、一個の人種問題を埋伏するものなるを以て、吾人は、玆に政治教育界の反省を促すために、一言し置くの必要を感ず。いふまでなく、今回の世界的大騷動は、汎スラヴィニズムと、汎ジャーマニズムとの衝突より起れり。日耳曼民族がカイザーの深慮遠謀によつて、バグダット鐵道敷設權を獲得し、他日バルカン半島、小亞細亞を驀進に縱貫して、波斯灣頭に出でんがために、豫め玄關や門前の掃除をなさんとすることに對して、スラヴ民族が、其の門前に兩手を擴げ「トウセンゾー」を試みるに發したるなり。而も、ラテイン人種たる伊太利が、事實上に三國同盟を破壞し、寧ろ、佛國露國に便すること多大ならしめたるは、誰人も、他日、佛伊の聯合よりラテイン民族の一大結束を豫定するものたるを想像せしめざれば止まざるべし。吾人は、かくして、人種を背景とせる新勢力均衡を結果するに相違なしと信ず。然り、かくして、彼等が白哲人種間に小衝突を繰り返して、共に疲れ共に倒るゝ間は、世界平和のためには遺憾とする所なれども、他の民族のためには、安心なるに相違なし、我等日本人は、他人の喧嘩を北叟笑むものにあらざるも、全然北叟笑まざる譯にもあらず、何となれば、人種などを根にもつて相爭ふは、一面愚なるに相違なきも、世の中は、案外愚なることより大事件をひき起すものなればなり。他に白哲人同盟などいふ下らぬことを企てんものでなしとも限らざればなり。

英人が、少數を以て多數の印度人を制馭するや、印度人をして、合同一致せしめず、地方的感情、宗教的異同により常に相排擠せしめ、己れは背後にあつて、巧みに大體を綜べ、治めずして治むるの巧妙なるは、吾人に向つて、暗示する所鮮少ならざるを感ず。

我が日本は、黃色人種の代表者なり。而して、日本人の出稼人のある所、移民のある所、白哲

人の排斥を見るは、吾人の甚しく之を遺憾とし、世の博愛を說き人道を講ずる基督教國民、白哲人種のために、如何にも大人氣なきを忠告したく思ふ所なれども、幾ら辯解し幾ら忠告しても、之を聽き之を納るべき先方が、平氣なる以上は、吾人は何處までも、日本人を以て、世界人類として粒の揃ひたる立派なる國民たらしめ、何處の誰人も、此の氣品ある國民に對して、憎惡を感ずること能はざらしめんことを期するより外なしと信ず。これ逆說の如くにして實は、根本的なる且つ唯一なる解決策なり。かくして、彼等が、尙、人種問題を云々せんか、吾人は、決然起つて、最後の手段に訴ふることを辭せざるなり。

黃色人種の數は少なからず。而も、賴むに足るもの少なし。吾人は、黃色人種の先覺者として今少し、黃色人種を愛撫し啓發し鼓舞する覺悟あるを要す。歐米外交家の尻馬に乘りて、支那を意地めんとするが如きは、決して深謀遠慮ある經世家の爲すべきことにあらず。日本の對極東策は、飽くまでも、善意のものなるべし。平和維持のためなるべし。虎視耽々たる列國の爪牙より「油つこき小羊」を免かれしめんとする以外にあるべからず。嗚呼人種問題は愚劣なる問題なり。而してこの愚劣なる問題は、中々に有力なる問題なり。吾人は、教育者として十分の覺悟あるを要し日本國民は、東洋の先覺者として、黃色人種の誘掖輔導の任あることを自覺し、一に、東洋永遠の平和のために盡力せざるべからず。吾人は大正の國是は正に玆にあるべきを信じて、教育社會が、人種問題の將來に關し、調査研究する所あり。今日の普通教育專門教育に於て、着々その精神を實現せんことを懲慂するものなり。——三・九・一——

一六　教育と政治との密接を要す

今の教育家の如く、何時までも政治を知らずんば、教育家は到底活きた後繼者を養成し得る望みなく、今の政治家の如く、何時までも教育を解せずんば、到底、理想ある、政治を施す見込なかるべし。吾人は、皇國の將來のために、政治と教育との分離此の如く甚しきを悲しまざるを得ざるなり。政治は社會の現在に關し、教育は社會の將來に關す。教育的眼光なき政治は、單に自黨自派あり、目前の掛引機略あり、場當りの媚俗諂態あるのみにして、毫も、社會國家の將來に關する理想なく、遠大なる計畫なきに至る。かくの如き低級政治家の跋扈跳梁は、徒に國家を騷がし、府縣を亂し、郡市に紛擾の素因を與へ、町村に捫着の種子を播くのみにして、吾人の、つくづく現代の政治界に對し愛想をつかす所以なり。此の時に當り、我が教育界には、先天的に政治を知らざる、否、殆ど解する能はずと見ゆる程に遺傳性を有する教育によつて充さるゝを見る。

勿論、教育者が政黨政派に左右せられ、時事運動の渦中に引込まれ、怒號狂奔し、所謂、政治運動に參與して教育者としての天職を等閑に附する如きは、斷じて不可なるに相違なしと雖、所謂政治運動をなし、政爭の渦中に投ずると、政治を解するとは別問題なり。吾人は、政治を解しつつ、靜に、良教育家として立つことを得べし。吉田松陰は、政治を解すること尋常以上なりき。從つて、政治に冷淡なること能はざりしも、而も、彼が、大觀達識、よく時勢の赴く所を察し、單に知見を以て國家のために奮進努力すべき方面を與へんとしたるのみならず、世界の大勢皇國の國是と信ずる所を體し、此の自覺より生ずる熱誠を以て子弟に燒き付けし所に、他人の模し得ざる教育力は存したりしなり。此の熱と誠とは、彼れの時代觀の表心より迸發したりしものなり。治國平天下に理想を置くものにあらざれば、眞に意味ある修身齊家を行ひ得べきものにあらず、志を天下國家に存して、始めて眞に自覺ある教育を行ひ得べし。余輩は、此の意味に於て、今の教育者の眼光を、我が皇國の國是に向けことんを欲す。これ、社會の原理に通じ、外交國防の現狀、法政經濟の消息に通ずるものにあらざれば能はず。若し教育家にして、現代の何物たるかを解すること能はずんば、如何にして、將來の國家に活生命を與へ得んや。今の教育界には時勢の捨兒多し、これ其の倫理修身が毫も學生の平生に交渉を求むることを得ず、其の國語漢文は、當世の活務に接觸點を見出すを得ず、其の地理歷史は、今の戰爭にも明治の活歷史にも關係を生ずること能はざる所以にして、一切の教授が實務應用に迂なる所以なり。極めて稀に、教育界より採集せられたる教育大臣も、外交に內務に軍務に實際に、一隻眼を有し、假令大臣をやむるも、尙當代の世務に關して、顧問役たり、指導者たり得るものなきが如し。品よくいへば、教育界には、脫俗にして婆婆氣なき淸高の士多しといはんも、ムキ出しにいはゞ間口の狹き意氣地なき冷血の人多しといふべし。これ斷じて、青年男女の教育者たり、奬勵者たる教育界の空氣たるべからざるなり。

惟ふに、今の教育界は、餘程用心をせざれば、不知不識、かゝる種類の人間を劇致する傾向を有す。何となれば、教育社會の獻立は、餘に精細周到にして、殆んど根本義、大方針、百年計畫の余地なき如く見ゆればなり。餘地なきにあらずと雖、餘地なきか如き觀を呈すればなり。教制は細かに定められ、教授要目は發布せられ、教科書は畫一に盛られ、教授細目は出で、教案の形式は郡內校長會によつて一定せられ、教案用紙は配布せらる。今の教師は、明日の教授材料を豫料することなしにも、教場に望み得ざるにあらず。況んや、五六年の後をや。今の教育は、時間を畫する合圖の柏子木によつて、教科書の第幾頁目を開閉すれば足る如くなり居れり。今の教

育者は、此の意味に於て、建築家にあらずして技手にもあらずして職工たるなり。單に、三寸に四寸の角を五寸の長さに切斷せよと命ぜらるゝに過ぎず。其の材の、床柱に使用せらるゝや將た便所に使用せらるゝやを知らず、又固より問はざるなり。斯の如くして、營々として辨當を運び、櫛風沐雨之十年、果して、自己の仕立たる卒業生に、如何なる目鼻のつくべきやを知らず問はざるなり。何となれば、最初より五年計畫なく、十年計畫なく、三十年計畫なく、譬へば彼の藝術家が、眼中先づ一個のモデルあり理想ある如くならずして、徒に、鑿鎚とを以て、減多打に大理石を切り崩すが如ければなり。教育者は、見事なる未來を現出せんがために、長短美醜ある現在を知らざるべからず。活社會の甘酸を熟知して、始めて、其の言行は、子弟の朝宗する所となり、一世の師表たることを得べし。教育者は緻密なる用心深き天賦を遺憾なく無駄なく盡さんがために先づ、廣き遠き大望を樹立して、歩々其の理想に近くことを力めざるべからず。大正の教育を誤らず、大正の青年男女を謬らざらんことを欲せば、教育社會は、三たび思を茲に致さざるべからざるなり。——三・一〇・一——

一七　大隈伯の國定教科書論

大隈伯は「世界の大勢と國民教育」について、「新日本」第四卷第十三號に、其の意見を述べられて居る。言々皆、我々教育家の謹聽すべきものである。我々は、伯が、國務多端の折から、よく教育の改良に對して、率直に大膽に論議せらるゝ熱意と、其の國士的態度とに對して、無限の感謝を表白するものである。今は、其の一部たる同伯の、國定教科書論を紹介して、一言所感を附け加へたい。

伯曰く

國民に世界的の見識を與へ、立憲的の訓練を施すについては、我輩は、現教科書の不完全にあらざるかを疑ふ。昔は、人間を働かぬものと見たらしく先祖の代から、依然として、四書五經をのみ讀み習はせられたもので、是が抑も、日本の文化が、甚しく世界の進歩に後れるに至つた所以である。事實、人間は、沈滯して靜なるものでなく、社會は流動して止まざるものである。此に於てか、吾人の思想及行爲は常に、四圍の境遇に順應し、それに伴うて變化を營まなければならぬ。然らば、教育も亦當に常に時代の精神の那邊に存在するかに留意し、不斷に其等の調和を圖らねばならぬものと信ずる。之を然りとせば、時と處とを平等視せる固定せる教科書を持して、時と處との異なる國民の教育に擬するの非理なるは、言を要せずして明かであ

る。此に於てか、實際教育に從事する人々に向つて、一つ御相談がある。是は本の御相談である。共に研究して、其の然るべきものに移らんことを欲する迄である。それは他でない。國定教科書制度の可否如何といふことである。世界の教科書に檢定なるものはない。英にも米にも佛にも獨にもない。列强中是あるは唯墺匈國だけであらう。墺匈國の如き國が我國と教科書制度を同うすることを思ふと心細い。國家は法律によつて大なる力をなすものだけれども、併し、事實は國民の集合である、それ故、國民擧つて皆是とする事ならば、國家もそれに從はざるを得ぬのである。そこで、我輩は、此の國定教科書制度を敢て研究物とするのである。獨逸は王權の最も盛なる處で、官僚政治の本元といはれて居る國柄なるに拘はらず、教科書に檢定なるものを與へぬ。佛蘭西は、自由國乍ら、事實は官僚思想の盛なる國であるに拘はらず、是亦等しく教科書の檢定なるものがない。英亦然り。之等の先進諸國悉く然らざるはなきに、唯一墺匈國あり。偶我國と制を同うするに止まる。

此の言によつて見れば、内閣總理大臣兼内務大臣たる大隈伯爵は、現在の國定教科書制度を以て、研究物である相談ものであるとし、世界中墺匈國のみがやつてゐる樣な制度を、日本がやつて居るのは心細い。國民皆が止めよといふのなら止むるがよいといはれてあることは明瞭である。直言して憚らざる伯にして、始めて此の言あるので、多年教育の實際にあつて、現行教科書の利弊について、多少知る所あるものは、伯の御相談に應じて、十分開陳する所なければ相濟まざる事であると思ふ。

教科書問題は、國民の精神的滋養の品質其物に關する問題であつて、非常に大切な問題である。幾ら、方法を工夫しても、種が惡ければ良好の結果を收め得られるものでない。それ故に、其の國に優良なる教科書の有るか否かは其の關する所、非常に重大なるもので、教育界に、かゝる大なる影響ある問題はさう澤山あるものでない。これまで、筱口訓令の結果認法なる家畜として養成せられたる教育者も、今回は、大隈伯の御相談に對して、詳細に利弊を言上して然るべきである。小學校の教科書を、文部省の手で編纂する樣になつて以來、利益を感じた點は決してないではない。例へば、一手販賣の結果と思はるゝが、教科書の價が安くなつたといふことは、確かに事實で、これは、少なからざる利益であるに相違ない。又、これによつて、教科書屋の醜運動を杜絶し得た點も錄するに足る効績と思ふ。乍併、これ以外に、如何なる利益があつたであらうか。吾々は、殆んど擧げんとして擧ぐること能はざるを遺憾とするものである。反對に、弊害と思はるゝものが多々ある。今其の一二を摘出すれば

一、一體今日の教則規定の上からは、唯一つでよいといひ得る程、明瞭適確に極つて居らぬ。今の所、尤もらしい幾つかの方案を併せようとして、各種の經驗をつみ得る餘地を與へ、地方の事情により、學校の編制により、多少の取捨を自由にする餘地を與へる必要がある。一つの方法をきめて、他を排するのは、今日の固定沈滯を來した原因の一つである。

二、國で編纂するといふことから、兎角責任が重くなり勿體ぶつて、材料選擇が窮屈になる。（例へば、赤穗義士の話を入れてはならぬの何のといふ風）

三、委員制度の結果、編纂が、兎角敏活を缺き、學年が始まつても、教科書がまだ屆かなかつたことがあり、又、あの制度始まつて以來既に何年になるか知らぬが、未だ合級用單級用の教科書を編纂する運びに至らずして、編制の複雜なる學級を擔任して居る教師には、二倍三倍の勞苦を感ぜしめつゝある。

四、教材の繁簡難易は大體義務教育に於て一定し得ざるものに非ざれども、併し唯一種の教科書を以て、僻陬の地も、大都會も、多級學校にも、單級學校にも押しなべて、用ひしむるは、世界何れの國でもないことである。地方の事情や編制の都合により、教授時間を毎週十八時間まで減ずることを得なんて、如何にも畫一でない樣に見える餘地はあつても、肝腎の教科書が、只一種では、何も出來る譯のものでない。

五、教材排列上の順序も、決して或る一方法を以て最良の方法なりと斷ずることが出來ぬ。例へば地理を今日の樣に排列するがよろしいか又、府縣別の地誌を必要とするかは大なる疑問にして、外に、之に優るとも劣らぬ幾多の方案立ち得べきが如きものである。然るを、一定の排列法を定めて、他を許さざるは教授の方法の進歩を阻害すること小でない。

六、教授方法は、日進月歩である。セメテ十年に一度位にても改良せねばならぬ。今日の算術教科書の應用問題、事實問題の取扱方の如きは、一世紀前の方法其の儘にして、かゝる方法にては、算術教授の實効を收むること頗る難し。而も國定教科書は新方法を行はんとするものをして、行ふこと能はざらしむる羈絆たるなり。

以上の六點は、國定教科書制度と必らずしも纏綿して放すべからざるものにあらずと辯ずる人あらんが、實際に於てはこの弊竇を脱し得べき見込甚だ覺束ない。敢て、吾人は現行の制度以外尙他に講ずべき方法あるべしと信ずるものにして、此際廣く滿天下實際家諸君が、盛に其の方案を開陳せられんことを希望するものである。——三・一二・一——

一八　イズムからイズムへ

日本の思想界は、何か新しいことがないかといふ、ウブな單純な要求に應ぜんがために、走馬燈の如く何々主義から何々イズムへ輾轉して行きつゝある。これは、現狀に滿足せぬ所あり、幾分にても改良進歩せんとする氣分あるを示して居る點からは、喜ぶ所であるが、他の一面に於ては、自分の苦心經營の結果、一部分修正をすべき性質のものなるを思はずして單に他人がやつたことを眞似て、手輕に表面だけを繕うて行かうとする、ズルイ横着心、乃至は、毫末も事實上の經驗に立脚することなく、年中書物のみ見て、思想といふものは、丸善の學燈より、萬年筆、原稿用紙を經て、雜誌新聞に終るものなりと思惟して居る空談者によつて、かゝる風習を馴致したのかと思ふと、吾等は、其の不眞面目なること、地盤のないこと、底力のないことに、甚だしく心配せざるを得なくなる。

由來、日本古來の文明が、歐洲の文明に比較して、心強く感ぜらるゝ點は、眞劍な眞面目な文明を有つて居るといふ點である。宗教でいつて見ても、歐米人の樣に、抽象架空の一神說などを外國から借りて來て、抽象的な神に向つた時の靈の生活〻、國家の國民としての肉の生活との間に調和のとれない二元論的、洞ヶ峠的人生觀などを作つて、悟つた樣な顏付をして、滔々傳道にまで來るなどゝいふ文明とは違ひ、現實の生に即して離れざる、至つて眞劍な眞面目なる文明を有つて居るのである。

日本人が神といつてるのは、決して、人間の抽象性を誇張した、實は有りもしないものを點出したのでなく實在のものをさしたのである。

覺めよ空漠なる「イズム」の崇拜者よ。汝には妻あり、汝には子あり。之に衣せ之に食せざるべからず。之に一定の敎育を與へて、嫁を迎へ聟にやらざるべからざるなり。汝には一定の職業あり。夙夜精勵、それが整理と發展とに盡力せざるべからざるなり。この具體的問題を遺憾なく所決せんがためには、汝は、今少し立働き、今少し多くの國稅を拂はざるべからず。汝は汝の子を學校に通はせざるべからず。そは汝が「何々主義」たるには、毫も關係なし、汝が何々主義なるが爲めに、汝の妻子は飲食を要せざる惟物とはならざればなり。カントは、終生妻を娶らず、從つて、彼に最愛の子あるなし。彼の如きは、天下の梁山伯なり。彼の如きは、終生「イズム」に沒頭して、百人前も二百人分も沈思默考すべき義務あるなり。書生は、親の脛を嚙る嚙齒類の動物なり。而して、未だ實生活に接觸する時期に達せず。彼等は、古來のイズムを調査して自か

らの向ふ所を定むる必要と餘裕とを要す。

カントと書生とを除きたる外の一切のものは、皆この世のために奮鬪せんことを要す。奮鬪といふ實生活を、よりよくせんがために、研究も調査もイズムもあらば、茲に始めて、そは有益なる企てなり。この意味に於てのみ、宗教も必要なり。議會も必要なり。

十八世紀末の佛國に於て、寺院は破壞せられ、僧侶は國外に放逐せられ、或は斷頭臺上の露と消えたりし後、數年、公衆禮拜の制度が復活せられたるは「多くの不幸なる人々の慰藉」の泉源として、宗教が必要なりければなり。

然り、實際の必要より出るものは、其の必要に應ずる範圍内に於て、誰人も異議なきなり。我國民として、拉丁民族の如く、輕擧盲動せしむること勿れ。彼等の如く新奇を求め、彼等の如く革命を喜び、彼等の如くして現實的現世的な實際生きて神性を發揮した人を神と崇めて、其の靈に中心の敬慕をするといふに止り。死ぬといふことも、そんなにいやがらず、從つて、死後の穿鑿などは、大してする必要を認めず、死ねばヨミの國へ行くのみなり。ヨミの國とは遠くて暗い所なりと考へる丈にて澤山なりとせる文明である。此所にいふべからざる面白味がある。

佛教等は出世間的な、浮世から大分離れた點に於て、耶蘇教と同じであるが、日本に來ては、實用に使役せられて、奔命に疲れたのである。腹が痛いから加持祈禱をしつゝ惡疫が流行るから讀經をやれ、產があるから拜んでくれろなど現世のために使役せられた結果、此の頃は、疲勞の結果、門戸を狹めて、葬式の方面だけを、專門として落ちついたのである。

禪なども日本では、伊達にやつたのでない。モット度胸の坐つた人となつて、此の世に活動したいといふ眞劍の希望から修養工夫する一つの手段である。死生一如と觀じて、死ぬ時にも見苦しい死に樣をせぬ樣になりたいといふ精神鍛練の實經驗をつむためのものである。擊劍も柔道も、皆現實現世の大活動をせんとする修業の一つである。

古來日本の文獻にあらはれて居る思想上の問題は、大小深淺純濁明暗の差はあるにせよ、悉くこれ、眞劍なものであり、事實上必要を感じての議論であり。目から首を捻つた上での工夫であり、自分で手に豆を作り額に汗を絞つた上での告白であり、經驗の蒸溜、事實の結果であつたのである。然るに、今は、世界中での流行國となつた觀がある。豈今昔の感なからんや。

一體、思想とか理論とか系統とかいふものは、事實經驗を離れては拔け殼である。責任ある言論は、何時も、事實を見ねばならぬ。概念より概念へ、イズムからイズムへ輾轉するのは、何等建設の働きのない人間の遊戯である。書生時代の夢幻乃至カントの樣な獨身者、トルストイの樣な

空想家のことである。勿論、此等の人士も社會國家に警句を放つ丈の面白味はないでないから、之を根絶することを願ふのではない。乍併、國民の大多數がソンナことばかりウナツて居つては、國が滅ぶ。

事實は權威である。事實の前には空論は引つ込まねばならぬ。和蘭の平和宮殿は、今や戲畫の資料となつて貸屋の札が下つて居る所が、描き出されて居る。無抵抗主義のトルストイ伯が、自國民が、好きな酒の一滴をも飲まずに、舉國一致して獨逸と戰ふ有樣を見て、果して罵倒すべきであらうか。基督教主義だ世界主義だなんていふ人々の戰爭論は、隨分らしい樣であるが果して彼等のいふが如く「カイザーは、正義の敵なり。故に十分に打ちこらせ」と神が示し賜ふならば、獨逸國の基督教信者が、何故一人もさういつて出ぬであらうか。

覺めよ醒めよ「イズム」の隨喜者よ。汝の多くは實生活の體驗の効の薄かりし空談者なりしなり。手と足と額の汗とを知らざりし橫着物たりしなり。浮世の風波と戰へることなき寄宿舍の窓の人生觀が、ペンと概念內閣を交迭せしめ、彼等の如く國を疲らし、兵を弱らし、人々を神經過敏ならしむること勿れ。寧ろ、吾人をして、大史家マコーレーが、アングロサキソン民族の採りし方針につきて語る所を學ばしめよ。

體裁を繕ふよりも實際の便否を考へ、變則の所ありとも單に其の理由の下に之を改變することなく、弊害を感じたる時の外は新計畫を立てず、弊害を除くに必要なる程度以上には決して手を出さず、或る利害を必要とする特殊の事情ある範圍以外には新機軸を出さず。斯の如きものこそ、ション王以來ヴイクトリヤ女王の時まで、二百五十の英國國會會期の議事を一貫せる方針なりけれ。

英國民の堅實は玆にあり。實際に徵せよ。經驗に照せ。空談空論は忽に朝の露の如くならん。

——四・二・一——

一九　選擧と教育

本年三月二十五日は衆議院議員の總選擧の行はるゝ日なり。是れ我等國民として、參政權を正當に行使し公民たる責務を果たすべき機會たるのみならず、又實に教育者として、過去に於ける憲政教育の効果を考量し、將來に對する公民教育の方針を確立し、兒童・青年に向つて立憲思想を鼓吹すべき絕好の機會なりとす。東京高等師範學校の卒業生より成れる若溪會は、此の機會を捉へて國民教育者に誡告する所あり、言々吾人教育者必讀の事項たるを失はず。今左に其の要領を

記して、讀者諸君の參考に供せんとす。

一、教育者は立憲國民の師表たるべきを思ひ、進んで自ら選擧の模範を國民に示すべし。

議員選擧は吾人が國政に參與する唯一の途にして、立憲國民の公權なり。此の公權を正當に行使すること、是れ立憲國民の公務なり。若し國民にして、此の公務を忘りて選擧權を放棄し、濫用するが如きことあらんか、政界の百弊ここに萌し、代議政の美名も其の實なきに至らん。然るに我が國民動もすれば、此の重大義を解せず、貴重なる公權を放棄し、神聖なる公權を侮蔑するもの少なしとせず。道途傳ふる所によれば、棄權者中最も多數を占むるものは官吏ならざれば教員なりと、嗟是れ果して事實なるか。若し教育者にしてかゝる事實ありとせば、是れ、公民としての其の本分を忘れ、國民の師表として其の務を怠りたるものにして、其の罪決して輕しとせざるなり。抑々教育者は政黨政派の外に超然たるべく、政戰・政爭の渦中に投ずるが如きは素より不可なりと雖も、權威に懼れず、情實に捉はれず、其の所位に基づきて投票するは毫も憚るべきにあらず、又選擧當日學校の公務を缺くを恐るゝものありと雖も、外國に於ては既に學校休業の例あり、我が國に於てはまだかゝる規定なければ、或は教授時間を繰合せ、或は多少の遲刻・早退をなすの已むを得ざる場合も生ずべけれど、こは決して咎むべきことにはあらざるなり。但此の場合豫め監督者に届出置く等の手續を踐まば最も適宜の處置なるべし。

二、此の機會を學校教育上に利用すべし。

顧みれば憲政實施以來既に二十五年を閲せり。其の間社會各般の進歩は驚くべきものあるに拘はらず、獨り憲政に至りては其の發達甚だ遲々たるの憾あり。抑々憲政發達の根本は之を憲政の教育に求めざるべからず。從つて吾人教育者は立憲思想の養成に向つて平生用意ある所なかるべからずと雖も、特に今回の如き機會を利用し、活事實を眼前に捉へて、教授・訓練を施すことは又最も策の得たるものなりと信ず。言ふまでもなく、學校教育は政黨・政派の外に立つべく、政論・政權の是非をなすべきにあらざらんも、憲政の本義を授け、選擧權の神聖にして尊重すべき所以を明解せしむるが如きは、教育者當然の任務にして毫も疑情を懷くべきものにはあらざるなり。之が爲には左の諸項に注意するを要す。

(一)選擧前、兒童に對して時々選擧に關する講話をなすこと。

(イ)選擧に關係ある修身科其の他の教材は、此の際取纏めて教授し若しくは復習すること。

(ロ)選擧權の放棄・濫用は立憲國民の罪惡なることを悟らしむること。

(ハ)知識の程度に應じ、政界の近況に就いて大略の觀念を與ふること。但し是非の論評を加へず。

(二)選擧の當日は便宜校外教授を行ひ選擧の狀況一般を知らしむること。

(三)今回の選擧に關する美譚を蒐めて教授の資料となすこと。

(四)選擧後、棄權者・違犯者等の統計を示し、選擧に關する注意を喚起すること。

三、選擧に際して青年を指導すべし。

近時青年の指導を以て教育界の一事業となし、教育者の之が爲に盡瘁するもの尠からざるは甚だ喜ぶべき現象なり。而して今回の總選擧の如きは、青年指導上殊に注意を拂ふべき時機なりと信ず。思ふに彼等の多くは年齒漸く長じて略々事理を解し、政變の如き甚深の興味を以て之を知らんことを欲するのみならず、殊に天眞純潔にして情熱に走り、動もすれば、政論を試み政爭に投ぜずば已まざらんとするの慨あり、危險なりといふべし。果して然らば、青年の指導は今日の場合兒童の教養にも增して重大なる意義の存するものありと謂はざるべからず。

——四・三・一——

二〇　民を飢餓より救へ

國民の體格を改良することや、國民の智能を開發することは、我々の從來やり來つた仕事で、今後多大の改良すべき仕事は殘つて居るにもせよ、そは、我々教育者が、責任を以て、之れが充實をはかる覺悟である。然るに、玆に、我々教育者のみならず、擧國一致、大正の國是として、緊急の施設經營を要すると思ふものは、我が國產業の發展である。產業のことについては、日本人は、頗る冷淡にして且つ無智である。殊に、學者、教育者、軍人に於て然りである、我國の武士教育が、金錢を語るを賤める結果、經濟とか富とかいふ問題は、此等社會から遠ざけられる傾きのあつたことは、固より恕すべき事情であつたに相違ない。乍併、日本國民は、やはり生きねばならぬ。これが先決問題である。五千二百萬の人間が、百分の一・三の割合で增殖すれば、年々七十萬人近くは殖えるのである。而も、今日ですら年々の農產物は、內國民の生々繫ぐに足らずして、大正三年度には、米や麥や豆や砂糖の如き食料品だけで、六千萬圓の輸入を仰いだのである。貿易戰に於て、九千萬圓の輸入超過を見たのである、露西亞の如き經濟狀態の危險に瀕せる國ですら、五億の輸出超過をなして居るのに、我が日本の經濟狀態と來ては、話にならぬのである。おまけに、日本の內外國債は、二十五億七千萬圓に上つて居る。大正三年度の正金現在高を見ると前年度に比して三千萬圓減少して居る。かくては、幾ら口に非募債主義を唱へても頓ては、又々借金政策を以て、一時を糊塗して行くより外道なきに至るは、疑を容れぬ運命である。

對支問題は、いふまでもなく支那の領土保全が最善の策で、支那の國礎を堅くし統一を圖るには、鐵道を縱横に敷設して一は、利源を開發し、一は支那の各地に神經を通はせることが最急務であることも明瞭であるが、金利の高い日本の樣な貧乏國は、トテモ、支那に資金を融通することも何も出來ぬ。其の中に、佛英獨白等の豐富なる資金が、ドシ〳〵支那に流れ込むと同時に、利權もドシ〳〵此等の國に獲得せられるのは、自明の理である。イクラ齒噛みをしても、貧乏なる日本には手が出ないのである。此の時に當り、日本の教育者は、日々何を說きつゝありや。國產奬勵といふ言葉を聞いても、何が國產なるかを知れりや。日本に幾つの製造會社ありて、何々の製造に從事しつゝあるを知れりや。而して、何れが將來有望なるものなりや。せめて、農商務省の調査にかゝる最近の農商務統計だけなりとも一瞥したることありや。「生徒はパンを欲す而して先生は相變らずの訓戒に忙はし」と、ジョンデキードがいつたが、日本はソレに疋をかけて居るのである。かゝる先生に何事も空談を吹き込まれたるフィルムたる生徒は、結構、衣食住を超絕したるかの如き理想界の人間となり、呑氣な夢を見る人種と化し去るのである。

樺太は十餘萬町歩の第一期開墾地を提供して、內地人の來り拓くを待ちつゝあるが、來手がない。北海道は廣漠たる原野と無盡藏の海岸とを有して今尙一方里に二百三十九、之を日本全國の平均二千八十七人に比するも、尙、十分の一の密度にも達せざるも、移民は、よく〳〵の「なれのはて星」が、仕方なしに若干來る丈である。朝鮮の米麥棉花、臺灣の米砂糖等、皆大仕掛の改良せられたる經營を得ば、其の生產額を倍加するは、決して困難なりとしない。而も、我國民は、樺太は寒し臺灣は暑し水道の水はつめたし學校の掃除は危險なりと說きつゝあり。かゝる教育の結果は、教育の究竟目的たる「勞働力」を減退せしめ、春風秋雨幾星霜、洋服を着け袴をつけ、中學校を出で女學校を卒へたる時は、既に業に、勞働力を失ひ盡して、ヒヨロ〳〵となりたる時なり。高等なる學校の入學試驗を受くる少數者と御つき合ひに、無用の詰め込みに疲勞して、心身の力を枯渴したる時なり。歷史に於てサラセン帝國興亡の年月日や坂上田村麿の髯の針金の如きことや、怒れるときの眼は蒼隼の如きものなること等は、委細與り聞きたれども、最近世界列强の活動狀態については、頓と風馬牛相關せざる沒分曉漢たるなり。地理に於て、トリポリを叙しベルヂスタンを說くこと喃々たるも、南洋に於ける本邦人の活動、伯剌西爾祕露智利、墨西哥に於ける本邦人の活躍を鼓舞し、此の方面に奮進することは、高等學校の入學試驗に及第すると、同等又は其の以上なることは、オクビにも言はざるなり。高楊子の教育亦甚しからずや。先頃朝野の名士の數十名、帝國大學に會して、戰後の教育方針を談合す。席上添田博士絕叫して曰く「諸

君、人間は先づ食はねばなりませぬ。食ふことも出來ないで、何のための主義でせう。何のための理想でせう。今までの學者教育者諸君は、餘り呑氣に過ぎて居ります」と。吾輩は、至極同感である。武士道をやめて、商人主義の教育を鼓吹するものと誤解速斷することなかれ。武士道の精神を發揮するにも、正當に生きたる上のことなり、國權を伸張するにも仁義を四海に布くも、四民豐かに、武備張り、教育普及し、國民の元氣中に潑剌として、始めて外に發し得べきものである。大正教育の一大方針は、先づ民を餓死より免れしむることである。日本國民は痛切に覺醒せねばならぬ。——四・四・一——

二一　法制經濟科よりは寧ろ社會科

今回の選擧に於て、國民が、確かに覺醒したる如く思はるゝは、何よりの慶事なり、言論戰が兎も角も主要なる役割を演じたるは、掩ふべからざる事實にして、確に憲政の一進歩なり。こは選擧權尊重などいふ抽象論の結果にあらずして、目下我國に政變を生ぜしめて可なるか否かといふが如き、具體的問題に對する國民の見識が、自發的に一票の貴重なることを感じたる結果なり、時勢に對する自覺これ彼等をして情實や利慾を離れて、選擧場に足を運ばしめたる原因なり。從來口に筆に憲政教育を絮說して而も何等の反響なかりしものが、一朝にして喜ぶべき境地に達せしは、時勢の教訓として吾人の愉快に堪へざる所なり。

吾人は、公民教育の必要、立憲國民の教育、法政經濟科特設の必要等の世論を、頻繁に、雜誌新聞に、講話演說に見聞し、而も、常に其の趣旨の諒とすべきものあるに拘はらず、其の方途の盡さざるものあるを疑ひたりき。而して、吾人の疑は、今回の選擧を機として吾人の確信となれり。

元來、徒に權利思想のみを鼓吹するも、其の何故にかゝる權利を要求せざるべからざるを痛切に感ぜしめずんば、そは空名なり。徒に金貨本位の意義を說き資本と勞力との關係を說くも、國民が拮据經營國富を興すの急を切實に感ずることなくんば、畢竟空論のみ。故に、法制といへ經濟といふ空論を談ずる前に、國民をして、熱烈に、世界の大勢、大正の國是、現代國民の覺悟について自覺せしむることを、先決問題とせざるべからず。昔の學問は、支那流の學問にして、治國平天下の經學が、我が國學徒の頭腦を支配する綱領たりき。文科大學も昔は然りき。然るに、近來の文科大學は、法政的の要素を法科大學に一任し去り、法科大學は、法文の解釋に忙殺せられて經世濟民の大理に疎く、而も哲學倫理等人生の大義に關して說く所甚だ乏し。かくて、東洋の精神的文明の精華たりし治國平天下の學は、我國の知識階級界に於て、四分五裂せられたり。

一國の重責を負うて毅然と立つの國士に乏しきに至れるは、明治以來教育の方針の誤れる結果なり。源流既に濁る末流の清きを望むべけんや。故に曰く、高等なる學校に於ては、大に治國平天下の學を起すべし、中等學校に於ても、歴史中の世界最近世（十年間にて足れり）史と、地理中の世界列强の活動狀態と、修身中の大正國民の覺悟とを打つて一丸とせるが如き活知識と牢乎たる意氣と抱負とを打ち込むことを要す。之を何と名づくべきか、治國平天下學、經世濟民學、社會活勢論、大正國是論、大和民族指導論、世界科、何れも甚だ佳ならず、止むを得ずんば社會科と名づけんか。法制經濟科とはいふべからず、又、固より立憲教育といふべからざるなり。市民教育といふが如き直譯語は、更に當らざるを覺ゆ。

曾て、社會的教育學說の勃興を見たる頃、ベルゲマン氏は、社會科を設くべしと說き、其の要旨をも示したりき。當時吾國時期未だ到らず。何等の反響をも與へずして走馬燈の如き他の新學說に輾轉し去りぬ。吾人固より彼れの所謂社會科を復興すべしといふにあらず、只、法政經濟科といふが如きものに比して此の名よりよき名なりと感ずるといふのみ。名は何れにしても可なり。實質は、前に述べたるが如く、治國平天下の大方針を決する具體的知識たるべく、決して所謂法理論に水を和し、所謂經濟學に砂糖を混じたるに過ぎざる、乾燥無味の抽象論たるべからざるをいふのみ。名は何にても可なり。教育の第一義は、かゝる理想識見を確持して始めて其の細目に入り、自家の職業を定め、一生の覺悟を立つる段取りとなるべきなり。

國民の大多數は、昔は、飢ては食ひ渴しては飲み「帝力何ぞ我にあらんや」と歌ふ素朴の民なりき。然れども、時勢の進步は最早此の如き動物的生活を許さゞるなり。一家の興隆一市町村の改良は、實に國家天下に繫る所以を悟り、天下國家を念として、始めて一身一家一市町村を念ふの切なるに到るを要す。已れを知るは却つて難く彼を知るは却つて易し。天下を知り國家を知りて、而して後、眞に自覺せる自己あるなり。

經濟的思想は、先づ日本の學校に於て廢れ、次に、日本の智識階級に於て荒み、今や、現代の政治を論じ教育を說くもの殆んど關せざるが如き情態となるに至れり。會々世界に事あり國内に政爭あり、如何に樂天的なる大和民族と雖も、半夜衾を蹴つて立つ底の念生じ、一片耿々の氣、家國の前途を思はざるを得ざるものあるに至れり。時勢の教訓や大なり矣。

之を學科として設くるを不必要とせば學科とせざるも可なり、之を某科と名くるの不當なるを感ぜばかく名づけずして可なり、之を修身に於て說くも地理に於て說くも之を歴史に入れて話すも、そは敢て問ふ所にあらず。或は卒業間際の一學期間に修身科の時間中に於て之を課するも不

可なりとせず、要は、學校に於ける最適任者が、最も愼重なる調査審議の結果を以て、大正第二國民の頭腦に、此の理想を吹き込み置くことを要すといふのみ。これ、大正の御代に於ける一箇切要の問題たらざるか。敢て江湖に問ふ。——四・五・一——

二三　觀察實驗の學風を興せ

四千五百萬の人口に過ぎざる英國人は、大正三年度に於て、輸出入合計百四十億圓の貿易を營み、六千九百萬の獨逸人が、百四億圓の貿易を營み、四千萬人の佛人、九千萬の米人各八十餘億の貿易を營んで居る世の中に、我が日本人は、五千二百萬人で、僅かに十一億圓の輸出入で、而も、十數年來、依然として輸入超過國である。

農業の成績を見れば、米麥豆砂糖の四大食料だに五千萬圓以上の不足を生じつゝある。國債は二十五億六千萬圓あつて、利息丈でも一億二千萬圓餘を要する。大正三年度の正貨現在高は、之を二年度に比するに、三千萬圓を減じて居る。而も、これは大正三年度に償還すべき二口の外國債を延期してもかゝる始末なのである。一方に、稅金は、世界有數の高率で、所得稅は申すに及ばず、營業稅の如きも、十五割を激增したる戰時特別稅を、今日まで繼續して來たといふ有樣で、生民は旣に其の痛苦を訴へつゝある。

如上の情態を總合する時は、我が日本が、經濟上容易ならざる境遇に立ちつゝあることを自覺せざるを得ない。

翻つて、日本の過去に於ける發達の情況を瞥見すれば、勿論年と共に進歩しつゝあるは勿論であるけれども、米國や獨逸の如き驚くべき進歩に比すると、牛步遲々たるもので、而も、出發點が遙に後れて居るのであるから、全く比較にならぬ。

吾々は過去の日本を窮追するの愚を學ばぬ。中年老年者に拘はらずに成佛さしてよいと信ずる。唯、將來ある新日本國民、今日の小中學の兒童には、世界の大勢に合致する新國是によつて、十分其の魂を作つて置かねばならぬ。

吾々普通教育に從事するものとしては、固より、職業教育に從事するものと違つて、國民を驅つて、直に經濟本位の教育を加ふべきものでないが、根本方針の一つとしては、是非とも、國民の經濟的覺醒を與へることを忘れてはならぬ。國民の經濟的活動の根柢を築くものとして、國民全體に、是非とも陶冶して置かねばならぬことは、科學思想である。殊に物質的科學思想である。由來東洋文明の長所は精神的道德的方面にあつて物質的經濟的方面にない。歐米の文明は全く之

に反し、物質的文明の非常に發達したる場合に、精神的文明は不釣合に熟して居ない。吾々は、其の長所を長所として益々發揮すると同時に、其の短所は、立派に短所として公認し、之に應ずる方策を立てねばならぬ。

日本の學問の仕方は、書冊を見臺に載せ、其の前に端坐して耽讀默想するにあつて、分銅を使ひ、秤量を眺め、金鎚を以て石を碎き、アルコールランプを以て物を熱する樣な、手を汚したり汗をかいたりするものをば、殆んど學問と思はない有樣である。水一升の目方は百八十匁であるか百二十匁であるかを決しかねて、廛劫記を繙き、尙決せざれば性復端書を以て中央都會の學校に尋問する國民である。一寸小使室に行つて、バケツに一升の水を入れて其の目方をはかることの、遙に確實で容易であることに氣のつかぬ國民である。空拳徒手で間に合ふ範圍內では、聞きもし言ひもするが、米を焚きつけよとか水を酌めよとかいふと、眉を顰めるといふ國民である。かゝる氣風は、二十世紀の活動的國民として、當にあるべき態度と、正反對なる態度である。

近頃、埼玉千葉茨城栃木福島山形秋田の各府縣附屬小學校を參觀したるに、理科の敎授は、漸く實物の觀察、實驗實測の必要を悟つて、之を實地に試みんとするの努力に充てり。これ誠に喜ぶべき現象なり。然れども、此等の學校と雖、余輩が視察した時の如く、每回同樣の努力を惜まざるかといはゞ、恐らくは然ること能はざらん。況んや、地方郡村の學校に於てをや。

之を、英獨米等の敎育に見るに、實物の觀察、實驗實測の必要は、之を唱導するのみならず既に業に之を實行して、國の四隅に普及して居る。幼稚園は、金魚を飼ひ金絲雀を養ひ砂山を築き花園を樂しむに氣を奪はれて、何等學校らしき羈絆なく、之を我國の幼稚園が、室內に幾何學形の埒を描いて、二十日鼠や山雀の藝當の訓練をなすが如きに比して、霄壤の差がある。歐米の小學校が、兒童各自に實驗視察を樂しみつゝあるに、日本の小學校は、全く、實驗を缺くか、然らざれば、敎師一人舞臺でやつて見て、他は申譯に瞥見して點頭けば足るといつた風である。かくて、第一印象が不確實に茫漠して仕舞ふ。第一印象！これ、吾々が、最も明瞭に最も判然と、事物其物から得させねばならぬものである。これは、大厦高樓の煉瓦である。未來如何なる思想上の大建築をなすにもせよ、最初に取り入れられる印象明瞭判然たらず、基礎となる感官的知覺を缺かんか、其等を要素として組み立てたる一切の建築物は、結局、不徹底不確實なるものたるを免れない。

物理化學博物生理は勿論、算術に於て地理に於て、苟くも、該學科が、任じて以て自家の領分と見做すべき事項に關しては、最初の印象を與ふる際に於て、直實の用意あるべきである。然り、

實驗觀察は、二十世紀に、一大活躍すべき前提として、日本國民全體に、先づ、覺醒修養せしむべき一大緊急事である。今や、御大典を記念すべき事業として、理化研究所、工藝研究所との設立が唱導せらるゝは、吾人の最も贊成する所である。——四・六・一——

二三　健全なる輿論

健全なる施設には健全なる輿論を後援とせざるべからず。輿論を無視するは、固より嘉すべきことにあらず。然れども、顧慮せらるべき價値ある輿論は、健全なる輿論たらざるべからず。輿論を尊重せよといふ呼聲の高きは、一面に於て正當の要求なると同時に、其の輿論が果して健全なるものなりや否やは、十分に考慮を要す。

何ものが果して輿論なりや。歌舞伎座や松本樓や、錦輝館、青年會館等に於ける、數回の演說の結果、群衆心理中のものとなり、無我無中となつて暴れ狂ふの徒は、針小を以て棒大となす類にして、固より健全なる輿論の代表者にあらず。

新聞の所論は如何。こは、演說會場の喧囂たる間に成立するものよりは、讀者が、離散し居る點に於て、感情的興奮の度、前者に比して、多少低減せらるゝ利ありと雖、一方に於て、何回も之を繰り返して讀者に强要し得る便あるが故に、記者にして、執念深き我意を押し通すことのみ熱中するものなる時は、假令、識者よりは反感を深うするに過ぎざることにても、多數の無定見者を引きつけて、これぞ天下の輿論たるべしと誤認せしむることなきにあらず。記者にして、兩端を叩いて公平に批判し健全なる輿論を代表する機關たらんとせば、決して能はざるものにあらざるは勿論、新聞紙中には、略之に近きものありと雖、こは、中正不偏の主張を有し、資金豐富にして基礎鞏固なる大新聞にして、始めて企圖し得べきことにして、人氣に投じて、苟くも唯賣らんことを第一とせざるべからざるが如き新聞に至りては、健全なる輿論の代表機關を以て目すること、到底不可能なるを常とす。

雜誌は新聞よりも尙理性的なり、政治論にせよ、經濟論にせよ、雜誌の所論は、多くは、新聞よりも精密にして、理義を盡すことを得るの便あり、且つ新聞の如く、日々刊行して、反復することなきを以て、肯定論と否定論との間に、若干の時日を假し、情熱の昂奮より醒めて、理智の批判を加ふることの餘裕を有す。又、社會に於ける雜誌の講讀者は、新聞の講讀者よりも、遙に少數にして、智識の程度に於て、稍高級に位すといふことを得べし。近時外交の是非、軍備の不急、不當支出か正當支出か等の議論は、新聞の所論よりも、雜誌の所論に於て、比較的公平の議

論多きは、蓋し必然の數なり。然れども、讀者の少なきと回數の少なきときは、輿論として、社會を指導する力に乏しきは、爭ふべからざる事實なり。書籍は讀者の數に於て、雜誌よりも一層少なかるべしと雖、其の內容に於ては、一層委曲を盡し精密を加ふることを得るが故に、知識的要素を加味すること、雜誌に優ることあるは疑なし。然れども、書籍中には、眞に、天下國家のために、眞理を宣傳せんとする志より出でたるもの以外に劣情に媚び、俗衆に諂ふ三文文學の類なきにあらず。かゝる低級の書籍は、委曲を盡せば盡すほど、人を誤る恐れ多きに至ることも自然の勢なりとす。

要するに、演說、新聞、雜誌、書籍等は、輿論構成の有力なる機關なりといへども、眞に健全なる輿論を代表するものは一もあるなし。之れ吾人の、誠に遺憾とする所なり。

吾人は、健全なる輿論の源泉は、敎育を措いて他に之れなしと信ず。敎育者の子弟に對するや、群衆中の演說家の如く、何等かの割り增し割り引きをなして、俗衆の調子に迎合するを要せず。低級小新聞の如く群衆に諂つて、苟くも賣らんことを要せず、唯、善正美眞を啓發誘導して子弟の判斷力を培養するを以て任となす。世に惡言論あるも之に耳を傾けず、世に惡新聞、低級雜誌、危險書籍あるも、之に惑はされざる國民を作らんとせば、敎育を措いて他に求むべき道なし、敎育殊に、普通敎育に於て、國民の常識を養ひ、公平の批判力を有せしむる時は、俗演說、惡新聞、醜雜誌、劣書籍は、漸次其の影を薄うし、健全なる輿論、始めて萠起せん、人は輿論を畏す。而も、笑ふべきものが輿論の假面を被るは、輓近の惡傾向なり職に普通敎育の任にあるものは、自己が、社會の健全なる輿論を樹立せんがために、至大の關係ある職務に從事しつゝあるものなることを自覺せざるべからざるなり。「國民の健全なる發達は普通敎育の振興に俟つ」や大なりといべし。——四・七・一——

二四　百の空論より一の經驗

日本の敎育界には、モット事實に對する愛着がほしい。實經驗に對する尊重の念がほしい。事實から絞り出し、經驗から割り出したるものには、假令、缺漏あり過不及あるにしても、尙、一段の掬するに足る味があるが、此の根柢のない言議は、形式に於て整ふ所あつても嚙みしめて見ると味の出ない空言虛論である。

今日は、平安朝でもなく、歐洲の中世紀でもない。世の中は、鐵石相摩して火を發しつゝある劇烈なる競爭の世の中である。人はなすべき事多くして其の暇を得ること難く、十九世紀を以て

過勞の世紀なりとしたりし者、今や、二十世紀を以て、困沛斃死の世相たらしめんとしつゝある。而も、人生勞を避けなば事のなすべきなし、吾等は、退嬰無爲の徒たらんよりは、虎穴に入つて虎子を獲んとするの氣風に與せねばならぬ。故に、總ての事業に就て、肺肝を吐露し、眞相を打あけ、虛禮を排し、空談を後廻しにし、眞實何等かの必要を感ぜざるものは、言はず語らず紹介せず、この世を、一層眞劍の世となし、簡易眞截、自他共に便を受くる樣にしたいと思ふ。

御體裁のためにやるならば、教育會もやめるがよい。お祭騷ぎに過ぎぬならば、教育者大會だとか教員會だとかいふものも、皆止めるがよい、此の忙しい世の中に、毒にも藥にもならぬことに、人騷がせするだけ罪である。教育調査會の如きも、議するなら眞面目に議するがよい、眞面目に議して決定を見たならば、之を實行するに於て渾身の努力をするがよい。空論は時と人と事業とを殺すもので、文明の敵である。

吾輩が、今、特に上記の題目を掲げたのは、我が教育學者、教育論策家に對する希望の二つとして、聊か平素の所懷を披瀝せんとするのである。

我國には、教育の實際を知らぬことの夥しい學者、記者、行政家、編纂官、技師、寄書家等が、隨分多い。どう考へて見ても、餘り多過ぎる樣に思はれる。此等の人々の論議は、教育の事實や眞相に通曉して居らないから、どうも實際を指導する權威がない。論ずる人の態度が、既に「實際のことは分らぬから、そこは、實際家諸君に於てよろしく」などいふ樣なことで逃げてのみあるく議論である。かゝる姿始末がつかぬ議論ばかり多いから、論ずること愈多くして力針が愈多岐になり、益々不明瞭になる。眞面目な實際家は、其の一つや二つだけを聞いた時には、潛心熟慮、之を實行に現はして見ようとも思ひ立つても見るが、サテ、間もなく、それが三となり五となり、而も憧着あり反對あるもの、簇出する及んで、モハヤ茫然としてなすべき所以を知らず、因襲の久しき、終に、これ等の論議に對して、何等の注意を拂はず何等の尊敬を有せず、全く、麻痺昏迷、乃至、拋擲冥目を以て其の防衛策とするの止むを得ざるに至つたのである。これ實際家の罪にあらずして、教育論壇の輕佻浮薄なる結果である。

見よ今の教育界に「哲學的に自覺せよ」など叫ぶ人の中には、本人自覺せざること甚しくして、恰も三文文士が人生と文學などを論ずると異ならざること多きを。ニイッチエやオイケンやベルグソンの二三冊の書物は人生にはならざるなり。人生といふものは教室と下宿屋とで、ペンと紙とを相手として、遺憾なく眺めらるべきものにはあらざるなり。若し人生觀などいふことを、自家の修養の工夫として、兀々默想するに止むならば、如何なる青書生にも結構なことである。然一

れども、苟くも、自己の人生觀を以て、世に問ひ人を說き、他人の自覺せざるを笑ふが如きものは、青書生や三文文士には御願が出來ぬ、もつと世間の甘いも辛いも分つた、體驗悟得の士のすべきことなり。人生其物を知らぬ人生觀專賣家は、一人や二人はあつても醉興ならんが、こんなことを正しい人生の歩み方と思ひ立派な哲學者の修養と思ひこんで、意氣揚々たるならば、古代ならよし、中世紀でもよし、十九世紀の始めまではまだよかつたが、それ以後では、將來の見込はない。

教育上に於ける人格も要求もさうである。教育の實地に當つて見、色々の苦心もして見、實際上の利害も備に嘗めて見た結果「イヤ、教育といふものは、形式的の智識傳授でもなく、無理押し付けに八釜しい監督をすることでもなく、教師が威儀禮容に心をおくことでもなく、監督官廳が細密なる規則を作ることでもなく、輪奐の美を極めたる校舍の建築でもなく、應接間に鏡や花や表等を並べたてることでもなく、俸給の問題でもなく、先づ〳〵人間の問題だ、人格の問題だ。立派な人格を具へた人が教育者となつて居りさへすれば、校舍がなくとも監督官が巡視しなくとも、出勤簿の捺印を厲行しなくとも、教育といふものは行はれるものである」といふことを、中心悟得する所に値打があるのであつて、それは甘いも辛いも嘗めて見て最後に喝破した言であつてこてそ、そこに無限の味があるのである。然るに、我が日本の教育論壇界に、之を學說として紹介するものあり。更に之を學術的に批判せんとするものはあるが、此の事に共鳴を感じ會心の笑を漏らし、天下に知己を得たりとして、學說としてよりも寧ろ信念として抱持し居るといふ人が何人あるであらうか。リンデだつてブッデだつて、こんなことを唱へ出す時には、破邪顯正の熱があつての結果なのである。あの書物を讀んで見るがよい。實は、情餘りありて冷靜なる智慮を缺く恐れが常にあるではないか。そこに意味があるのである。然るに我が日本の教育界は、之をカバンに改め、之を圖書室で繙き、之を教育雜誌に批評して、科學的價値を見んとするのである。これも、勿論、科學としての教育學を論究する若干の專門家には必要なることであるが、この科學者を通じて見たる人格の教育說は、實は死骸なのである。吾々は、一小部分の學者が之を冷たい科學の解剖臺に上せて其の缺點を通知せしむることの有益なることを認めざるにはあらざれども、其の前に、かゝる叫びに同情して、成程だ尤もだ、ウムその通りだと熱涙をうかべる多數の實歷者をほしいのである。——四・八・一——

二五　都市好箇の記念事業

大正御即位の大典を記念すると稱して、つまらぬ小さなことを彼處此處で企てることは、却つて恐れ多い樣な念を起すのみならず、永く御大典を記念するとしては、隨分如何はしきものある樣である。吾人は、各所で小さな記念事業を起すのを止めて、大きな、眞に記念として恥しくないものを作りたいと思ふ。而かも、それが、虛飾物でなく、日常十分に利用して、國民の利益になる樣なるものでなければならないと思ふ。それには、米國などに近年盛に唱へられ實現せられて居る運動場擴張運動に倣つて、公設運動場の設置をやるがよい。「人は、老若男女を問はず、生きて居る以上、合理的の身體練習を必要とする。これは、精神の修養を要すると同樣である。運動場を設くるは、學校を建つると何等の擇ぶ所はない。市營の學校が建設せらるべきならば、市營運動場の起るべきは、當然である。市民及び第二市民のために、格好の運動場、休養場を供給せざる市は、何れは、警察署や監獄や病院等に、多くの費用を投ぜねばならぬことになる。豫防は治療よりは遙かに安價なものであることを知る者は、今に於て、先づ、新鮮な空氣の中で、活潑な運動をとらしむることに慣らさねばならぬ」といふのは、最近合衆國などに、盛に唱導せらる運動場擴張運動の敎旨である。

千九百五年に二十四の市が有する運動場は、私設八十七、市有の公園及び運動場は外に七十三であつたが、二年後の千九百七年には、私設は、九十四パーセントだけ殖えて百六十九となり、市設は四十八パーセントだけ殖えて百八となつた。マサツチユーセツツ州の如きは、一九〇八年運動場令を發し十萬以上の人口を有する都市に於ては、便利なる地域に、公共運動場を設け、少年のために、適當の設備を整へ、以て、休養並に體育に資すべきことを命じてゐる。其他ニューセルシー、オハイオ、ミネソタ等の諸州も、各州議會に於て、熱心に、運動場設置の議案に贊意を表して通過させてゐる。

以上は、米國の一例に過ぎないが、我が日本は、古來尙武の國で各種の武藝を有し、精神的鍛練と同時に、身體の鍛練を怠らなかつたのであるが、明治の新學制頒布以來、西洋の體操法なども這入つて來たに拘はらず、國民の體育上の効果は、十分に擧らず、近年、壽命は短かく縮まつて明治十九年と近年とでは七つ以上も短命となり、壯丁の體重は減じ、肺病患者は殖え何一つ見るべき改良がない。これは、國民の體格衞生を思ふものゝ、瞬時も、猶豫すべからざる問題である。依つて、東京市を始め大都市に於ける住民の狀態を見ると、彼等は、憩ふべき樹蔭なく、遊ぶべき空間なく、兒童は、塵埃咫尺を辨ぜざる道路、惡臭鼻を打つドブ泥の間に呻吟しつゝある。田舍の子供は、兎も角も、田園河湖のほとりに、新鮮な空氣を呼吸しつゝあるから、素朴無雜作極ま

る衣食住を以て、尚彼等の健康を保持し得るが、一たび都間の兒童を見舞ふならば、彼等は獨樂を廻すべき庭も、紙鳶を揚ぐべき空地もない。而して、我が日本の名物たる春秋の運動會を開くことすらも出來ぬのである。我が東京市の小學校を見よ、皆三階建である。而して休憩時間に、試みに此の三階樓上より運動場を一瞥せよ、すし詰の樣につめられて動くことも出來ぬ可憐なる子供の頭を以て、運動場が埋められ、所謂立錐の地なきを見ることが出來るであらう。かゝる檻の中に入れられて居る子供が、尋常に伸びて行かれる道理はない。果然、日本中で市といふ名のつく市の學校の兒童の體重は一つも標準體重を超過して居るものがないのである。我が高師附屬小學校が、過去五年間の拮掘經營によつて、平均體重に追及し、或は超過するの好成績を收め、日本全國の市の兒童の爲に聊かのレコードを破つたのみである。我々は、市に住する人民、殊に子供等のために、此際、第一着たる有益なる記念事業として、この燒けも失せもせぬ運動場を設置せられんことを切望せざるを得ない。

東京市の如きは、廣大なる埋立地を有つて居る。これは、賣却して其の餘を他に利用する計畫であるさうである。東京市の貧乏も、吾々は知らぬことはない、併乍、其中先づ最小限三萬坪を割いて、第一の運動場を設置したならば運動會も開かれぬ此の市の小學校兒童は、之によつて生きかへるやうな氣持になるのみならず、將來國際オリンピックゲームの會等をやる時に、英國の賓客を招待する樣なグラウンドを作ることも出來ることゝなるのである。芝浦の埋立地は比較的地價が安くして、眺望も惡しからず、運動場としては、將來有望な土地である。若し大奮發をして五萬坪位の地面を占領し、其の沿岸に水泳場を設け得ば、實に理想的の敷地であつて、永く御大典を記念するに相應しき好箇の計畫であると信ずる。之を基礎として、前市長阪谷男爵が熱心に計畫せられたる小公園の設置其他が、續々と起る氣運も開かれると思ふ。

東京市の此の企が、若し事實となるの日は、全國に及ぼす影響も少からず、延いて、國民體格の改良上進の上にも、一新紀元を劃し得ると思ふ。切に當局者の熟考を望むのである。

——四・十・一——

二六　時勢の要求と小學校令の改正

世界的戰亂は、滿天下の人士をして、時勢の何物たるかを痛切に考慮せしめ、從來、惰性によつて推移し來りし政治經濟の施設、世道人心の傾向に對し、深刻痛切の檢竅を加へずんば止まらざらんとするに至れり。これ甚大の教訓たり。他方に於て、我が國は、王政維新、開國進取を絕

叫して立ち國會を開設し、條約を改正し、日清日露の戰役をも開き、國運隆々、世界を聳動したる明治四十五年の一幕を終りて、玆に新に、大正の大御代の幕を開かんとする時期に會せり、これ、我が日本が世界萬國の何れの國に比しても、此の機會に於て、最も眞面目に根本的に百年の大計を立つべきの秋なり。産業の興隆可なり、外交の刷新可なり、世道人心の刷新尤も可なり。

吾人は、小學教育會に於ても、幾多の改良を實現すべき時期に迫れりと信ず。國家が、國産奬勵を唱へ、有力學者が國立理科研究所の必要を絶叫しつゝあるも、若し根本たる小學教育が、國民の理科思想の啓培に不十分極まる教育を施し、兒童をして趣好を、早く既に他方面に傾注せしむるに於ては、青年時期に於て外部より之れを轉ぜんと欲するも最早詮なき業なり。我が國の小學教育は、尋常五年六年に、僅かに毎週二時間を與へたるに過ぎず、動・植物、鑛物、理化學、生理、衛生に亙る方面を之れに網羅せしめ、而かも、理科に趣味をもたしめ、將來、發明發見の民たらんことを要求し、器具機械を與へず、藥品原料を給せず。而かも尙、教師實驗のみならず兒童實驗を重要視する歐米先進國の實際に後れざる國民を養成せよと要求するにあらずや。一方に於て習字に三時間づつの時間を與へつゝあるにあらずや。我國は、今日、尙未だ讀書算盤の寺子屋時代の理想を夢みつゝあるを見る。初學年に於ける事物觀察のために鄕土地理教授のために、若干の時間を割くべきものなることも、今日は最早議論の時代にあらず、地方教育家も、之れが實行に、何等の懸念を要せざるまでに、自覺し進歩し來れり。而して、我が國の小學校令は、之が實施の餘地すらも與へ居らざるなり。高等小學校の課程を實用化せんとしたる改正案も、方法に周密の注意を缺きたりしために却つて反對の結果を呈し、手工科の如きは、之れを往日に比するに、大なる退歩を來せるを見るに至れり。之れ亦、工藝を奬勵しつゝある現代の要求に逆馳しつゝあるものにあらずや。吾人は、本を培はずして要求のみを敢てする性急者流に目せず、先づ、國民教育の根柢よりして、新時代の要求を實現し得べき方案を立せんことを要求す。今や、小學校令の一部に改正を加へて、教育者に、今一層の自由を與へ、時勢の要求に應ぜる教育を施さしむべき時機なり。然り、其の時機は熟して最早一刻を躊躇すべきにあらざるなり。

——四・十一・一——

二七　御即位の勅語を拜して

今回の即位禮の御儀に於て賜はりたる勅語左の如し。

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ即位ノ禮ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク

朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ烈聖統ヲ紹キ裕ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫ス爾臣民世世相繼キ忠實公ニ奉ス義ハ則チ君臣ニシテ情ハ猶父子ノコトク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ

皇考維新ノ成運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖訓ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇國ヲ恢弘シテ曩古ノ偉業ヲ樹ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐陬ニ霑洽ス

朕今丕績ヲ纘キ遺範ニ遵ヒ内ハ邦基ヲ固クシテ永ク盤石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシテ共ニ和平ノ慶ニ賴ラントス朕カ祖宗ニ負フ所極メテ重シ祖宗ノ神靈照鑑上ニ在リ朕夙夜兢業天職ヲ全クセンコトヲ期ス朕ハ爾臣民ノ分ヲ守リ精勵其ノ業ニ從ヒ以テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心ヲ同クシ力ヲ戮セ倍々國光ヲ顯揚センコトヲ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

我等は生れて此の聖世に會ひ、曩古の盛典を奉祝するの光榮を荷へり。伏して惟みるに、我が皇國の歷史に於て、何人の頭腦でも明確に喚起せらるべきエポックは三つあり。第一は天祖天壤無窮の神勅を天孫に下し賜ひて、三種の親器を親授し、八洲に君臨せしめ給ひしことなり。

第二は神武天皇天業を恢弘して皇位に即き萬世一系の帝位を傳へ給ひしことなり。而して、第三は明治天皇維新の宏圖を立て、國運の隆盛をして、古今未曾有の域に達せしめ給ひしことなり。其間、列聖の蒼生を慈しませ給ひしこと固より數ふるに遑あらず。我等は、大正の御代を以て、國史の大なるエポックとして正に第四に當るべきものと信ず。「内ハ邦基ヲ固クシテ永ク盤石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシテ共ニ和平ノ慶ニ賴ラントス」と勅らせ給ひしが如く、大正の事業は、實に其の關係する所廣く其の任や重し。陛下は、親ら祖宗神靈の照鑑により夙夜の兢業を誓はせ給ふ。我等臣民は、外世界の大局の推移に顧りみ、盡忠報國の國情を以て、勵精其業に服せざるべからざる時なり。嗚呼

陛下は「爾臣民世世相繼キ忠實公ニ奉ス義ハ則チ君臣ニシテ情ハ猶父子ノコトシ」と宣はせ給ふ。我等之を奉讀して唯感泣あるのみ。

若しそれ、廟堂に立ちて、陛下を輔翼し奉るべきもの輕舉して　至尊の聖明を蔽ひ奉り、野にあるもの、徒に政權の取奪に汲々として、盲動百端、徒に事局を紛糾せしむるが如きあらば、實に、陛下に對して不臣これより甚だしきはなきのみならず、我が皇國の歷史と世界の大勢とに照して、眞に愧死すべき短見淺識の鼠輩たり。何を以て政治家と稱し何を以て國士といはん。今や

黨弊百出、事端徒に繁くして業績の舉ること遲々たらんとす。我等は、張皆瞻目、能く大局を察して堅實の歩を取り、所謂「健全なる國民」の養成に盡力せざるべからず。今の國事を論ずるもの、多くは國事を弄するの徒たり。言に赤誠なく行に操守なし。我等は、斷じて此等の蛙鳴蟬噪に耳を貸すことを要せざるなり。大正の使命は舉國一致の覺悟を要す。蝸牛角上の爭は、世界に於ける日本を料理すべき今日に、百害ありて一利なし。我等は、昨今の我が日本を、揚げ足取りに汲々とし、乘つ取り策に孜々として居る間に、國民性の醱敗せんことを恐る。陛下が「心ヲ同クシ力ヲ戮セ倍々國光ヲ顯揚セム」と宣はせ給ひし大御心を思ふもの、今や一大覺悟をなすべきの秋なり。我等は、歡天喜地の至情を以て、この盛典を記念すると同時に、今後の責任の層一層大なることを一言して、滿天下斯道諸君と共に、死力を以て我等の本分を盡さんことを誓ふものなり。——四・一〇・一

二八　御沙汰と文相の訓令

天皇陛下には、十二月十日畏くも高田文相を召させられ親しく教育振興に關する倦渥なる御沙汰を下し賜へり。

御沙汰

皇考夙に心を教育の事に勞せられ制を定め令を布き又詔して其大綱を昭かにし給へり朕遺緒を紹述して倍々其振興を圖らんとす今や人文進歩の時に方り教育の任に在る者克く朕か意を體し以て皇考の彝訓を對揚せむ事を期せよ

右の御沙汰を拜受したる高田文相は、感激措く所を知らず、翌十一日、文部省訓令を發して全國一般に告知せり。

叡聖文武なる　天皇陛下畏くも本月十日大臣を宮中に召させられ親しく左の御沙汰を下したまへり(御沙汰略)

本大臣は此の優渥なる聖旨を拜し感激措く所を知らず謹んで之を全國一般に告知す。

恭しく惟んみるに

天皇陛下曩に大禮を行はせられ詔して肇國の大本を申明し臣子の恒道を提誨しまたふ爰に盛儀の完了せらるゝに方り特に教育に關する御沙汰を下したまひて倍々教育の振興を圖らせたまふ叡旨深遠恐懼の至りに堪へず。

伏して惟んみるに

先帝夙に開國進取の國是を定め教育の大本を昭にしたまひ國運の進歩文敎の隆昌振古其の比を見ず當今世界の列强相競ひて國運の充實を圖り國運の伸張に努めざるはなし此の間に在りて益々我國威を顯揚せむとする實に一日の安處を容さず國民相率ゐて德を修め智を研き產を治め業を興し以て國本を培養せざるべからず教育の任に當る者宜しく

先帝の教育に關する聖訓を奉體し天皇陛下の叡旨を服膺して心を同うし力を戮せ古く大勢に留意して其嚮ふ所を愆らず益々教育の徹底を圖り將來の國民をして各其の本分を盡して力を皇運の隆昌に致さしめざるべからず庶幾くば全國教育の任に當る者本大臣と共に夙夜に淬勵して其の職責を完うし以て克く聖旨に答へ奉らむことを

恭しく惟んみるに　陛下登極の初め、詔を國民に下して國維民常を宣明し賜ひ、又、恩露を沛ぎて老を養ひ窮を賑はし、孝道濟民の範を垂れ賜ひ、次いで、親兵觀艦の兩式に於て、車駕親臨、練武振軍の勅語を下し給へり。叡慮高遠、聖德洋々、四民感泣せざるものなし。然るに、大禮目出度く終りを告ぐるに當り、特に教育振興の御沙汰を下し賜はる。職に教育に在るもの、眞に恐懼の至りに堪へざるなり。

一國の隆昌は、體力（武力）の充實と、金力の豐富と、智力德力の精練とを要す。此の三要素に於て備はること完くんば、興らざらんと欲するも得ざるなり。强兵富國も學術も人道も其の根本は教育にあり。此の根本を啓培せずして、徒に花實の美なるを望むべからざるなり。一百年前の獨逸は、實に憐れむべきの貧弱國なりき。教育を以て興國を策して玆に百年、今日の隆運を見るに至れり。日本の大帝國ニ義則君臣、情猶父子」の良國體を有し、其の天資に於て、天下之に加ふるものなし。而も、上に聖天子を戴き、前代未聞の盛時に會せり。大正の使命を耻しめざると否とは其責繫りて一に我が七千萬の同胞にあり。我等職に教育にあるもの、叡慮の恭なきを感佩して、此の覺悟を國民の全部に薫染感化せしめずんば、何を以て　陛下に奉答することを得んや。聖旨を拜して感激の至りに堪へず、謹みて一言を添へて今後の規箴となす。

——五・一・一——

二九　國情に基ける教育實施案

一時、歐米文明が、滔々として我が國に横溢した頃には、我國古來の精神的文明が、一顧の價値もない樣に思惟せられたこともあつた。乍併、支那といひ、日本といひ、東洋の文明には頗る古い歷史があつて、その中には、經驗から發生した所の、捨て難い要素が幾つもあつたのである。

然るに、歐米の文明に心醉した當時は、古來我が國に存したものは、何等緻密な考察を加ふることなしにドシ〳〵捨て去つたものである。今や、その捨て去つた掃溜の中から、幾多の珠玉を探り出して、冷靜に其の眞價を評定せんとする落つきのある時代に到達した樣である。勿論、今日までも、國粹保存とか、日本主義とか、時々、懷古の波の押し寄せた事もあつたが、當時の波は、一をすて〻他を採るに就いての迷ひの浪であつた。が、今日の懷古の波は、兩文明が或度まで調和點を見出した上は、國土民情に基いた部分的修正を試みようとする浪であつて、頑固な國粹保存的主張と同視すべきものでない。

醫術は、漢法醫を捨て〻洋法を用ひたけれども、聞く所によれば、獨逸の或醫者は日本の灸を研究して、頗る面白い意味があることを見出して居るといふことである。丹毒の如きは、西洋によい醫療法がなくして、漢法醫にそれがあるので、醫學の博士學士諸君が、昨今漢法醫の治療を研究して居るといふことである。日本の住居なども、成る程、ガラス窓によつて非常に改良されたよい點もあるが、日本の障子といふものは、可なり溫熱の高い、濕氣のある、風の相當に強い土地には、面白い意味のもので、學校建築の上に於ても、一考を要すべきことゝ思ふ。夏期の如き、窓を閉めれば暑くて困り、開ければ塵埃がはいつて仕方がない。それに、北緯五六十度の地方と違つて、可なり強い光線がはいるので、窓掛がなくては衛生上宜しくない。然るに、障子であれば、風の強くて塵埃の飛び立つ時には、締め切つて置いても左程蒸暑くなく、通氣もよく、窓掛なしに適當な光線を得ることも出來るといふやうな譯で、學校建築上、障子の利用法を考へるがよいといふ學者も生じて來た。衣服の上ではシャツを着、靴を穿き、手袋や帽子を以て全身を包みに包んで、エスキモーのやうにする西洋風を、裸體で腹卷一つで鉞を背負つて居る金太郎の繪と比べて見ると、日本人は、極端から極端に變化したのであるが、近頃は、帽子の亂用を禁じ、跣足を奬勵するといふ日本風の衛生法が奬勵されて以來、裸體で體操するといふ熱心家も現れ來つ〻ある、

食物については、額田博士の「安價生活法」に示された通り、若し、食物が眞に自己の身體を養ふ爲めならば、三錢の强飯の滋養分は、優に、牛乳一合卵一個パン二切れに匹敵することが出來る。牛肉鷄肉等に二十幾錢を投ずる代りに、僅か二錢の豆腐一挺を買へば宜しい。要するに、麥飯味噌汁煮豆納豆の如き日本的食物が、安價にして、養生に適し、必らずしも、高價を以て肉類牛乳パンを飽食するの謂なき事を證明して居る。日本の兵士が梅干と握飯とを以て、立派な肉食をする西洋人と戰つて勝つたといふ事は、必ずしも、質素克己の爲めばかりでなく、衛生上よ

り見て、完全なる事を證明せられんとしつゝあるものである。體育の上に於ても、成程射擊も機械體操も必要であるが、射擊柔術相撲水泳の如き古來の武技が、學生に喜ばるるのみならず、益々體育上重要の價値あることが證明せられて來た。

斯樣に考へて來ると、我が祖先が、如何にしてその身體を鍛へ、その膽を練り、其の知識、感情道德の修養を積んだか、それ等を十分に調査して、教育の上にも、十分考慮すべき時期になつたと思ふ。必らずしも、ピアノ・オルガンに代へるに尺八・琴・三味線を以てせよといふのではない。又、西洋畫に代ふるに純日本畫を鼓吹せよといふのでもないが、保存すべきものは保存し、復興すべきものは復興して、よく國土民情に添ふものたらしめたい。

理科を教へても、糊のことも片栗粉のこともいはずに澱粉質で押し通し、卵の白味のことなどはいはずに、徹頭徹尾蛋白質で押通すやうな中は、兒童は、何のために、理科を學ぶものであるか分らずに世の中に押し出される丈である。地理を教へる教師が、英吉利の參考書で教へてはならぬ筈であり、宗教を談ずるものは、日本の神道を研究して見ねばならぬ筈であり、手工の教授は、フレーベルの幼稚園の眞似事をする前に、日本の子供の玩具や學用品に近いものにならねばなるまい。一言でいへば、モット日本的に碎けた教へ方を要すると思ふ。幸に、一般の風潮が、若實に日本古來の長所美點を精察する時期に到達したる今日であるから、教育の上に於ても、尙一段の省察を加へて、國情に適した實施案を形成すべきである。今は正に其の時である。

——五・三・一——

三〇　第百五十號發刊に題す

本誌は、玆に第百五十號を發刊するの光榮を迎へた。本誌は、我等同人が、公職に盡瘁する餘暇を以て、我國初等教育のために、微力を效さんとするの赤心より發露した結晶である。他より何といはれやうと、世間の毀譽褒貶は、我等同人の耳を傾けんとする所ではなかつた。單に、吾人の欲することが、其の文の拙なるにもせよ。其の體裁の氣の利かぬものなるにもせよ、斯道の實際に對照して、何等かの手答へがあり、何等かの刺戟になり、着實に仕事の効果を擧げんとする人々のために、假令師となることは出來ぬにしても友となることを得んことを庶幾する以外には、何等の野心も策略もなかつた。これは出發點に於てしかありしのみならず、十數年來一貫したる我等同人の微衷である。然るに、渺乎たる我等同人の願望は、堅實にして熱誠なる滿天下教育者諸君の胸腑に、一種の共鳴を見出したものと見えて、本誌出でゝ以來玆に十數年、未だ曾て、

衰退の傾向すらも認めたことが少なく、年を積み號を重ねる毎に、躍進又躍進、發行部數に於ても、教育雜誌の數多き中に於て、嶄然頭角を露はすの盛大を致すに至つたのである。本誌が、氣の利かざる、世間向ならざる雜誌として、我等自身も承認し、世間の一部分よりは、冷笑を受けたること一再ならざりしに拘らず、今日の發展を來したのは、一に、愛讀者諸君が、吾人の愚直を諒とし、素朴を愛し、一意斯道の開發を念とする以外、他意なき赤心を認められたる結果に外ならずと信じ、我等同人は、今更に「意氣」に感ずるの念に堪へないのである。

我等は、本誌を發行すると共に、年々、冬期講習會を開き、當面の問題に對する研究の一端を披瀝する機會として居る。此の企や、實に、日露戰爭當時に發し、我等同人も、骨を滿洲に曝す軍人諸君の精神に感激して、何等かの貢獻を斯道に寄せたいといふ微衷から、第一回を開いたのであつた。爾來十餘回、我等同人は、常に當時の赤心を忘るゝことなきを誓ひ、斯道のために、區々の微を捧げ來つたのである。而して滿天下教育者諸君の、此に對する同情は、實に、深くして厚く、朝鮮、滿洲、臺灣の遠きよりも來會せられ、年々、千七百内外の申込者を見る有樣である。我等同人は、決して、此の現象を以て、同人の研究の至れる證となし、又は、同人の力の大なるを示すものと思ふものではない。反對に、我等同人の說く所行ふ所は、實に諸君の遠來を値せず、諸君の同情に孤負することの大なるを愧ぢつゝあるものである。然るに、江湖諸君が、毫も同人の愚劣を咎めずして、年と共に、其の盛大を加ふるに對せるは、一に、本誌愛讀者諸君の賜である。

最後に一言せざるを得ざるものは、全國訓導協議會である。こは、全國斯道に造詣深き諸君と共に、極めて狹き範圍を畫して、共同の研究を遂げんとするものである。前記二事業は、いはゞ、我等同人の發表機關であつて、廣く、滿天下熱心家諸君の着實なる經驗を尋ね、眞摯なる研究を聞くためのものではない。そこで、同人研究を發表すると反對に、滿天下斯道の造詣深き諸君の研究と經驗とを、包括的に系統的に結集する方法に就て、考慮の結果、生れたものは、此協議會である。これも、我等同人が、繁劇なる職務の傍に擧行するものとしては、餘りに宏大で、貴重なものであると信じたが、斯道のために極めて必要の事である以上、如何なる困苦をも辭すべきにあらずと信じ、土曜日曜祭日等の比較的相重なれる期間を以て之を遂行することゝし、既に前後六回を重ねた。今や、來る六日を以て、第七回唱歌教員協議會を開かんとして居る。我等同人は、此の宏大にして貴重なる事業を催すに當り、未だ曾て新聞雜誌に廣告したることなく、又、記者諸君を招待して之が紹介を依賴したることなく、毫も聞達を四方に求めず、單に本誌の愛讀者諸

君につけて、若干の篤志家諸君と、我が附屬小學校の一室に於て、眞摯なる打合せをなさんことを期したるものである。然るに、此の事業も、滿天下の熱烈なる贊同を得、今や、其の報告集は、それ〴〵に斯道の權威と目せられつゝある。此の事業は、今後幾年も繼續して、斯界のレコードを作り、次第に秩序ある發達に貢獻したいと思うて居る。

今や、本誌第百五十號を發刊するに際し、本誌の過去を顧みれば、進むあるを知つて退くを知らざりし隆運は、一に、同人の愚直を諒とせらるゝ斯道の堅實熱誠なる愛讀者諸君の厚き同情の賜に外ならざるを信じ、感激の至りにたへない。玆に、愛讀者諸君、並に、舊會員諸君の健康を祝し、且つ、我等同人は、今後益修養加餐して、諸君の御同情の、萬一に答へんことを誓ふ次第である。——五・四・一——

三一　教員優遇について

教員優遇の意義、優遇といへば、他の職業に比して、一段立ち勝れる待遇をすべしと要求する如く聞ゆれども、實際の內容は、從來、他職業に從事せるものよりも、著しく薄遇を受け虐待を受けたりしを以て、之を他の職業と釣合のとれる樣に、引き上げられたしといふに過ぎざるものの如し。甚しきは、所謂優遇案を實行しても、尙、他職業に比して、遜色あるに甘んぜんとするに似たり。其れ故に、優遇とは、從來の薄遇虐待に比したる一段の優待たるに過ぎずと解するを以て、正鵠を得たる解釋なりと見做さざるべからず。吾人は、教育者のみが、他職業に從事するものと異つて、特に割のよき待遇を與ふべしとする論には寧ろ不贊成なり。大體に於て、修養に盡したる年限に比し、進級を、他の之と見做すべき階級と、同一步調を取らしめんと主張する論に贊するものなり。府縣立師範學校の卒業生は、此の點より見れば、大體に於て、判任文官と同一の進級をなさしむべきものに拘はらず、官等も俸給も勳賞も、判任官と大いに異り、而も、勤續三十年にして、勳八等を恩賜せらるといふが如き、殆ど一兵卒一二年の効にも如かざる取扱に相當するが如きは、寧ろ小學教員たる職務を侮辱するに當るといふものゝ生ずる所以にして、重要なる教育事業のため、遺憾に堪へざる所なり。勿論、一府縣兩三名の校長を、奏任を以て待遇するといふが如き特例あれども、一府縣に三四名の待遇は、一般の小學教員に、何等物質上良好の待遇を與へたる證據とはならざるなり。待遇には、精神的物質的兩面あり、何れも大切なれども、目下最も必要を感ずるは、物質的待遇にあるものゝ如し、故に此の點より、吾人は、府縣師範學

校の卒業生の俸給を、大凡、判任文官と同一とすることを至當なりとして、此の方針によつて起案せんことを希望す。市町村の經濟之に伴はずんば、宜しく國庫より補助すべきのみ。中等教員に關しては、修養の年限上、略々士官の待遇と同一にすることを必要とす。俸給も官等も叙位叙勳も、士官若くは裁判官等と同一の待遇を與ふるを方針とせざるべからず。これ、理由あることにして、何等不當の要求にはあらず。教員を特惠的に待遇せよといはゞ或は我田引水の譏あらんも、教員を特別に薄待虐待する勿れといふは穩當至極の論なり。今日の中等學校の教員の地位の不安にして、待遇の菲薄なるは、絮説するを要せず。彼等は奉職十數年、奏任待遇となり年俸八九百になりたる時は、ソロ〳〵高踏勇退を迫らるゝ時なり。四十にして早く既に亢龍の悔あるを見る。天下豈かゝる殘酷にして不經濟なる人間使用法あらんや。之を小學教員に見る、更に甚しきものなり。彼等の財源は、町村に握られて居るの故を以て、勤續十幾年、何等の增俸なきのみか、場合によつては、名義を同一にして内實は寄附を迫らるゝことあり。鄕里のため又は寒村僻地の子弟のために、踏み止まつて專心教職に從事するものは停滯又は減俸せられ、轉々職を求むるものは、或は十數年の後、彼と是と少なからざる徑庭を見るの奇觀を呈せること少なからず。かゝる不統一不安定なる待遇法を以て、教育者を遇し而も、一面に於て非常の重任を負はしめんとす、萬事に控へ目なる教員階級、天職論に鼓舞せられたる教員階級も、最早我慢のしきれざるに至つて、所謂優遇問題は提起せられたるなり。故に、吾人は、此の問題を以て、或る一階級の得手勝手なる要求と見ずして、國本の培養上、誠實に考慮すべき活問題なりと信ず。

待遇と人材とは互に因果の相をなす、世間には、今の教員の或るものを目して、優遇の資に缺くるあるを云々す。これ固より一考の價値なき議論にはあらず。然れども、教育界に有爲の人物を吸收し、又、一旦入り込みたる有爲の教員を殺すことなく、日に月に進歩發達して、潑剌たる生氣ある人間、敬重せらるゝ人間たらしめんと欲せば、少なくとも世間並の待遇は、與へざるべからざるなり。かくして始めて、相當なる人材を吸收し得、劣惡なるものをドシ〳〵淘汰することを得べきなり。吾人は、將來劣惡なるものを淘汰し得んがためにも、先づ待遇を世間並に進め置くことを要すと信ずるものなり。

教員の改善、待遇の向上は、同時に教員其の人の改善を結果し豫定すること勿論なり。

一、尋常科正教員は、今後數年の間に、適當の講習制度の下に、學力を補習して、高等正教員たらしめ、今後尋常科正准教員の養成を廢すべし。

二、師範學校の卒業生は卒業後一ヶ年以上、檢定によりて師範學校卒業と同等以上の學力あり

と認められたるものは、二年以上を試補として、實務に熟習せしむると同時に學力の修養をつましめ試驗の結果、之を正教員とすべし。

三、正教員を五年以上勤めたるものは、校長試驗に應ずる資格を與へ、實地上並に學力上より試驗を施し、更に一段優良の教員たる證明を與ふべし。

四、中等學校教員にも、試補の年限を置き、實績と學力とを考査して、本免狀を下附することとすべし。

五、小學校中等學校教員ともに、學力補修のために、長期講習制度を設くべし。

以上は極めて概要に過ぎずと雖、一言教員優遇の意義を明かにして、之が實行の方針を講じたるのみ。——五・五・一——

三二　教育界に續發する事故について

一、座敷の上でも怪我はする。全國幾百萬の暴れ盛りの兒童中には、ゾッとする怪我の一つや二つは、毎日起つて見た所、別に大騒ぎするまでもあるまいといふのも一理はある。又、全國十數萬の教師中、殊に平均俸給僅かに二十圓を給與せらるゝに過ぎざる小學校の教師中に、若干の非常識な者があつて、松の木で兒童を打つたりする樣なことをしたとて、別に驚くに足らぬ問題であるといふのも一理はある。幾ら騒いでも、全國から怪我の一つもない樣に、不穩の教師が一人もない樣にすることは、目下の如き設備で目下の如き教師では、恐らくは不可能であらうけれども、さうかといつて、放任して濟むべき事柄ではない。

二、頻々起る出來事の中には、眞に止むを得ざる不慮の出來事も澤山あらう。徒競走の時躓づき轉んだとか、木馬を跳び鐵棒に下つた時に、誤つて手足を傷けたとか骨を折つたとかいふ類は、教師も兒童も、注意に注意を加へた上でも、全然起り得ざることゝは保證は出來ぬ。かゝる事は、誠に遺憾なことではあるが、先づ止むを得ない出來事といはねばならぬ。併し傳へられる出來事の中には、教師、生徒共に不注意のためで起つたと見做すべきこともないではない。定員以上の人を怪しげな渡船に乘せた教師も惡いが、船の中で、一方に片よつたり狼狽て立ち上つたりする生徒も惡い。又危げな棧橋に列をなして引率した教師に罪あるに相違ないが、魚が見えたとて一方に密集して來る生徒も決してよくはない。かやうに、多くの出來事の中には、兩面に責任があるのが常である。中には、生徒が十中の八九分の責任がある場合もある樣である。獨りで怪我をしたとかいふ類がそれで、これは、生徒が不都合である。「何故使つてならぬものを其所に置いた」

などいふ父兄もある樣であるが、併し、營造物などは、十日や二十日は、使つてならぬものも其の儘にして置くことは、止むを得ない場合がある。要は、生徒たるものは、使用してはならぬぞ、こゝに入り込んではいけぬぞと、教訓なり注意なりされた場合には、之を守るのが至當で、其の命令を守らずに、勝手に、隱れて其の禁を犯したとすれば、それは、殆んど全部生徒に罪がある。世の中には、使つてならぬもの、這つてならぬ所は、家庭にも社會にも澤山ある。剃刀で自殺したものがあつたとて、剃刀屋に罪はない。井戸に飛び込んだ人があるとも、各家庭で井戸を掘つたが不都合であるとはいへぬ。教師にして、兒童に禁止してある以上は、其禁を犯した兒童が惡いといはねばならぬ。之と反對に、教師の非常識の罪が七八分らしいのもある。新聞紙の傳ふる所は、針小棒大、時には殆んど信を措くべからざる誤報を大活字でやつて居る場合もあるから、事實の眞相を調査せぬ間は、決して「新聞記事」を楯として、彼是論ずるは勿論不穩當ではあるが、假に之を事實として論ずる時は、教師が一寸したことに激昂して、松の棒を以て兒童の頭を打つたなといふのがある。勿論、教師がそこまでも激昂するには、平素其の子供が教師を輕蔑するとか命令を何ともせぬとか、何等かの原因なくしてはソンナに激昂することもあり得まいとは思はれるが、併し、教師たるものは、今少し常識ある眞人間であらねばならぬ。居酒家に泥醉して居る熊公八公の喧嘩の樣なことをして、我々の最愛の子弟に臨むべきものではない。故に、よく事情を尋ね眞相を明にした上で、其の責任が、教師の上にある場合に於ては、吾々は、教育者たる面目を傷けたるものとして、永久に之を驅逐するがよい。人の師たるものは今少し、人らしいものでなければならぬ。

三、又、事件の起つた際には、先づ十分に、事件の眞相を考へ、愼重に善後策を講じ、教師は、十分に反省して責任を自己に負ひ、其の手落の根本に向つて、更正の策を取ることを以て、其の事件に對する最も眞面目なる謝罪なりと思はねばならぬ。然るに、輕舉盲動して、身分不相當の香奠を出して俗人に同情を求めるとか、小刀の携帶使用を嚴禁するとか、運動機械をなくして仕舞ふとか、相撲や駈足を禁じたとかいふの類を以て、其の善後策と思惟することあらば、これ矯角殺牛の諦りを免れざるのみならず、一時を糊塗して根本を治めざるもので、其の弊や頗る大である。教師は、死亡兒童の葬式を盛にすることよりも、先づ、教育の根本精神に於て、未だ盡さゞる所なきか否かを反省せねばならぬ。然るに俗人は、嚮々として物珍らしげに、有ることなきことを大活字にて喧傳し、教師は、單に之を糊塗彌縫せんことのみに狂奔し、之を以て、一時的現象として、處分し終るに止むる時は「一度あることは二度ある」で、事件の根本的革正に觸れ

ぬ慢みがある。

四、聞くが如くんば、世間には、かゝる出來事を以て、新聞雜誌の紙面を飾る好資料とし、道聞途說、一概に教師を罵倒し、監督者を詰責して、快とするものもあるといふことである。甚しきは、無智の父兄を教唆して、教師を訴へ、之を以て己れの名を廣告し、他日選擧運動の際利する所あらんとするものありとの事である。嗚呼、社會の表裏、眞に容易に窺知すべからざるものありといはねばならぬ。吾々は、かゝる出來事を以て、自家廣告に利用せんがために、父兄を教唆するものありと聞いて、實に驚かざるを得ない。支那の言葉をかりていへば、其の面に唾するを禁じ得ない。玆に一言して、生徒と教師と社會と一部卑劣なる教唆者とに反省を促したい。

——五・六・一——

三三　國を出よ、而して働け

一、此頃、都下の或る會社で月給十五圓の書記一名募集したら、瞬く間に、五百名の應募があつて、取捨に困つたといふことである。これは、從來の教育方針が誤つてゐることを諷する一大戲畫である。學制頒布時代には、小學教員たる試驗に、洋算で、記數法が出來れば通つた時代もあつた。今の尋常二年生の程度の算術が出來れば、學校の校長さんになり得たものである。此の調子で、生半可通の生理衛生を嚙つた丈で、病院長になれるといふ時代があつた。學校は唯一の登龍門で、借金をしてもよいから、程度の一段高い學校を出るに限る。さうさへすれば、働かずに給料が貰へるといふ、安樂にして割のよい時代であつた。之がために、學校が繁昌し、教育が普及した効果もあるが、他の一方に於ては、父兄が學校を買ひかぶり、學生が、學問の方針を誤り、獨立自賴な精神を傷けたことは決して少なくない。これからは、働くことを愛する國民を作らねばならぬ。勞働を厭はぬ人間に就職難はない。我が日本も、年々七十萬は、必らず人間が殖える、今ですら、食料に年々五千萬圓づゝの輸入を仰いで居るのに、人口過剩の問題が、年一年と攻め寄せて來ることは目に見えて居る。海外發展は此の意味に於て、避くべからざる勢であつて、人口過剩問題の安全瓣である。

二、日本で、最も多くの職工を使ひ、到る所に煙突の林立して居る工場は、先づ紡績業に屬するものである。就中、贅澤品に屬する絹糸に關するものは別として、戰爭があつても何があつても、動かぬといふ日常必須の木綿紡績に屬するものは、將來益奬勵もし發展もせねばならぬが、悲しいかな、之が原料たる棉花は、米國から輸入を仰ぐが、印度から廻送を賴むかせねば仕事が

出來ぬ。一朝事あつて、航路が塞がつたら最後、日本人は、絹布を纒うて農耕に從ひ、之が盡くれば赤裸で居らねばならぬ。之を思ふと、一刻も早く、朝鮮を一大綿花園とせねばならぬ。

東京驛前に魏然たる一大建築を仕掛けた海上生命保險會社は時局の勃發後、間もなく工事を中止して、宏壯なる鐵骨は、風伯雨師の見舞ふに任せられて居る。日本全國、之に類する出來事は澤山あるに違ひない。之は何のためかといへば、鐵の原料が得られぬために、鐵材が暴騰した爲である。英國の鐵類輸出禁止令は、一層の痛棒を我が日本に喰はしめた。併し、考へて見れば分る通り、最初から他人の所有物をアテにして仕事をして行かうといふのが誤りである。金や銀はなくても二年三年は事缺がせぬが、鐵は一日もなくてはならぬ。

か樣に、棉花とか鐵材とかは、一刻も早く、自國の勢力範圍内に、原料供給所を持つて居らねば、此の國が立ち行かれぬのである。それでも、我國民は、十五圓の書記を望みつゝ、幾年も下宿屋の樓上に書寢する候補者を、相變らず養成せねばなるまいか。

三、今の時に當り、武力を以て他國を侵略することは、容易な事でなく、又輕々しく企つべきものでもない。寧ろ、外國に人的勢力を扶殖するのが最も捷徑で而して最も確實である。ウキルソン大統領が、幾ら地團太踏んでも六百萬の在米獨人が隨所に點在して居つては、始末のつけ樣がない。吾輩は決して、外國人に、物騷な事をさせるために同胞を出せといふのではないか、何といつても、國は人の力で左右されるものであるから、一人でも多くの人が海外にある方が、國勢を發揮する上に、最も鞏固な基礎をなすものだといふことを例證したまでゝある。我が同胞は、布哇に於て、既に住民の半を占めて居る。乍併、鐵のある所、砂糖の出來る所、護謨や珈琲の盛に栽培せられる所、其他、貿易や工業の望みある所には、ドシ〳〵出かけて、其所に根據を据ゑ其處に墓場を築いて働くがよい。外交も軍備も、堅實なる此等同胞の事業あつて、始めて生きるのである。北海道や樺太や朝鮮や滿洲や臺灣などもよいが、支那や南洋や南米に續々出かけるのが今である。日本の月給を一人で取つて見た所知れたものである。況んや十五圓をやである。器械體操で鍛へた腕は、筆を握るためのみではなかつた筈である。マラソン競走を試みた脚は、檻の中をかけまはる爲めではなかつた筈である。實科女學校の籠は、南米でも樺太でも通用される筈である。中學校や商業學校や工業學校や農學校などを卒業した人には、實科女學校を出た女房と、手を携へて南米、支那、南洋に出かけるがよい。繰り返して置くが、働く氣の人々は就職難はない。

四、海外發展は、國民の氣宇を恢弘にし、ツマラヌ内輪喧嘩を馬鹿らしく思はせる何よりの藥

である。今の日本は、黨弊百出、其の量見の狹さ加減、お話にならぬ。各市町村に於て、多少の教育あるものは、政黨のお先にても使はれる事を以て名譽なりと考へて居る樣である。學校の位置を爭ひ、石橋一つ架けるにも相爭ひ、功を妬み利を趁ひ、朋黨比周、實に言ふに忍びざる有樣である。これ畢竟、世間が狹く、世界に對する日本の位置を悟らざる罪に歸する。此の意味からも、日本人には、一人でも多く、海外の地を踏ませねばならぬ。外側から小人島を眺めた光景を味はせねばならぬ。眞の愛鄕心も愛國心も、それから後に發して來る。——五・七・一——

三四　義務教育は少くとも八年

日本の貧乏は誰しも知らぬものはない。町村費の大部分は教育費が占めて居つて、最早これ以上の負擔にたへぬ事情も吾々は心得て居る。乍併、義務教育は、斷じて八年にせざるべからざる秋なるを告げざるを得ないのは、吾々は、國民教育の革新を以て、師團增設や軍艦增設以上に、急務で根本で、國の發展上、實に止むに止まれぬ現狀であることを痛切に感ずるからである。然るに、身教育界にあるものにして、未だ國家の興隆上、國民教育の向上發展の、一日を緩うすべからざる所以を自覺せず、町村民力の狀況を、已れ一人知つて居る樣な顏をして、義務教育延長を、無用の書生論なるかの如くいつて居るものゝあるを見て、日本の教員中にも、大分尾鰭に、アラミドロの附着したる教員あることを嘆せざるを得ない。日本は貧乏である。乍併、八八艦隊を完成せんがために、一方に二億四千萬圓を計上せんとする國は、矢張り日本國ならずや。假に、之を十ケ年の繼續事業とするも、年々二千四百萬圓を負擔する覺悟をせねばならぬ。吾々も、日本の海軍擴張を不要なりといはぬ。乍併、敎へざるの民を驅つて、今日の新式が明日の舊式になる艦艇のために、かゝる巨額の金を出すことが、戰後日本國を興隆せしむる第一急務のものたるか。日英同盟や日露協約に餘りに過大なる依賴心を有すべきものでないが、併、日本國民は、差し當り、大海戰の覺悟をせねばならぬとは、どうしても考へられない。寧ろ、日本の現狀は、民を教へて、國民發展の素養を與へ、剛健なる體軀、堅實なる品性、明確なる科學的頭腦を具へしめ、內は農牧漁鑛を改良し、外は、工商發展等、產業の進步を講ぜねばならぬ。皇國をして、體力に於て德力に於て智力に於て金力に於て、一大躍進をさせることが、モット急務なのである。然る後に兵强かるべく艦艇備はるべきである。海軍の擴張も急務なものゝ一たるに相違なきも、之を歐米各國の國民教育と日本のそれとの懸隔に比する時に、其の急要の度、自から異なるものあるを知らねばならぬ。義務教育を八ケ年に延長せば、幾何の經費を要すべきか。臨時費三千萬圓

經常費一千萬圓と見れば十分なるべし。臨時費を三ヶ年繼續事業とし、最初の三ヶ年は臨時經常合せて年々二千萬圓を國庫より支出し、第四年度以降は、年々一千萬圓を國庫より支出するがよい。元來、國が教育權を父兄の手より奪ひ、之に向つて義務教育を强制するといふ以上は、義務を果たし能はざる市町村に向つて、相當の補助を支出するのは、最初より覺悟せざるべからざる如き事に屬する。何人も、能力なきものに義務を課し得べきものにあらざればなり。之を歐米に見よ、獨國、英國、佛國の如きは、義務教育費の三割、五割、七割を國庫にて負擔し居るではないか。これ至當の結論で、我が日本の如く、國家が何等負擔する所なしに、單に父兄に向つて、義務を强制する權利のみを發揮する國はない。故に、義務教育八年とするは、決して不可能のことでも無鐵砲の事でもない。廟議一決、教育を以て眞に國本を培養し、教育を以て國を興さんことを本領とすれば、來年からでも出來るのである。然るに、今の教育者中には、此の見易き至當の要求をするものに對して、國情を知らざるものゝ如くいはんとするものがある。彼等は、官宦官妾の如く、籠檻の禽獸の如く、多年小天地に窒伏して、去勢生活になれたるが故に、百萬圓といへば腰を拔かし、一千萬圓といへば卒倒せんとし、日本の國力の眞相を知ることなしに、義務教育延長を、机上の空論なりとし、如何にも、地方經濟通吾れ一人なるが如くシタリ顏をして居るものがある。彼等は、彼等自身、時代錯誤の人間にして、教育の何物たるも、又、それと諸他の國務との關係の何物たるかをも、眞に自覺し居らざるを、自ら證明して居るものに過ぎない。試に問はん。軍艦を作り師團を增し、監獄や裁判所を增して、之に年々巨額の費用を投じ行けば、何年の後に、果して義務教育を八年に延長する餘力生ずる見込ありや。君等は、此上、教育の國家の發展上に於ける根本義を知らざる第三者の實を妄信して、餘りにお人のよい、薄馬鹿振りを發揮せざる用心を要す。勿論、現今の教育の方法には、改良すべきものなしとはいはぬ。教育の內容及び施設が市町村の實際的要求に合致せず、ために、卒業生が勞働を厭ひ、實業を卑しむが如き風を致すもの、往々にして之あるは、教育者の大いに猛省せざるべからざる所である。教育を加ふること一年多ければ、人として並に家業の繼續者として、俊秀の成績を現はす如くならねばならぬ。されば、八年の義務教育は、大いに土地の情況に合致せねばならぬ。或は、土地の狀況により、適切なる實業を加味したる補習教育を以て、義務教育に代ふることを許してもよい、義務教育延長のために益々拱手徒食の輩を簇出せしむべしとの杞憂は、活社會を知らず、活教育を解せざる老朽教員の淘汰によつて莽月の間に面目を一新することが出來ることである。吾人は、此際、未だ宿醉、午睡より覺醒せざる少數の教育家を戒むると同時に、教育社會が、一致結束して、

國論を振作せんことを希望する。――五・八・一――

三五　町村を背景とせる教育施設

如何に資力の豐富な國でも、無駄遣はすべきものでない。我が日本の如く、眞正正銘の貧乏國では、猶更の事である。吾々は、一方には、義務教育の年限を延長すべしとか、海外視察委員を派遣すべしとか、積極的に金のかゝることを主張して、一日も早く之が實現を翹望しつゝあるものであるが、他の一方には、繩一尺古新聞一枚と雖も、無駄にせぬ樣に注意したいと思うて居る。貧乏國の校長、教員として、無し〳〵の金を任せられ、之を以て、教育上、世界に拮抗して遜色なき實績を擧げんと思へば、並大抵の注意努力で追ひつくものでないことは、言ふを俟たぬ。

此頃、或る地方で、さまで富裕ならざる町村に、五百圓からの體操器械を設備して居るといふので、大分熱心になりかけた體育振興事業に疑を挿み或は公然之を冷評するものがあると云ふ事を聞いた。吾輩は、某町某村について、未だ具體的の調査を遂げて居らぬから、當事者と批評者と何れが正しいかを、斷言することは出來ぬ。乍併、かゝる事實は、各般の教育改良事業に伴ひ、今後續出せんとする活問題であると信ずるが故に、一言、兩者に向つて吾人の意見を陳述し、參考に資したいと思ふ。

例を問題になつて居る體操の設備に借りていふならば、市町村は、體育奬勵のために金をかけることなしに、立派な成績を擧げよといふのは、勿論、無理なことである。理科教授の改善といへば、實驗材料費とか、器具機械費とか、如何しても、若干の經費をかけねば、實行が不可能であるが如く、體操の如きも、或度の裝置が必要である。成程、農村の百姓などが、卒業後金棒にすがつたり肋木にブラ下つたりすることはないから、在學中のみ金のかゝつた器械を使用するのは釣合がとれぬといふ批難も、一應尤もである。乍併、これも極端に行くと、寒暖計の話も、晴雨計の話も、酸素の實驗も農村には必要なしといふことになつて仕舞ふので、今日の國民教育といふものを、今の百姓を標準として立案することは間違つて居る。殊に、狹い天地に、多數の兒童を集め、所定の時間以内に於て事を行はんとすれば、勢相當の膳立をして置かねば、時間と勢力との徒費を來すもので、其の方が、却つて不經濟となるものである。例へば、鐵棒を作るならば、矢張り一間や二間位の標本見た樣なもの丈を作つたのでは、實際の教授に間に合ふものでないので、作らぬならば別であるが、若し作るならば半分同時に使用し得るか、少なくとも全級兒童の三分の一が同時に使用し得る丈のものでないと用をなさぬといつた樣なものである。それ故

に、五百人の兒童數を有する學校が、五百圓の器械體操を設備して、若しこれで、五年も使用するものとすると、一人の子供は一年間に二十錢の金を拂ふことによつて、體育上十分効果ある事(果して出來るならば)となるので、それは、寧ろ安價なものである。一ヶ月に二錢位の金をかけて、身體の必要なる修練をすることは、如何に貧乏國の、而も田舍の子供であるからとて、決して批難すべき程の事柄ではなからう。それでもし、五百圓といふ金が、十分の愼重なる調査研究を遂け、其の品質に於て、其の形式に於て、其の體育上の價値に於て、一點批難の打ち所なきものならば、吾々は、寧ろ批難者に向つて、暫く口を箝すべしといはんと欲するものである。乍去、若し、片田舍の農村に不釣合なる贅澤なる裝置をなしたりとか、子供向きならざる大人用のものを其儘敷設したりとかいふが如き杜撰、不親切、非實用的なるものを備へたりといふが如き批難に向つては、吾人は、何等の假借する所なく、其の不都合なる當事者を譴責せんと欲するものである、吾人は、屢々市町村の小學校に於いて、大人用の並行棒、木馬の如きものを設備せるのを見た。而して、試に何人に向つてかゝる設備をなしたりやと問へば、府縣師範學校の體操教員の指揮を受けたりといふ者もあつた。玆に於て、一は師範學校の教諭に、此の如き沒常識の教員あるかを惟しむと共に、かゝる人に一任して何等の考慮をめぐらさざりし無智の教員を憐まざるを得なかつた。それで、吾人は、此際、一應、當事者たる市町村の小學教員にも、十分の反省を促して置きたいと思ふ。元來鐵の棒は、歐米の如く、雨雪の少ない、鐵の安價な、而も、氣候乾燥して居つて、容易に錆の來ない國には適當かも知れぬが、日本の如く、到る所に竹といふ闊法なものが存在する國では、竹を以て藤棚の樣なものを作つて、數十人同時に懸垂する樣なものが、安價で便利ではないかとも思へて居る。攀登用の棒の如きも以前は、西洋の眞似をして、高價な樫の棒などを以つてしたのであつたけれども、我が附屬小學校の如く、竹の棒を使用して、結構間に合ふ樣なもので、梯子にしても平均臺にしても、日本の加く、調法な竹あり、安價で木材等の得らるゝ國に於ては、必らずしも、都會地の某々發賣元に注文するが如き無責任なる方法に出でず、十分に調査研究して、可成安價にして、而も堅實安全なる地方向きのものを案出することが極めて必要である。これ獨り、體操器械についてのみならず、學校建築に於て、校具諸機械に於て、理科、裁縫、手工等の諸學科教授方便物に於て、等しく三省すべき事項である。要は、職に市町村にあるものは一厘一錢の微と雖も、其の費やすに於て、拙なりといはるゝことなきを期し、十分に其の土地の事情に調和したる計畫を立てんことを切望する。——五・九・一——

三六　日本の運動界

會て學生相撲大會が開かれた時に、關西組と關東組との間に、激烈なる競爭があつたが、要するに、關西組は平素の練習を積める點に於て、優れて居るといふ評判であつた。大阪や神戸を中心とせる關西の體育熱は、昨今益盛なものである。大阪に於ける社會教育の一例を擧げると、大阪市體育奬勵會の事業の如きは、日本唯一の活動的のものといつてもよい。其の水泳練習會の如きは、堺、西の宮、大濱に於て、大阪市内尋常科第五學年以上の男女兒童六千餘名に三週間水泳をさせて居る。其他、中の島公園運動場の指導、大典奉祝記念大運動會の擧行、市内各學校教師全體に對する軍隊教練並に學校體操遊戯の講習、體育に關する各種の調査、就中、公衆運動場の設置、簡易天幕旅行案、大阪市民體育の狀況の調査等は、大いに見るべきものである。又大阪の一般社會は、體育に關する設備に注意し、市が、劍尖並に淀屋橋大江橋に至る兩岸埋立工事の竣成を機とし、數千坪を提供して、美と實益とを兼ねたる中之島模範的運動遊園地を設けたるが如き、又、民間に於て、鳴尾に、敷地實に五萬坪に餘るグラウンドを作つて、東洋第一を誇稱しつゝあるが如き、大濱、濱寺、樽井を初めとして、南海電車を利用し、淡輪、和歌浦等まで、海水浴場として利用しつゝあるが如き、更に、特筆大書すべきは、大阪發行の二大新聞たる朝日と毎日が、競うて運動を奬勵し居ることである。關西の運動界は、獨り學生の云爲する所のものでなくして、老人婦女に至るまで、等しく騒動する社會全體の出來事となつて居る。運動する人も、學生のみならず、銀行會社諸官署に奉職する中老が、中々に熱心なる體育家であつて、例へば、岐阜縣廳内の高等官が、大阪府廳内の高等官に、テニスのマッチを申込むといふ情態である如き、皆之を語つてゐる。大阪府廳の如きも、今夏廳内にテニスコートを作つた樣な始末である。運動熱は、確に關西に瀰蔓して居る。現に九月三日四日及び八日に於ける極東オリンピック豫選會の出席を見ても、學校として、各種の陸上運動に堪能なる選手を多く出した學校は、全國中、先づ指を神戸高等商業に屈せざるを得なかつた。

翻つて、關東方面を見ると、學生の質に於ては、決して關西選手に劣つて居らぬけれども、練習の點に於ては、大に遺憾がある。東京市には、大阪市體育奬勵會の如きものなく、陸上運動をやる場所もなく、水泳をやる場所もない。戸山學校の運動場を借りたり、埋立地の草原を借りたり、赤羽の製廠會社の池を借りたりして間に合はして居る有樣である。而して、如何なる人々が見に來るかといふと、九分九厘までは學生であつて、社會の有力者が、一向に見に來ない。都下

の新聞社は比較的熱心に報導して呉れたけれども、此等の新聞でも、一として、大阪毎日の半分丈の紙面を割いたものもない。吾輩は、別に、關西關東が、相對抗して勝負を決せんがために、關東を彼是いふが如き、ケヂな量見は毛頭持つて居らぬ。實は、こんな名前は、如何にも小人島根性めいて、可笑しいと思ふのであるが、大阪や神戸が、既に覺醒して居るのに、東京が猶未だ武陵桃源の睡りから覺めぬのを遺憾なりといふのである。歐米の運動場施設の活動については、曾て、本紙に紹介したこともあつた通り、米國のシカゴ市や紐育市の如きは、十一ヶ年間に各三千萬圓餘を支出して居る。一つの市が、平均毎年三百萬圓づゝ支出して、運動場を作り、運動の設備をなしつゝある譯であるが、五大強國の一つとか、東洋の盟主とかを以て任じて居る、我が大日本帝國の首府に於て、一つの碌なグラウンドも有つて居ないといふことは、貧弱も餘りに極端である。これは、取り急ぎ何とかせねばならぬ問題である。

幸に、大日本體育協會があつて、全國に於ける體育團體の中央機關を以て任じ、かねて、世界的オリンピックゲームに出場すべき選手を豫選する機關、極東オリンピックゲームの選手を豫定する機關となつて居り、全國選手を見ても、年を逐うて成績を高め、本年の如きは、新レコードを五つも作つたといふ好況で、短距離に於ける高師の東に、神戸商業の神谷、遠距離に於ける同志社の加藤、二高の鈴樹の如きも高師出の金栗多久慶應出の非手等と角逐せんとする勢を示し、鐵丸投げの大阪藤田組の伊藤、圓盤投げの高師の石井の如きは鮮なものであり、棒高飛びの早大の三吉、十種競技の高師出の野口の如きは、何れも斯界の珍とすべき選手である。のみならず、水泳について見るも、札幌農大の如きは關西多年の雄たる和歌山中學の油田氏を凌ぎ、高師の齋藤の如きも横濱の鵜飼氏を凌いで内田と覇を爭ふの域に達して居るやうな有樣で、日本の體育競技は、年一年に進みつゝあるから(一)顧くは、中年老年の男女の體育を盛にし(二)社會其物がモット體育上覺醒して來(三)輿論を喚起して可成早く適當のグラウンドを作らねばならぬ。此の點に於て都下の新聞雜誌も國民體育問題に、今少し興味と同情とを持つてほしい。來年五月の極東オリンピック大會は、日本に於て開かれる番であるが、碌なグラウンドも持たぬとは如何にも國辱である。ドウカ此際チト大規模なものを作りたいものである。――五・一〇・一――

三七　家事裁縫の改良と法令との接觸

第八回全國訓導協議會は、家事裁縫擔任教員の代表者七十名を以て、五日間我が附屬小學校に開催せられた。吾人は、此際、廣く滿天下に向つて注意を促して置きたいことがある。

第一裁縫科は、我が國では尋常第三學年より、而も毎週一時間宛課して居るが、微妙な筋肉練習を豫定する技能教科を幼弱なる兒女に課するのは問題である上に、毎週一時間といふ時間は、徒に學習を多岐に渉らしむるだけで、効率の少ないものであることは言ふを須たない。裁縫は圖畫や習字や唱歌などゝ違ひ、餘程實用的な技術的な職業的氣分の多い學科であつて、歐米諸國の例に徵しても、寧ろ高學年に課するのが適當である。

第二家事の教授である。女の子を女らしくならしむる學科は家事で、裁縫は實に家事の一方面である。我が國では、昔御針の先生に、女の子を通はした習慣を繼承して、實は高等小學校か補習科で初めて十分に授け得べき性質の裁縫をば、特に尋常第三學年頃より獨立の一教科として課するといふ思ひ切つたことをして居るのに、衣食住其他婦人としての心得の上に重要なる意味のある家事をば、高等小學校に至つても獨立の教科として認めて居らぬことになつて居る。家事は理科の一部に毎週一時間借住居をして居るが、これも理科と連絡あるものに限り、附帶的に幾分の説明をなし得る位のもので實習の餘裕もない有樣である。近年子女の本位が下落しつゝあるのに、小學校の女子が中學校の男子以上に、多くの課業を受けて居るのは、實に可哀想である。

第三裁縫授業用に鯨尺を使用する不都合である。同じ長さを計るに曲尺と鯨尺の二種を併せ用ふる必要のないことは明かなことで、曲尺は基本尺となつて居るのに、裁縫の場合に限つてのみ態々鯨尺を使用する必要は斷じてない。東北地方の如きは、古來裁縫にも曲尺のみを用ひて何等の不都合がない。忙はしい世の中に裁ち板は曲尺で寸法を測り、裁つ布は別の鯨尺で測るなどいふ馬鹿々々しいことは、默つて居られる筈のものでない。一日も早く改めねばならぬ。

——五・一一・一——

三八　教育者海外派遣を實行せよ

地球上の人口十七億、其の增殖率は百の一を下らず。假に百年にして倍するものとするも百億に達するには三百年を出でず、我が日本は、新領土を合せて七千萬、百年にして優に一億に達するは理の見易き所なり。而も、耕地面積は今日の二倍以上に出づること難きは、疑なき事實なり。彼の英國が自國に九十倍する植民地を有し、佛國が自國の二十二倍、獨の後進國を以てするも、尙自國の五倍に當る領地を併せ、米露二國は、茫々たる大陸を奄有せるに際し、我が日本は如何にして億の民衆を養はんとするか。大國の資質は、外延に於て國の大と人口の多との二つを要し、內包に於て、國民の體力、智力、德力、財力の四つを要す。大和民族は、今後益生々繁殖

せざるべからず、而して、繁殖せる多數の民族は、四大力上、優良の民として、地球上に發展せざるらべかず、然るに、明治維新、開國茲に五十年、而して同胞の海外にある者、僅に二十五萬に過ぎず。支那の如き、中華自から居るの國を以てして、尙一南洋方面に於てすら、優に二百萬の民衆を出し、堂々たる邸宅を構へ、馬車自動車を驅りて雄飛するに當り、日本は、其の一二の室を借用して、僅かに雜貨を鬻ぐものを上とし、機械的勞力の供給者を以て中とし、醜業婦を以て下とし、而して多數は中と下とに過ぎず。

新興國といひ强國の伍伴に入れりと誇稱する我が國民は、深く己れの眞地位の何たるを自覺せざるべからざるなり。世界的戰爭は、我が國をして、商工界に奮起する所あらしめ、純然たる債務國として、部分的債權國たらしめ、本年の貿易は、三億五千萬圓の出超を見、輸入七億五千萬圓、輸出十一億萬圓、合計十八億五千萬圓の輸出入を見たるは、開國以來未曾有の發展にして、吾人の大白を浮べて祝せざるべからざる事に屬す。乍去、米國の如きは、昨年に於て旣に三十四億圓の出超を見、本年は、更に出超を數倍せんとすといふを見れば、七千萬の日本人の活動と九千萬の米國人の活動とが、算盤の桁を異にすることの大なるを思はざるべからず。我が國と歐米列强とを比するときは、諸他の方面に於ても、亦之に類するもの少なからず。我が國民たるもの、當に肝膽相照して、國運の作興を畫すべきなの秋なり。然るに、外交は空權を爭ひ、政治は黨弊に惱み、內に留まるの農牧は、祖先の田園を細分して、親族徒に相含み、外に出づるの工商は、粗製濫造、食言逆行して信用忽ち地に墮つ。これ我が社會の實狀にあらずや。吾人は、現代の大多數に失望し、寧ろ望みを新日本の新生命を開拓すべき今後の少幼年に繫ぐの外なしと信ず。之を、同時に殊に教育に從事する者は、先づ自から氣宇宏恢、學古今に涉り識東西を兼ね、剛健質實、能く二十世紀大國民の師表として彼等純白の紙面に、誤りなき大精神を印刻せるものなるを要す。これ固より一朝にして成就し得べきことに非ず。而も、何よりも急務なるは、教育者の氣宇を擴大し自仕濶達、天下國下を念として、民族を指導するの熱氣あり磁力あるを要す。教育者の海外派遣は、之を實現する最も簡單にして最も實効あるものの一なり。試みに一縣、年々十名の教育者を海外に派遣するとし、二ヶ月の日子と五百の旅費を與へて、或は布哇加奈太合衆國、或は墨國南米、或は臺灣、比律賓、セレベスボルネオ爪哇、或は香港、新嘉坡、シャム佛領支那、或は朝鮮滿洲支那、或は北海道樺太露領沿海州等に見學旅行をせしむるとせよ。全國五百名の費用二十五萬圓を以て足るの小額にあらずや。若し各府縣が三千圓を負擔せば、國庫は十萬圓を補助するのみにして足れり。大なる府縣は、全額を支出するも、固より何等の痛痒をも感せざる少

額なり。既に、大阪府東東府の如きは、府の費用を以てし、或は中學校長を留學せしめ、或は數名の海外視察員を派遣し、望外の好成績を收め得つゝあるなり。海外視察の實際の効果を疑ふ者は、未だ海外の空氣を呼吸し、海外の水を飲みたることなきものに過ぎず。何事も問ふ事を休めよ、教育者をして、船に乘りて海外の土を踏ましめ、一二ヶ月の間、日本以外の空氣を呼吸せしめよ。これ丈にて十分の効果あるなり。教育者に、この空氣浴を施し、この轉地療養を施して得たる一種の靈感によつて奮鬪せしめよ。玆に日出の新興國の氣魄は、勃々焉として作興して止まざるべし。「大八洲の國は、我子孫の王たるべき地なり。」然り、天祖以來、我が國民は、國を出て、國を作り、父と別れて自からの運命を開拓せし國なり。純眞の日本道は、開國進取にあり。涼水のメダカの如く、停滯して遂に餓死するを俟つは、晩年末派の邪道に汚れて以後の事なり。宜しく、世界を家として雄飛呼號する剛健の民を復興すべきなり。故森文相は、自墮落の幕末明治初年の書生々活を一變し、日本國民の規律ある勤勞の何たるを理解せしめんとて、第一に着手したるものは實に師範學校の改良なりき。海外發展を國是とせんとするものは、先づ教訓者の頭腦に洗禮を施すを要す。教訓者の海外視察を以て物見遊山の類と見做すものあらば、そは、未だこの問題の意氣を悟らざるものたるに外ならず。——六・一・一——

三九　一誠萠百道生

我々の希望して已まない教育は、兒童の一生涯を通して、忘る能はず背く能はざる磁石力ある教育である。

余の讀書癖は、某先生の賜である。この習慣は某先生の教訓の結果である。少年時代のあの修業は、一生涯を通じて、余に恩惠を與へた。吾輩が此の專門にはまり込んだのは、全く某先生の感化の結果である。吾輩の今日あるを得たるは、某先生の處世訓の結果であるといふ樣に、其人が、喜字の祝をされ、米字の賀をされる老齡に及んでも、某先生の感化、教訓激勵を想ひ出して、つく〴〵と其の至恩を感謝するといふ樣になる教育こそ、吾々の求めて止まない教育である。

人間は、長くして七八十年の生命しかない。五尺の身體を勳章で塗り固めて見た所が知れたものである。位人身の榮を極めて、稻荷大明神と競爭して見ても、壽命は矢張壽命である。陶朱猗頓の富を積んで見ても、一日に米一石食ふ用もなし。近江聖人は、小川村の百姓家の間に居つて、靜に天人の至道を說いた人で正一位でも大明神でもない　尊德先生は山野の間の百姓を相手

として、懇に利用厚生の道を授けた人で、大勳位でも、公爵でもない。功名富貴は決して呪ふべきものではないが、たとひ狹小の領域内でも、之に、深刻にして磨滅せざる感化影響を與ふることは、決して、世俗の狃ふ功名富貴に劣るものはないことを教へねばならぬ。蓼喰ふ虫も好き好きである。馬に騎つて胸に勳章をつけて走り廻ることを好むものは、それをやるがよい。選擧の競爭をして見たい人はドシ〳〵やるがよい。之と同時に、一町村の教育を双肩に擔ひ、さゝやかな石碑に、青苔の蒸した後までも、忘れられぬ仕事をし得たならば、人生亦不足なしと觀念すべきものである。願はくば、吾々教育界に籍を置く十數萬の教育者中、百分の一なりとも、死して社に祭られる人が欲しいものである。府下戸倉村の先校長は、死して村葬を營まれた偉人である。靜岡縣杉山部落の片平翁は、死して氏神社前に祭られたる傑士である。此の如き人々の事業は、今後の堅實なる國勢發展の第一礎石をなすもので、極めて重要なる事業である。而して、今日、國民教育に從事する教育家に取つては、庶幾すべき恰好の仕事である。自家畢生の事業が茲にあることを自覺して、造次にも顚沛にも、勞して勞を知らざるに至れば、大小廣狹の差こそあれ、人は皆神である。

かゝる境涯に達し得べき要件固より多々あるが、是非なければならぬ一條件は「我等の愛兒（被教育者）の一生涯に對する十分の理解を有し、彼れの一生涯を我れの一生涯の如くに考へ、法によつて命ぜられたるにあらず、人によりて依賴せられたるにあらずして、自發自營、百方畫策し、苦心する赤心之れである。人一たび此の境地に至れば、都市教育家は都市教育家の使命を知り、能く之に適應せる教育方策を案出實行することが出來る。兒童が不潔にして惡臭を放ち、鼻汁を垂らし、陰虫を背負ひ居るを見る時は、別にペスタロッチーヘルバルトの教育原理を尋ねずとも彼等をして、湯に入らしめ、進んで家庭をも改めねばならぬことが分る。トラホーム患者が多ければ、有志家と謀り醫者と談じて、之が驅除撲滅の策を立て、父母が貧民にして上級生の缺席が多い事實あれば、事情の止むを得ない限り、尋常五六年生は、夜學を以て義務教育を施すといふ案も自然立つて來る。兒童の弟妹が兄姉の手足絆となつて就學を難んずる事實を見れば、敢て、歐米の幼兒保育所の話を聞かずとも、近處の家をかりて、弟妹の學習時間中樂しく遊ばせる方法が考へつくのである。若し、折角六ヶ年の教育を施しても、卒業後、直に惡青年の配下となつて、墮落する事實を知れば、卒業生を堅實なる職業に從事させる樣、斡旋指導してやらねばならぬことは、別に外國の職業指導を研究せずとも分つて來る筈である。同じく義務教育六年を引きうける教師中にも、兒童の一生涯を思ふと意義に非常の差がある。前にも後にも、一生涯に學

校通ひをたつた六年しかせぬといふ時の教師は、無冠の帝王である。片田舍であり、貧民階級であり、父母が暗愚であればある程、教育者の使命は重くして尊いのである。之を悟つて十全の努力を捧げる人が、死して社に祭られる人である。――六・三・一――

四〇　よいかな此の擧

吾人は、前々號に於て、教育者の海外視察の急務なる所以を力説して、一刻も早く之を實現すべきことを慫慂したるは、讀者の記憶に新なる所なるべし。然るに、議會は不幸にして、解散せられ、國家の新事業は、事の大小善惡に論なく、總て一ヶ年間無條件延期を見るに至れるを以て、かゝる企てが、縱令政府當局者の贊成を得るも、尙其の實現は、幷月の間に見るを望むべからざるに至れり。然るに、突如として快報は吾人の耳朶を襲へり。「實業の日本社」は、創刊滿二十年を迎へたる故を以て、記念的事業として、小學教育者十名を、全國小學校長中より選拔し、米國に派遣せんとすること之なり。其の趣旨に曰く、

想ふに、國民に世界的智識を授け、世界的氣宇を養ふの道一にして足らずと雖、小學校教育者の頭腦を開發して世界的たらしむるより急なるはなし。小學教育者は未來の國民を養成すべき重責を有し、且つ、日常國民に接觸する機會最も多し、隨つて、彼等をして世界文明の中心に遊び、親しく世界の大勢に接觸するを得しめば、獨り我國小國民をして世界的大國民たるの素を養はしむるのみならず、同時に、又現代國民に重大なる影響を與へ、國運の發展に貢獻することゝ多大なるものあるべし。

歐洲各國文質彬々學ぶべきもの多しと雖も、今や戰雲漠々、又之を探るに由なし。獨り米國に至つては遠く戰局を離れて、平和の光に浴し文物制度國に備はり、學ぶべきもの亦頗る多し、殊に、教育の制度及び實際の運用を視察し、世界文明の精華を味ひ、米國魂の由來よる所を明にせば、將來我國の發展に貢獻すること蓋し多大なるものあるべし。

と。かくて、外國と密接の關係ある十府縣につき、候補者を物色し、文部當局に諮つて、各府縣より、各一名づゝを選拔し、往復約三ヶ月の豫定を以て派遣する計畫なりといふ。

惟ふに、世界的大戰局開始せられて以來二年半、慘風憎雨屍山血河、平和の克復果して何れの日にあるかを知らずと雖も、戰後の舞臺は確かに文明史の一轉機たるべく、世界の地圖の改められ、列國の勢力は消長を免れざるべし。而して、政治教育經濟學術等の諸問題は、何れも、世界的企畫を要するや切なり。我が日東の大帝國は、東洋の一隅に僻在する亞細亞の日本たるに滿足

せず、東西兩洋の文明の縫合線として、世界的大氣宇大精神を以て計畫し實行せざるべからず。

此の意味に於て實業の日本社の事業は事小に似て小にあらず、日本全國の富豪に向つて、普通教育小學教育の如き國民の根柢を培ふ方面に十分の努力を注ぐべき所以を敎へ、全國十數萬の小學敎師に向つて、百萬の援兵を得たるが如き感を與へて、勇躍事に當るの氣象を揮はしめたる丈にても此の擧の効果は十分なり。

從來の所謂海外視察者なるもの、殆んど官吏實業家專門學者の一部に限られ、最大の重責ある小學敎育者の之に與るものなきは、國家國民の普通敎育を重視せざる一反映と云はざるを得ず、而して、我が學界及び實業界の駸々として、年と共に進み能く歐米と雁行するを得るものの、洋行視察、探長補短に由るを想へば國民敎育に從事するもの、獨り國内に蟄居し、世界の大勢と沒交渉なるべけんや。

とは、よく肯綮に中れるの言なり。人或は、視察員の語學の素養なきを以て、其の得る所果して幾何なるべきやを疑はんとす。然り、語學は可成堪能なるに如くはなし。然れども、余輩が本誌前々號に述べたりし如く、海を渡つて異國の天地を見、彼國の空氣を吸ひ、彼國の水を飲み、異なる山川風物に接したる丈にて、活字にて傳ふる能はざる、舌端にて語る能はざる、或る一種の直覺と靈感とに、一段の價値あることを忘るべからず。「百聞は一見に如かず。」正に活字を以て活社會を見るべきなり。米國の潑剌たる社會は、新興國の我が日本の將來を策成すべき重責ある敎育家に、何物かのインスピレーションを與へずんば止まざるべし。願くは、實業の日本社の壯擧に感激して、天下幾多の志士仁人が、かゝる國家經綸の根本問題に向つて、興味と同情とを注ぐに至らんことを。——六・四・一——

四一　敎員の修養について

人間は一生未成品である。特に、敎員は、人の師表たる職責上、一段修養に力めねばならぬ。これ、我も人も、皆知つて而して怠らざる所である。但、其の方法の賢愚良否は、愼重に考慮せねばならぬ。修養の主なるものは三つある。第一は、本を讀む、第二は人の話を聞く、第三は旅行交際等によつて、實際上の見聞を廣めることである。三者を通じて一般に望むことは、敎育者の眼光は、今日までよりも、一層高く遠くあらねばならぬといふことである。世界の大局にも通じ、一國敎化の全般にも渉つて、一通りの理解を有し、而して、自家の專門に關する學術技藝を深くすることを要する。人に接するも亦然りで、敎員は、敎員仲間とのみ往來する丈にては、見

聞の範圍狹く、一國一地方の指導階級として、十分に其の職責を發揮すること難い。知事や內務部長可なり、參事會員可なり、代議士可なり、郡村有力家可なり、教育者は、虛心快腸、能く此等の人々と談笑して、氣宇を慨宏にし、快男子快婦女人として、一匹ざしの人たるを要する。狐鼠々々然として、社會の一隅に蟄伏し、羽織の背絞をのみ眺めて、一生を終るには及ばない。然るに、役所の落成式に呼ばれ、橋梁の開通式に招かれ、會々世間の名流と一堂に會する機會あつても、平素世間を知らず世人と接せざる結果は、全く異鄕に來れる如く感じ、卓を共にするも共通の話題を見出すこと能はずして、沈默し回避し、終に、一二の同僚を場の一隅に見出して「君の校は教授細目を作製し終へたりや」といふが如き話題の外、何等話しかくる問題なきに苦しめるものゝ如きは、現代教育者の典型である。これ、世人をして、教育者は偏狹なり因循なりしといふに至らしめた所以である。甚しきは、陰險なりと酷評する者すらある。乍去、吾人を以て之を觀れば教育者は決して陰險なる者ではない。教育界は、決して危險人物に富んでは居らぬ。否々、猫の如きお人好しを以て充ち滿ちて居る。日本人の他の職業に比して最も眞面目な、正直な、正直といふ上に馬鹿といふ形容詞を附しても差支なき程のお人好の團體である。然るに、それが、他の社會から見て、陰險の如く見えるのは、呪詛逡巡して言ふ所を知らず、イエスとノーとの判明を缺き、何となく、不透明體であるからである。これ、教育者の修養上大に反省すべき點である。

次に注意すべきことは、好學求道の心を失ふまじきことである。少し古く教職に從事せる人々であつて、斯の心を失はない人は、極めて少ない。古い校長などいふ人は、此の點に於て、甚だ信用が出來ぬ。先達の全國聯合教育會議で、校長試驗の必要が說かれた、これは、校長といふものは、一方から、餘りつまらぬものであるといふ反證である。實際、吾々は、一度ならず、全國の選良校長と見做すべき人々の出席せらるゝ全國何會といふものに出席して、校長、而も某府縣で一二といはれたる指折の校長諸君の議論を聞いて、其の實際に迂濶であつて、全く實際界の輿論でも要求でもないことを、得意になつて縷述するのを聞いて少なからず、呆氣にとられることがある、これは、年齡はさまでもないが、精神的には、大年寄であるといふことを示して居るのである。文部省を初め、各縣に於て、校長會といふものを開くけれども、大抵の校長といふものはボケて居つて、役に立つものは極めて稀である。寧ろ訓導がよい、教諭がよい。中等以上のことは暫く問題外として、小學校教育界のことについては、校長とか首席訓導とか郡視學とかいふ人々は、好學求道の熱心家率先者でなければならぬ、講習會を開いても、講話會を催しても、校長といふものは碌々聞きもせず、甚しきは、別席に校長會を開いて、講話などは平訓導の聞くべ

きもので、校長先生などの聞くべきものでないといつた風をすることすらもあるなどは、怪しからぬことである。體操の講習でも農業の講習でも、苟くも、其の縣なり郡なり町村なりの教育者が、是非研鑽する必要ありとして選定したものである以上は、校長も視學も、率先して、双肌ぬいで之を學び、之を行ふ覺悟がなければならぬ。これが、見せかけのためでなく、眞に心から其の必要を感じて居らねばならぬ。

勤續幾十年、辨當を運ぶこと何萬何千、而も、何年來、本も讀まず、講話も聞かず、單に、日々の出來事をよい程に片附ける丈の人間ならば、既に、人の師たる資格はない。都會地の校長などにも、特に、大きな面ばかりして、内容の空虛な看板倒しが少なくない。大臣を呼ぶに〇〇君を以てし、氣位ばかり高くなつて、實は、准教員にも劣る頭腦のものも少なくない。校長試驗の必要は、實現が出來るか如何か疑はしいが、一種の皮肉的教訓がある樣に思ふ。幸にして、我國初等教育界大多數の教育者は、尚、眞面目である、熱心である。吾輩は、尚此の上に、以上の數點を加へて、益々完璧の域に達せんことを望んで止まない。――六・六・一――

四二　小學教員給の國庫支辨

小學教育費の一半を、國庫支辨とすべしとは、最早、議論の時代にあらずして實行の時代である。高田前文相は、此の問題に指を染めんとして、未だ成らざるに其の職を去つた。岡田文相は、教育界多年の輿論に通曉せらるゝ人である。又是なりと認めたる件に對しては、之を履行せんとする誠意ある人たることは、何人も疑はざる所である。田所次官赤司局長も、教育界の輿論の何たるかは百も承知で、新次官新局長としての面目にかけても、此際何かやらねばならぬといふ責任感と意氣と抱負があるに相違ない。而して、從來手をつけ得なかつた此の問題を、愈、實際問題たらしめんと努力しつゝあることが、近頃の新聞紙によつて報導せられる樣になつた、吾人は、必らず、その事實たるべきを信ずる。外にあつては、英獨佛を始め、國庫からドン〳〵金を出して、教育を盛にせんとし、最近、英國の如きは、更に三千五百萬圓の國庫金を支出して、教育刷新費に充てんとして居るとのことである。四千五百萬の英國人が、教育費に、國庫からそんなに金を出すのに、六千萬人の日本國民の教育費に、國庫から總體で二千萬圓位の小學教育費を支出されぬ道理はない。我國の大藏省が古今未曾有に裕福な情況であることは、隱れもない事實である。而して、野には、政友會も憲政會も、皆、國庫補助の必要を黨議として居る。地方長官も、頻にこれを要求して居る。天下何人が之に反對するものある。實にこれ、國民一致の聲で

ある。金があつて、而も、全國民の輿論を後援とせる當局者は、今の時を措いて決して、二たび此問題を、よりよき形勢の下に論議することがあらうと思はれぬ。國庫支辨問題は、實に此の時を逸しはならぬ。國庫支辨の金は、教員給の半額として二千萬圓とすべし。これは、一文もまからぬ限度である。而して、他の二千萬圓を町村より支出せしめば、幾分、國民教育者の待遇を改善することが出來る。戰後に於ける國運發展策は、救急的一時的もの以外に、永久的根本的なものを要する。國家の將來に大なる期待を有する吾々七千萬の國民は、我等の愛兒＝第二の國民＝を教導し吳るゝ適任者を得んことを何よりの先決問題とせねばならぬが、今や果して如何なる情態になりつゝあるか。大正三年の調査によれば、全國師範學校の入學志願者が、一度に二千六百名の激減を示し、或る府縣では、補缺試驗を行はざれば、定員を充す能はざる慘狀を呈したではないか。思へ入學を中止して他の有望なる職業を選ばんと欲する程のものは、同じ志願者中でも、寧ろ優良の部類に屬する者で、前途に望み少なしと見做せる間に立つて、尙入學を希望する者は、寧ろ優良なる部類に屬せる者なることを。かくて、數年の後に、我が日本國民を背負つて立つべき吾人の後繼者を、鼓舞し養成すべき人々が、今日よりも、遙に素質の低下したる、意氣の揮はざる、國民の師表として景仰さる價値なきものによりて教育せらるゝこととなるのである。

吾々新興國の國民は、かゝ情態に晏如たり得るか。基礎の極めて薄弱なる、素養の甚しく低落したる國民に向つて、發見發明せよ尙武愛國の念を會せしめよ、立憲自治の精神を發達せしめよ、實業道德の振興を期せよといふが如き注文を、續けざまに提出しても、それは、無理で矛盾である。過般、岡田文相は、地方長官に訓示して地方によりては、給費不足等のために、入學志願者の減退を來し、師範學校生徒の素質を低下するが如きは、寔に憂慮に堪へず、各位は、必要なる給費を支出し、優良なる生徒を得んことに、一層留意せられんことを望むと要望せられたり。これ實に、小事に似て小事にあらず、七千萬の同胞の教育の良否は、擧つて、教育者の素質如何にあるのである。國庫支辨の問題は、適切にいへば、教員の地位を昂上し、教育を改善する基本條件である。全國小學校教員十五萬人一割五分は十圓以下の俸給で、本科正教員の有資格者中でも、十四圓以下のもの一割七分、三十圓以上の者一割三分、他の七割は、其の中間に位するものである。中には、二ヶ月も俸給を支給せられずして、七割三分の高利を借りて、纔に日常の用を辨ずる教員すらもあるに至つては、餘りに殘酷ならずや。吾人は、此際、多年の懸案を實行するがために誠心誠意を以て、此の問題を一日も早く、閣議に上せられんことを。文部當局者に悃望すると同時に、寺内總理大臣を始め、内閣諸公は是非とも、此の内閣に於て、決行する英斷あら

んことを希望する。若しそれ、議會の問題たらんか、必らず可決せらるゝに相違ないが、若し、一言だも、此の大旨を妨ぐるものあらんか、國民教育者は、明瞭にその黨派を記憶することを要する。――六・七・一――

四三　夏

一ヶ年の人間生活中、最も大なる變化あるは、恐らく夏であらう。正月も可成人の精神を新にするが、然し、一般的には日常生活の上に大した變動は起らない。夏は一年中最も暑い時で吾々は、此の時に於て、殆ど、原始的時代の野蠻な生活に立戻るやうな氣がする。海水浴の如き一例で、丸裸になつて水に飛び込み、砂原に寢ころび、日に照り付けられ、平生、シャツを着、靴を穿ち帽子を冠つて生活して居る人間生活に、一大革命を與へるのである。日光に親み、新鮮なる空氣に親み、水に親み、土に親む此の、自然的生活は、一年中の身體的負債の償却期である。

又、溫泉に行くと假定しても、同樣に命の洗濯である。身體の洗濯たると同時に、精神の洗濯である。若しそれ、山中曆日なしといふやうな浮世ばなれした山奥の溫泉場に行つて、杖を曳いて山に攀ぢ谷に下り、月を賞し虫を聽くといふ樣な生活をし得たならば、百斛の俗塵を洗ひ去つて清新幽靜なる別天地に出入して、靜かに人生を達觀する妙味、忘るべからざるものあるであらう。

夏といへど、吾々は、歸省とか墓參といふやうなことを聯想する。夏の休みを利用して、故鄕の山河を見舞ひ、祖先の墓を展し、質朴な無邪氣な田舍を訪れて、茄や豆や玉蜀黍の御馳走に、田園生活を味ふのも、夏の功德の一つである。歐米の都市の住民は、夏期に於て、植民と唱へて、田園に小屋を作つて、自然的生活を營んで居るものがあるが、田舍に、故鄕あり、親戚あるものは、早速歸省して、田園趣味を味ふべきである。

夏の年中行事の一つたる虫干といふものも、實に面白いものである。書畫骨董、衣類はいふに及ばず、己が幼兒時代の太鼓も雛人形も出て來る。有りと在らゆるものを取り出して、風を入れ、日に曝し、更に整頓して、害蟲と其の卵とを去るのである。虫干なかりせば、祖先傳來の遺物、若くは自から苦心して蒐集した珍寶も、到底永久に保存することが出來ぬ。書畫の趣味あるものは新に書畫を掛け換へ、骨董を道樂とするものは日の暮るゝを忘れ、昔日の樂みを新にすることが出來る。

或る人は、「人は炎熱の甚しきに苦み、吾は夏日の永きを愛す。」と吟じたが、若し此の心を以て

綠蔭の下、靜かに、古今の名著を繙いて、熟讀玩味するといふ讀書の趣味を持つて居る人であつたならば、遙かに古人と語り、遠く聖賢と交る趣きがあつて、趣味津々として盡きざるを覺えるであらう。

子供は、一年中の學校生活と全く異なる、水泳、蟬取り、魚釣りの如き、發動的の仕事に餘念なく、この間に、文學以外の經驗を積み、言語以外の活學を修めるのであつて、夏の休みは、子供にとつて、一年中不足して居るところの自然の實驗觀察場に、自學自修せしむる機會を與へるものである。若しそれ林間學校、夏季休養團の如きものを組織して、特殊の兒童を集めて、木繁り水清きところに、自由の生活を營ましむることにしたならば、夏の惠澤は測り知るべからざるものである。

園藝を解する人であつたならば、夏は彼等に、朝起きと裸體跣足と、日光浴と、勤勞とを敎へるであらう。數へ來れば、夏の人生に及ぼす意味、深き關係が數々あることが分る。

夏は什器の虫干たると同時に、人間の虫干期である。我が敎育界には、夏季講習會の企も、世界中最も盛に行はれて居る。之も平素と違つた一種の修養法である。乍併精々一週間位を限度とするがよかろう。其他、自然が與へた好機を利用して、趣味あり變化ある夏らしい生活を、十分に味ふがよかろうと思ふ。

兒童に向つても、吾々は、多くの課題を與へ、或は復習法を與へて、餘りに規則正しい學習を强ひたり、毎日日記を付けよとか、毎日算術を何題やれとか、本を何頁づゝ讀めなどゝ言つて、仕事を賦課するのは、親切に似て親切にあらず、實は、天の與へた夏の意味を沒却するものであるまいかと思ふ。彼等兒童は、たまに、父母につれられて旅行をしても、宿題のみを心配して、一向樂むことが出來ないといふやうな狀態に陷ることを耳にして居る。これは、その罪輕からざる事である。夏の休みは、須く、兒童が、日にやけて、黑くなつて目の球のみ光らして、九月始めに元氣よく學校に歸らしむるためである。そして學校生活では得られぬ新經驗を齎らして來らしむるためである。一體、平素の敎へ方がよく徹底して居らぬから、一ケ月位で直ぐ拔けてしまふのである。握り處をしつかり握らして置けば、夏の休みなどは、何等の心配なく遊ばして決して憂ふることがない。

大人も子供も、天の與へた夏の意味を、十分に玩味するがよい。——六・八・一——

四四　結局は人

この頃、地方自治體の一有力家と談じた。その地方は、今何千萬といふ金を掛けて、沼を開墾して田にする計畫を立てゝ居るのである。然して其の有力家は、その事業の組合長に推されて、晝夜心を勞して居るのである。その人のいふところによれば、「郡にせよ、町村にせよ、若干の金を投じて、一の事業を起す毎に、何事も困る事は、何十萬の金でも安心して委せられるといふ人のないことである。安んじて一任し得る人がない爲めに、常に嚴重なる監視の眼を以て眺めて居らないと、動もすれば不始末を仕出かし、疑獄となり、事業の蹉跌となり、種々なる醜惡を曝露するに至るのが常である。そこで苦心慘憺漸く選び出した委員中にすら、半數は監督するものを要する有樣である。これ、我が國の事業が繁文褥禮遲々として進まざる所以である。否、更に甚しきは、一二斯る事業の起る毎に何等かの口實を設けて、飲み倒さう、食ひ倒さう、私腹を肥さうとする者が、續出して、あらゆる惡智惠を絞つて、彼方からも此方からも寄り集つて來る事である。明治以後、教訓の進歩は疑ひないが、然し何時になつたら、もつと信用の置ける人間が出來るものでせうか、私共、地方の實務に當るものは、一にも二にも三にも、どうしても本統の堅實なる人物を得るでなければ何事も出來ないと泌々感じて居るものであり、また明治の教育を受け居る人間も、此の始末では實に慨歎の至りに堪へません」と、此れ實に傾聽すべき至言である。

明治教育項門の一針は、實に茲にある。明治の教育は某々學科を教へる用意は中々よく講ぜられた。自働主義だの、分團式だの、隨分苦心されたるものがある。然しながら、一括して、人を造る上に於て、どれだけ進歩したかと言はれると明治の教育も未だ決して、その進歩を誇る能はざるを感ずるのである。獨逸の如きは、世界到る處に、獨探を放つて、自國に利益ある行動を執れといふ漠たる條件の下に、隨分何十萬何百萬といふ大金を、一個人のポケットに振ぢ込んで、活動させて居るといふことである。然して、彼等は、自國の利益の爲めに、あらゆる知慧を絞つて活動し、その金を利用し盡さねば止まぬといふことである。若し試みに、我が國民に此の眞似をさせたらどうである。百萬の金は、小賢しい不正直な彼のために、少なくともその内の七十五萬圓位は取り去られて、殘る二十五萬圓位で責任のがれの小さな事位をして、決算報告が出來るのではなからうか。此の點に於て、英吉利人や獨逸人などは實に正直である。我が國民から言へば、正直の上に馬鹿といふ形容詞を付けたがる程正直である。不幸にして、我國民には、斯の如く正直な信用の置ける人物が極めて乏しいのである。高位高官の人の機密費などすら、その中の何割が正當の事に使はれて居るであらうか。知る人は知つて居る筈である。

小は一部落一町村の事より、大は高位高官、一國を代表する外國使臣に至るまで、十萬なら十

萬の金を、正直に全部職務の爲めに費す人はないとは言はないが、極めて少ないといはれて居る。實に、慨嘆に値する事である。現時、町村を搔き亂して、厄介の種子を蒔きつゝあるものは、比較的學校生活を長くしたものに多いといふ事である。某縣の如きは、東京の某私立大學の商科の卒業生が、村會議員などをして居て、生半可の個人本位主義や社會主義などを振りかざしトルストイ・ゴルキーなどを擔ぎ出し、突拍子もない眞似をやつて、自治團體の厄介者になつて居ることである。之は、ホンノ一例に過ぎないが、內務省が協同親睦克く公務に盡すなどといつて「金八百圓下賜候事」とほめた模範町村の隣り、トルストイの無抵抗主義を喃々し、「協同も何もいらぬ。個人が各自の欲するが儘に行動すれば足り。報德敎や國家主義の舊道德に隨喜する勿れ。」など、夢の樣なことをいつて新らしがる厄介者の發生せるも、明治の敎育界の一部に存在する事實である。敎育を受けて、物事を識り、分別のつくべき筈のものが、反つて世間を知らず、人道を辨へず、社會國家に害毒を流して居る樣な始末では、今日の敎育の効果も誠に心痛に堪へぬものがある。

學者敎育家は、今少し實社會を知り、國民を敎育し、自治愼獨の德を磨かせ、監督者なくして、而も監督者ある以上に立派の仕事をし、市町村に在つては市町村の爲め、國家に在つては國家の爲め、有德の君子として、信用の第一人者として、推重されるやうな人物を造る事に、尙一層の努力をせねばならぬ。——六・九・一——

四五　渡米にのぞみて

實業の日本社の美擧によりて、全國より選拔された十人の遣米小學校長諸君と自分も同行することゝなつた。會計其他の補佐役たる岸邊君と同行十二名である。小學校長海外派遣は、滿天下の敎育者に刺戟を與へたことは勿論であるが、それにも增して、在朝の識者、富豪、學者外國通の人々の激賞を受け、同情を受けたことは、眞に豫想外であつた、澁澤男爵の如きは態々一行のために美を盡した銀行倶樂部に、送別の盛宴を開いて、當代一流の名士と席を共にして談笑する機會を此の一行に與へ、懇切至らざるなき待遇であつて、實業の日本社は、物質的に盡す所あつたのみならず、社長始め社員諸君が、此の一行の、萬端の準備を遺憾なくせんがために精神的に盡された點は、實に一行が感激措かざる所であつて、增田氏は、此の企を若干の物資を投じてやつたものでなく、眞に敎育者の使命を認め、敎育者を尊敬し、其の見聞を擴め、氣魄を大ならしめ、敎育者の品位を向上せしめ、敎育者を幸福たらしめんとの趣意が偶々此の企を生み出したもので

あることを證明した。此の點に於て、吾々は、教育者、殊に國民教育上重大の責任ある初等教育者に取つて、眞の知己を得たことを忘れてはならぬと思ふ。

現今、坤輿に國をなすもの其の數十なるを知らず。而も吾々が、敵としては最も恐るべく味方としては最も頼母しき米國ほど、研究の興味を惹くものはない。富を以てすれば米國は今や世界第一の長者である。而も、それは投機的の富ではなく、地下地上に產する適確なる天產物と之に加工せる製造物とによつて得たものである。貿易額は、一ヶ年百六十億圓を算するに至り、世界第一と誇稱して居つた英國も百三十億がレコードであつたに比して、全世界を睥睨して居る。自動車の如きも今や米國は四百萬臺を有し、人口三十三人に一臺を有して居る。日本の如きは全國を通じて三千臺を出でず人口二萬にやつと一臺しか當らぬ。

此等の製造工業、貿易の進歩は、頭腦なくして出來るものでない。其所には、學理がなければならぬ。其の學理の應用がなければならぬ。米國は新進の學問國である。近年まで、米國の學問は、淺薄であるといはれた、然り、未だ十分に深遠を誇る能はざるものもあるが、外國の新智識をドシ〳〵吸收して居る熱心は、恐らく米國の右に出る國はあるまい、而も獨得の金力を利用して、大膽に應用實行する點に於て世界何國も企て及ぶ所でない。

彼等は、朝から晩まで道德を口にしては居らぬが、實行主義である。勤勞を尊び獨立を重んじ、空理ばかり談じて居らずに、實際に生き居る國民である。機械を利用して人力を省き、寸陰を惜んで能率を高め、正直に天眞流露に自由に活動して之を統ぶるに正義を以てして居る。

彼等は、能く勤め能く遊ぶ。世界オリムピックゲームでは流石の英國も、最早敵ではない。嶄然として世界に頭角を現はして居る。

人種は白あり黑あり黃あり銅色あり、世界の人種の縮圖として眺むべく、殊に日本との關係に於て、移民問題、貿易問題、學童問題等講究すべきもの多々ある。國體に於て政體に於て教育の組織に於て、或る點に於て兩極端を代表して居ると思はれる兩國は、仔細に考覈する時に、一點零厘の共通するありで、實に面白い國である。大觀すれば其處に面白味あり。小察すれば又更に珍らしいものがある。之を望遠鏡を以て眺むべく之を顯微鏡下に置くべく、皆とり〴〵に興味あるものである。

乍然、米國の長所美點に確に邦人を驚かざるものあると同時に、之を歷史に質して之を國情に考へて見ると、學ぶべきものと否らざるものとがある。視察者は、望遠鏡と顯微鏡との外に、羅針盤と解剖刀のメスとを具備せねばならぬ。これまで我國朝野の名士は皆米國を視察したが、教育

者の視察團は始めてゞある。其の見識に於て其の品性に於て、日本の知識階級、道德程度を代表する樣に見られるであらうから、其の任や實に輕からざることである。若しそれ單に觀て土產物を持ち歸るに止まらず、我に對する彼れの誤解をとき、我の眞價を知らしめんとするに於ては、中々容易なことではない。吾々は彼國の家庭を見、社會を見、學校を見る時に、此の重任を果さんがために、最善の努力を盡さねばならぬ。而も、天眞に氣輕に行動しつゝある間に成し遂げねばならぬ。そして往復三ヶ月の走馬燈中に之をやらねばならぬ。然り、これ殆んど自分等の微力には、背負ひきれぬ大任である。唯、誠心誠意を以て之に當るより外に道はない。

——六・一〇・一——

四六　憂國の斷

臨時教育會議が開かれて、我が教育の重要問題は、權威ある人々に依つてその決定を見ようとして居る。これ實に我國教育の將來の爲めに最も期待を大にすべき時である。これ等の問題の中初等教育に最も重大なる關係を有するものは、實に小學教育費國庫補助案と學制改革案であるが、眞に我國教育の結果を一層大きくする爲には、更に最も根本的解決を要する一大問題があることを忘れてはならぬ。若しこれにして十分解決が付かないならば、たとひ學制改革案が外形上如何に立派に成立つても、又小學教育費が國庫から支辨せられ、教員優遇の道が講ぜられても、その實際の教育に於て、依然として到底十分にその効果を擧げることが出來まいと思ふ。一大問題とは何であるか、これ即ち國語整理の問題である。

然るに國語整理の問題たるや、これ或は今回の會議の第一重要のものとせられて居るのではないからう。けれども學制改革の意義をして最も徹底的ならしめる爲には、どうしてもこれに觸れなければならぬものである。何となれば、小學校に於て、その教授總時間數の殆んど二分の一を占領する國語科又中學校に於てその教授總時間數の約四分の一づゝを占領する國語漢文科及び外國語科の成績が、何故に著しく不良であるかは、教育の効果を最後の目的とする學制案が、どうしてもこれを避けることの出來ない問題であるからである。

次に又國語整理の問題は、たとひ如何に教員優遇の道を講じても、それのみでは、到底十分に解決することの出來ない問題である。これは一般に小學教員には勿論、中學校教員にさへその力に餘つた問題である。否たとひ小中學の教員はこれを理論的に研究する力があつても、その研究に實行の効力あらしめることの出來ない問題である。この意味に於ては專門の學者や卓識の人の

力にも及ばない問題である。机上の研究や意見のみでは更にその實効のない問題である。この解決は唯最良の意見を實行に移し得る位置にある人の大英斷一つに存するものである。

臨時教育會議は、果してかゝる問題に十分觸れることの出來るか否かは吾人の知るところでないけれども、此の際吾人をして滿腔の希望を言はしめるならば、臨時教育會の如き我が國教育界の最高權威を網羅した機關は、この好機を逸することなく、この問題に對する最も適當なる意見を形造るの方法を講じ更に當局をして國家の將來の爲に、こゝに一大英斷を敢へてせしめるだけの刺激とならんことである。其雜報の報ずるところに依れば、臨時教育會は、先づ諮問案第一號「小學教育に關する件」に關して意見を開陳した樣であるが、その要點の中には「普通教育に於ける從來の國語なる科目に大なる改善を加ふること」「義務教育を八ヶ年に延長すること」「教育內容の徹底即ち教育能率を向上せしむること」「學制全般の修養年限を短縮せしむる要あること」等の諸項があつた。これ等の何れも、若し國語問題の整理なくしては、到底十分にその趣旨を達することの出來ないのは、教育の實際に當るものゝ目よりしては最も痛切に感ずるところである。

國語の整理は今更ながら實に大問題である。その關はるところ最も廣く且つ永く、これが實行の爲に生ずる實際社會上及び教育上の影響の程度は、何人と雖も到底精密に斷言し得る所でないけれども現在の我が國語の不整理は果して如何ばかり教育的努力を不經濟にし、又社會上如何ばかり大なる不便を釀しつゝあるかは、全く何人も知らざるなきところであらう。唯此の教育上の不利・社會上の不便を永久に救濟せんが爲に必要なることは、第一如何なる形に於てこれを整理すべきかの方案を形造るにあるのは言ふまでもないが、それよりも更に必要なことは、實に萬難を排して、かゝる方案を實行に移す爲の一大英斷である。然かもこれが容易に出來ないのは何故であるか。これ一には、一大改革に伴ふ社會上教育上の混雜の程度が果して如何ほど長く且つ大きいかの豫想が立たないこと、從つて、又一には、かゝる大改革の功績に對する正當な批判の生ずる前に、社會有ゆる方面からの毀譽褒貶の雨下する覺悟を要するからである。約言すれば、かゝる大改革のこれまで斷行せられなかつたのは　その斷行の結果に對する聰明な考案の立たないのと、この斷行の責任の大なるに顧慮するところがあつたからであらうと思ふ。けれども國家の將來は重い。教育の徹底は必要である。苟も眞に教育を以て國本を養はうとするならば、この問題は決してこれを輕々に看過すべきものであるまい。吾人はこゝに於て、曾つて我國語に對して殆ど非常識なほどの大英斷を敢行せんとした文相のあつたことを回想せずには居られない。

今や世界大戰爭の眞最中にあつて、英佛の二國の如き、既に戰後の經營に於て、最も力を教育

に注がんとするの覺悟を示して居る。吾人は彼の國の爲政家が、眞に教育に依つて戰後の經營をなさんとする識見に感激せずには居られない。又其教育問題が悉く比較的容易に解決せられ得べき種類たるに羨まざるを得ない。唯一度我が國の教育問題に立返つて見れば、この全く憂國一片の情が、有ゆる困難なる事情を排し、有ゆる毀譽褒貶の上に立つて、敢然としてこれを斷行するの大勇猛心を必要とする底のものたるに思ひ至らなければならぬ。これ吾人が今回の臨時教育會議の如き機關に依つて、これが解決の道が開導せらんことを切望する所以である。

——六・一〇・一——

四七　人と法

大正七年は明けた。一方には前古未曾有の戰亂を控へながら、我國の現在を見れば、流石に慶賀に堪へぬと云はなければならぬ、これ實に驥世の英主明治大帝の治を受け給ひし、今上陛下の御懿德の然らしむるところ、我等生をこの國に享くる者の深く感激しなければならぬことである。

けれども、靜に我國運の將來を想望し來れば、我等は徒に現在の平穩を讃美し居るべき時期でない。我否國民の將來は國際上益々多難、內治上益々多事、國民の責任の重大なるには自ら肅然たらざるを得ないものがある。何となれば、現在この大戰亂の影響或はその將來の變轉はどうしても直接間接に我國に一層大なる活動と責任とを要求して止まないことになるからである。思一度こゝに至つて見れば、我等は一方に聖壽の萬歲を祝し、我國の隆盛を賀するの杯を擧げると共に、他方に營々としてこの大任を全うすべき道を用意すべき時であることを知らなければならぬ。今や年新にして人心自ら改まつて居る。これ實に、我等の覺悟を固むべき好時機である。我等は天下の讀者と共に、教育の部面から我國の將來を考へて、この年を迎へる辭に代へようと思ふ。

現時我國人の思想を支配してゐる教育問題の歸結は、一方制度上年限の伸縮に關する問題と他方教育を實行する人に關する問題に求められて居る樣である。これは誠に至當なことである。而して、二者共に教育の効果を反省する時に生ずる必至の結論であらうと思ふ。けれども、この問題の十分な解決の爲には、更に深く考へなければならぬことあるを忘れてはならぬ。

第一、先づ年限の問題に就いて見れば、小學校を八年にし、中學校を七年にし、高等女學校を五年、師範學校を五年にすべしと云ふが如き諸說の論據は、必ずしも教育の効果一箇の理由から主張されて居ないのは言ふまでもなく、殊に中學校の七年說の如きに於てさうであらうと思はれ

るけれども、此れ等の意見を教育の効果の上から考察して見れば、六年より八年、五年より七年、四年より五年に延長することは、假令其の他の事情を如何に見るとしても、大に効果のあるべきは言ふまでもない。けれどもこれ等の新主張がよし實現されるとしても、世人は果してその增加せられた年限の爲に、特に十分滿足するほどの効果を擧げ得るか否かは、決して俄に斷言し難いところである。我國の人は、常に現時の教育非難の常套語として、小學校を卒業しても碌に手紙も書けぬと云つて居るが、これと全く同じ非難の語は、等しく中學校卒業生に對しても加へられて居るのではないか。若し教育の方法に對して十分根據ある改善を施すことがないならば、一二年の年限の延長は、必ずしもその絕對價値を豫想の如く增加して居るとは限らない。これを小學校の教育法に就いて考察して見ても、小學校に於て一日に三十分や一時間の損得は、教授方法の上から直に生じ得ることは、實際家の眼から見れば決して迷ふほどのものでない。中學教育に就いてもこの點に大に研究の餘地があらうと思ふ。けれどもこの意義は必ずしも一定時間内の教授材料を倍蓰したり、器械的に注入したりする方法を辯護する意味では決してない。否な教育方法の問題は、更に深いところに根據がある。これは寧ろ教科の提出時期、その教材の選擇及び、これを授ける方法其者に關することである。必ずしも時間や教師の熱心を增加するのみを以てその効を收め得るものではない。

言換へれば、教育の効果は、授ける事項が生徒の力に最もよく適する時に最も大なるものである。この點に於て從來の方法、即ち年限――時間數・教科・教材・教法に關しては、更に根本的に研究し直す必要がある。而して、これが爲には、先づ生徒の能力に對して更に確實なる智識を必要とするのである。それ故に若し廣義の教育法を豫定することなく、徒に年限延長に對して過大の希望を屬するならば、世人は必ず再びこれに不滿足を表する時期の生ずることは、火を睹るよりも明かなことである。

第二、教師の問題に就いて見れば、先づこの待遇をして、物質的に專心教育に從事し得る程度に高め、精神的には教育者としての體面を維持し得る程度に高めることは、固より大に必要であることは言ふまでもない。けれども、かゝる待遇を要求し得る教師の修養にして健全でないならば、國家は却つてこれが爲に禍を受けることにもならうと思ふ。詳に云へば、優良なる教師の資格は、その知識に於ても固より大にその程度を高めなければならぬけれども。その智識は必ずしも教材其の者に限られてはならぬ。現に前に述べた如く、生徒の能力に關する智識、これを看破し得る知識、又これを基礎とした教育上の技術も頗る必要である。若しこれを缺いて徒に前者を高

めたならば、學校は再び注入教育の二の舞を演ずるに終るかも知れない。次に更に一層肝要な修養の着眼は、教師たるものゝ人生觀である。即ち國家に對する職責の重大を自覺する精神の健實である。而してこの健實な人生觀は、到底淺薄な修養では得られるものではない。或は一度は單純な盲目的信仰として授けることが出來ても、十分その根據ある形成の爲には、深く且つ廣い修養を要するものである。我國の教育者が、往々にして精神的の問題に關しても迷搖し遠感して居るのも、全くこの點に缺くるところがあるからである。

人と法の運用は教育の効果の係るところ最も大なるものである。これに對する研究は十分根本的でなければならぬ。

今や英佛は、戰亂の最中にその教育問題の爲に思切つた覺悟を示して居る。我國の教育界も、臨時教育會議を初め、諸種の會合がこれが研究に當つて居る。吾人の偏に祈るところは、これ等の研究が出來得る丈根本的であることである。一時的彌縫に出でないことである。

——七・一・一——

四八　擠排孤立の愚

日本人は、三人寄れば屹度喧嘩をする。人ばかりではない。馬でも牛でも犬でも、彼等は逢へば必らず喧嘩せねばならぬものゝ樣に心得て居る。支那人は、合資會社を作り得る人間で、米國邊りでも、お互の資本を持ち寄つて、誰か經營の上手なものに任せ、其の收益の分配を、靜に待つ丈の、人に對する依賴と、時に對する忍耐心とを持つて居る。それが、日本人には決して出來ない。日本人は、人を蹴飛ばしても早く成功したい性急病者である。他人の成功を喜んで居ることの出來ぬ神經過敏者である。己れが〳〵を振り翳して、他を反駁罵倒して、己を廣告せねばチットして居られぬ。小功名に焦せる人間である。かくして到る所に、感情の衝突あり、排擠讒誣あり、個人として孤立し、國民として孤立し、在外同胞として孤立し、世界到る處に、一騎打ちの苦戰さを演じつゝあるのである。日本內地に於ける同胞も、上海に居るものも、米國に居るものも、唯一つ例外なしに、皆喧嘩の魂である。情けない憐れむべく恥づべき雅量なき國民である。

教育者は、この國民性の一大缺點を根本的に改良する責任がある。然るに教育者自身が、一體、これが矯正をなし得る資格あるかといふと、教育者も、矢張日本人の樣である。日本の教育者、合して十有八萬、而して彼等は、未だ教育社會といふ名辭で一括し得る何等の團結をも作つて居

らぬ。作らうとも思はぬ。部分的に集つた小なる團體中には、常に喧嘩がある。帝國教育會は日本全國の教育者の中心たる抱負を以て、熱心に會員の糾合を講じて居るに拘はらず、會員四千に過ぎない。而も、十中の九分は、小學校の教員であつて、中學校や高等女學校や實業學校や高等專門學校や大學の教員は、殆んど姿すら見ることが出來ぬ。然らば中學は中學、大學は大學の間に聯絡があり會合があるかといふと、勿論ない。教育社會自體が、かくして矢張り、一騎打ちの小天狗に滿ちて居つて、到る所に感情の衝突あり喧嘩あり讒謗あり排擠ある宛乎たる御殿女中社會である。之を以て、歐米の教育社會に比する、其の差の餘りに隔絶して居るのに驚かざるを得ぬ。

教育社會が、相合し相親しんで、協同事を共にせざる當然の結果は、教育社會の無力となつて現れざるを得ない。十八萬の教育者中には、勿論識見に於て、手腕に於て、品性に於て、他の實業家や政治界に優るとも、決して劣らぬ人物を包容して居る。然るに個人としては堂々たる、かゝる多數の男女を包容して居る教育界が、外部に對しては全くの無勢力で、全くの無智である。自分等の教育制度を自分等で改良する力もなく、自分等の專門に關することを、自分等中の有識によつて裁量する丈の獨立もなく、而して超然として曰く、余は大學教授なり、俗事に關係する餘暇を有せず、吾等は專門學の先生なり。小學教員と事を共にする必要なく、又餘暇なしといふ彼等はかくして、氣取りたる積りならん。えらい積りならん。憐むべきものよ！　かくして、日本の教育社會は、永久に世の中知らずのデクの棒たらずんば止まないのである。かゝる教育者の仕立てた子供に、和衷協同、小異を捨てゝ大同をとり、內を堅めて外に當り、內國を合して外國に當るといふ、一大雄飛の國民を作らんこと亦難いかな。

我輩は、近い將來に於て、現はるべき府縣視學官などの任命について、又しても、教育社會は、人に笑はれる樣なケチなさもしい內輪揉を始めはしまいかと心配して居る。自分等の仲間から出たといふと、まだ年が若いとか、やれ行政的の材幹がないとか、色々の難癖をつけて擠排を事とし、折角教育界多年の輿論として成り立つた事柄にケチをつけて仕舞ひ、人をして「矢張り教育の實地家から出る方が、全くの素人を教育の役人とするよりも弊がある」などいはしむる樣な痴態を演じはしまいか。どうも教育社會從來のやり方から見て、自分は聊か杞人の憂を懷かざるを得ないのである。いふまでもなく、日本の教育社會は、絕海孤島の日本教育社會ではない。世界に對峙したる日本の教育社會である。事のきまらぬ中に、忠實なる言論を挾むは、堂々とやるがよい。一たびかうと決した以上は、行きがゝりの感情から、何時までも愚圖々々いつて、他人の事

にケチをつける樣な、女々しい事をやり合つて居てはならぬ。今は虛心坦懷、雅量を以て大同團結をする底の人物のみを以つて、教育社會を堅め、然る後に日本人の性癖の矯正に猛進せねばならぬ。――七・二・一――

四九　四あつて三を缺く

感情は一日々々に荒んで行く。親孝行、仲よしの兄弟姉妹、愛矯、同情、雅量、推讓、奉仕、犧牲の美談は日々減じて、感情の衝突、非難、攻擊、威嚇、彈劾、發狂、自殺が次第に多くなり行く。少し物事の分つて居らねばならぬ筈の智識階級の中にも、眞面目にいふのか何か爲にする所あつてするのか分らぬが、隨分お粗末な奇矯な、學說としては最早一顧の價値すらもなきものを、新らしい今後の大勢を支配するものゝ樣にいつて、青年や俗人をオドかして居る。日本は何故にこんなに、世紀末の氣分とかいはれるヒステリックなことの續出する樣になつたであらう。

一、一方哩に三百七十人詰め込まれて、生活難に苦しんで居る結果、小さな鷄小屋の中に倒はれて居る幾千羽の雛と同じ樣に、互に蹴り合ひ蹴り散らして、我知らず、生存戰に疲れて居るのが勿論何よりの强い原因に相違ない。可愛想に婦人雜誌の初頁から末頁まで何で埋まつて居るかを讀んで見よ。皆これ、血の出る樣なやりくりの苦心談ではないか。何處の世界の婦人雜誌にかくも生活難のみの記事を以て埋めて居る所があるであらう。

二、日本の教育は、智力の教育と意志の教育とは、可なりよく注意してやつた。學校は、智育しか出來ぬものであるといつて、外の事は殆んど顧みずに、上の學校の入學試驗にさへ及第すれば、評判がよいといふ樣に、何でも智識を詰め込むことには骨折つたが、情の根柢にはよう觸れ得ない教育が多かつた。意志の陶冶とか硬教育とか相當に騷がれて、面白くなくつても何でもかまはぬ、努力奮闘がよいのだと口說かれて、子供は奥齒を喰ひしばりながら、泣きの涙で冷たいランプを相手にして、遮二無二やつた。併し其の間に、情の根柢が甚しく溷濁し荒廢した。かゝる學校を卒業した女にハートの優しみがなく、男に莞爾やかな溫味がないのは當然である。かくて、日本は掏摸や巾着切りの樣な顏をした凄味顏の寄合となつて仕舞つた。

三、日本の古代史の人間は、樂天的な人間であつた。天鈿女命以來、日本人は快活な國民であつた。佛教の厭世や、儒教の禁慾や、封建時代の敵對行爲の習慣やらで次第に天眞爛漫を缺いて來た。日本人には歌がなくなつた。孔子は樂を以て風を移し俗を變へる要道として、禮と樂とを併行さしたが、日本の今の紳士淑女中、眞に音樂の耳と喉とを有つて居るものが何人あるか。西

洋流の音樂會を聞いて、分つた樣な顏をして、實はあんまり分らなかつた若干の新らしい人々を始めとして、日本古來の端唄一つ眞の樂として唸れる人がないではないか。長唄でも常盤津でも乃至はズットまけて、磯節でもカツボレでも、謠つて樂しむ人が何人あるか。學校の先生はいふに及ばず、日本の人は歌一つ歌ふことの出來ぬ無藝のブツキラ棒である。面も到頭日本と同化しかねて居る西洋まがひの學校的唱歌と、日本在來の俗謠との間には、今尙依然として大なるギャツプがある。其の結果「渡るに易き安城の、名は徒らのものなるか」といふ軍歌を高唱しながら、田草を取つて居る若者を見出す世の中となつた。樂の趣味の墮落、樂の持ち合はせの貧弱、玆に至つて極まれりといふべきである。

四、日本には、西洋の上層より下層まで彌漫して居る舞踏もない。歐米人が、十人二十人集る所に、必らずある舞踏の樂しみは、日本人の全く關知せざる所である。

五、日本人は、一年に一二度、命の洗濯として出かける芝居や寄席でも、泣いて歸らねば承知しない。歐米人が高笑して可笑し涙を流して居る時に、日本では、ハンカチを嚙ひしめて、目を泣きはらして「ア、よかつた」といつて歸るのである。

喜怒哀樂愛惡欲の七情は、幾分づゝか天性に有つて生れる譯であるが、日本には怒と哀と惡と欲との四つはタツプリとあるが、喜と樂と愛との三つは如何にも少なくなつた、それは、日本國民の發展上由々しき缺點である。個人の溫雅、一家の和樂、部落の輯睦、市町村の協同、學校の教育、教師の人格とが、今少し共鳴し得ねばならぬ。——七・三・一——

五〇　事務的材幹

世の中は日一日と忙しくなつて來る。機械の應用は年一年と其の度を高めて來る。今後の活社會に立つて並以上の仕事をして行かうといふのには、僅かの時と人と金とで、可成効果のある樣に工夫を凝らし、機敏に仕事を處理する人でなければならぬ。個人として然るが如く國民としてもさうあらねばならぬ。東洋流の豪傑は「大行は細瑾を顧みず」で物事を大ざつぱにやつて、少し抜けて居る人間がえらいといふ相場になつて居る。勿論、餘り細か過ぎて、干渉好きて五月蠅い長官殿ばかりでは困つた話であるが、イザといはゞ、物事を順序よくバキ〳〵と處理し得る材幹がなければならぬ。

米國あたりのオフイスを見た目で、東京の銀行や會社を見ると川水と沼水との差がある。況んや、官廳や學校の有樣を見ると、マルデ青みどろの生じた溜り水の樣に見える。更に田舍に行つ

て見る。動物でいふと、鰐魚か河鳥の樣に一寸見ては何時動いて居るか分らない。勿論傚は食ふし子供は殖えるから生きて居るには違ひはないが、一寸見ては中々分らない。手紙が來たとて卷紙や狀袋を用意して居る人が少ない。同僚の机抽斗を探し廻つて三十人の同僚中遂に一人の之を有するものなきに至つて、今日出すべき返事を遂明日に延ばすといふ有樣である。かういふ人を宴會の幹事と頼めば、會場の都合も十分につけて置かず、何人が司會者で、挨拶をする人が誰で演說は何人で何十分かゝる豫定であるか、何時になつたら開會にする積りであるか何等明瞭な用意が出來て居ない。それであるから、愈其の日になつてから、汗をかいて氣を揉んでも、事イスカの喙と喰食ひ、不仕餬の連續で、演說者も豫定がしてなかつたので「ドナタでも宜しい何かお話があれば願ひます」などいふものであるから、立たぬでもよいオッチョコチョイが立ち上つて自家廣告の長演說などをやり出して、一座白け渡つて不快の裡に解散するといふ樣な事にもなる。かゝる幹事ぶりも、畢竟は事務的材幹の修練がないといふことに歸する。

男子がさうであるが如く女子もさうである。一本の大根の皮を剝くにも、仕事をする場所と、買つて來る人々と、庖刀の置き場とが、極めて便利に出來て居つて、態々庖刀を取るために、假令五歩でも六歩でも、歩く丈の無駄な話であるから、可成一箇處に立つた儘仕事の埒が明く樣にせねばならぬのに、勝手元を右往左往せねばならぬ樣に諸道具をばらまいて居る。主婦の一週間の働きぶりにもチャンと大體の日割や時間割があつて、其の間は懸命に立ち働らき、一定の時間には、見事に整理して、主人の歸るまでには、子供も自分も手足を清め服裝を整へて待つて居るといふ嗜みがなければならぬ。然るに一定のプログラムのない生活をして居る結果は、午後の五時になつても、庭園も片つかず、座敷中は杯盤狼藉、子供は蓬頭亂髪、鼻汁をたらすやら喧嘩をするやら蜂の巣を割つた樣にして置いて、御本尊の奥樣は、兩手に澤庵をブラドけて鼻の兩側に鍋墨を塗つて出て來るといふ樣では、如何に家事に勵精するといふ心懸だけは立派でも、仕事の運び方がさう拙劣では、嗜みある人間とはいへぬ。

大體からいふと、日本人は、どうも事務的の材幹が十分に修練されて居らない。萬事マドロ臭くて遲鈍くて間に合はない。教育者もやはり此の例に漏れぬ。どうかすると、一段と遲鈍情を發揮して居る。今少し、電話もかけられ、文案も素早く起稿され、處理すべきことはサッサと處分することを心掛けねば、世界の活舞臺に立たすべき第二國民の教養者として、相濟まぬ樣である。能率を高めるといふことは、つまり、この事務的材幹に俟つ所極めて大なるものである。尾鰭に青ミドロのついた沼魚の樣な人間が、西洋の書物ばかり讀んで能率の講釋ばかりしたのでは埒が

明かぬ。

歐米諸國では、人間が遊んでばかり居るのではないかと見える。彼等は運動もする、舞踏もやる、遠足も旅行もする。家庭の主婦も隨分夫と一緒に此等の戸外運動をする外に、雜誌も見るし寄席芝居ものぞくのである。乍併、よく注意して觀察すると、彼等は一定の時間は、戰爭の如く、脇目もふらず、立ち働いて居る事を見出すのである。一言でいへば規律を立て、敏活に仕事を終へるのである。能く勤めて能く遊ぶ所に、彼等の活氣横溢せる活動が出來るのである。生物學は境遇に順應し得ざるものは劣敗あり死滅あるのみであると敎へて居る。世の中の忙しくなるにつれて、人間はいつまでも舊套を守つて居るべきでない。――七・四・一――

五一　組織的經營

冬期になれば暖爐を入れるものだといふ西洋暖室法と、空氣を入れ換へねば室内の空氣が腐敗するものだといふ思想とを、無雜作に結合して、盛に暖爐を焚くと同時に、四方の窓を開放し、一敎室に熱溫寒の三帶を現出して、宇宙を暖めんとする敎育界に、學校管理の何たるを調査する必要なかるべきか。黑板といふものは黑い板でなければならぬと思ひ込んで、進歩した所では綠板を作つて居ることを知らず、光線は十分あればなる程よいと思つて、直射光線を紙面に受けさせて得意となつて居る敎育界で、學校經營の方法を討議することの必要なかるべきか。

我が初等敎育研究會は、第十會全國訓導協議會を開いて、五月十一日より十五日に至る五日間、學校管理について各地の經驗と研究との結果を交換した。流石は、斯道の熱心家諸君だけあつて聞くべき言議見るべき成績が少なからずあつた。吾輩は、心から之等來會諸君の熱誠と努力とに對して、敬意を表せざるを得ない、

明治も四十五を過ぎ、大正も七つとなつた。日本の敎育も包括的な、落ちつきのある地盤の上に立脚すべき時節である。然るに、一般敎育社會の狀態としては、未だ全體に對する部分の地位部分と部分との關係について、包括的な組織が出來て居らぬ。これが出來て居らぬ以上、學校敎育ばかりを云々しても、行ける筈はない。況んや、其の學校敎育の何十分の一の所に沒頭して居る丈で行く筈はない。部分は部分だけの價値はあるが、全局と合致せざる部分的努力は、的にはづれ坪にはまらぬもので、ボロ〳〵の股引に、新しい博多地を繼ぐ樣なものだ。

敢て問ふ。家庭と學校との關係は、一年に一二度、父兄懇話會を開く以上に、重要なる根本的な結合點がないであらうか。學校と社會とは、夜學と青年講話との外に、今日の敎師の修養から、

學校の教科書から、上級教育の方法まで、根本的に改造せねばならぬ樣な、重大な問題は潜んで居ぬであらうか。前の場合は否々で、後の場合は然り〳〵である。

殘念ながら今日は。神武天皇以來大した變化を受けて居らぬ日本の家庭に、德川時代以前に見ること出來ない西洋式の學校を立てゝ居るのである。家庭は、お節句で桃酒を祝つたり柏餅をたべたりして居る時に、「學校は氣を付け」「胸を張つて」「足尖をそろへて」と連呼して居る丈である。學校が三大節だといつて、朝早くから騷いで居る時に、家庭の父兄は、業も休まずに、田畠に出て行くのである。教師が汗水流して就學の督勵をして廻れば、親は「我が子は我が物であるから、就學も不就も我が勝手である。」と放言して居る時に、家庭と學校とは、千里の溝渠を以て劃されて居る。家庭と學校とは、モツト一皮も二皮もむけねばならぬ。

學校と社會との關係も、決して之に讓らぬ溝渠がある。吾々は、市町村を通し、職業を通して國家天下に貢獻せんとする子弟を引き受けてゐるものである。市町村の良民を作る教育職業の人として立派に進み得るものを養成する學校として、我々教育者は、遺憾なき修養あるか。市町村改良殊に農村經營について、土地の有志や篤農家に、一般方略を授ける丈の見識を有せりや。折角、時と勞力とを費して召集したる夜學、補習教育、青年會、少年會等を、眞に此の二大使命を達せしむるに遺憾なき方法で、つなぎつゝありや。

一言にいへば、我國の學校は、遺憾ながら、我が日本の家庭の代理店でもなく、我が日本の町村の改良策源他でもない。家庭も町村も、天下の形勢と時代の進歩とに應じて改めねばならぬが學校のやり方も、變改を要する。家庭も學校も社會も、此の三つを潜つて通る兒童からいへば、單に生の連續に過ぎない。彼等の生は、カメレオンの如く毎日變る丈では不可かぬ。彼等は、モツト矛盾衝突のない、「生の統合」を要する。

更に、學校の內部を見る。今日の學校の施設は、果して包括的な組織があつて、兒童の「生の圓滿統合」を助成しつゝあるか。たゞしは、本を讀んだり、他校を參觀したりして、一つや二つやりつゝ、段々に、繼ぎ足しに繼ぎをした「八幡知らず」ではないか。「我が校の施設」などゝ細かな表を作つて、郡教會で褒められて以來、何でも多く並べ立てた體裁表となつては居らぬか。

一言にしていへば、學校生活といふ名の下に、幾つの項目が擧げ得べきもので、其の各は、如何に相關的になつて、兒童に影響すべきものであるかを明確にして居らねばならぬ。之を明確にせぬ以上は、無暗に本を讀んだり、學校參觀などに出かけぬがよい。殊に、近時廣告的に新らしいことをやつて看板にしてゐる書物や學校に目を曝すは、有害無益ともいへる。

我が初等教育界は、幾多の方面に於て、大なる進歩を遂げつゝある。乍併、細鱗に沒頭して大魚を逸するの恨なきを得ない。此の意味に於て、學校の經營、管理の如き、一般的の研究を今一層熱心に調査せねばならぬと信ずる。――七・六・一――

五二　深さと廣さ

一國の前途を思ふと、何もかも改革を要するものばかりである。教育といふ方面丈でも、家庭教育の方面や、社會教育の方面に、一日も早く實施せねばならぬと思ふものは數々ある。それがためには、我が國家庭教育の權威たる人を、教育社會が十數人は有つて居らねばならぬが、不幸にして未だ一人もない。社會教育の改善のためにも、包括的組織的科學的に研究して居る。押しも押されもせぬ斯道の權威が、少なくとも十數人なければならぬが、これも、不幸にして未だ手揃とはいへぬ。かくて、少年義勇團、青年團、在鄕軍人團、婦人會等何等研究統一もなく、我田引水、馬車馬の樣に突進する外に能のない態たらくである。之を教育といふ大局高所より見る時は、今少し、遠大な適確な理想と、冷靜な組織的な頭腦とを以て、先づ、全體としての計畫を立て、相當のものとしてやらねばならぬ。さうでないと、局部しか分らぬ熱狂者と、仕事なしの身の程知らずと、官僚風に威しつけたりする軍人出を、何でも飛び出すオッチョコチョイとが、萬字巴となつて、搔き亂す事が多くして、却つて、眞の社會改良、家庭改良が出來なくなることを恐れるのである。

教育者の領分は廣い。凡そ社會國家の改善に關するもので、教育に關係せざる何物もない。教育は社會國家の改善問題の全部を掩ふて居る大事業である。吾々は、學校教育といふ一部分の事だけにすらも、十分に包括的な組織的な廣い眺を缺いて居る教育界に、社會とか家庭とかいふ方面までを要望するのは勿論無理であることを知つて居る。乍併、教育者の中から、社會家庭の改善を任じてやらうとする者を求めずして、何れに求むべきかといふと、吾々は、其の適人者を見出す爲に窮するのである。一方、行き詰りたる觀のある教育界から、此方面に有爲の人材を向けることは、一舉兩得の策である。大阪の天王子師範校長たりし村田君は、中央報德會の事業のために、職を去つて、其の方に專心從事する事となり、同僚柵橋教授は、通俗博物館のために、多年の蘊蓄を傾けられつゝある。山口縣の圖書館長佐野君の如きは、圖書館事業に熱心な篤志家である。此等の如き人々が、モット澤山我國に出來ねばならぬ。それには、一般教育者が、此の方面に　今日よりも一層注意を拂つて、理論上の修養もし實際上の盡力もして、一般の地平線を高

めて呉れねばならぬ、其の中で傑出した人々が、それ〳〵の方面の權威となる順序である。

近來通俗教育の盛になつて來たのは、慶賀すべきことであるが、一般教育者は、一年に數回、何か面白く饒舌る人の話と尺八か薩摩琵琶位の餘興を聞かす會だと思つて居る以外に、深い理想も抱負も有たぬではなからうか。圖書館の事業、婦人會の事業等に對して皆同樣であるらしい。況んや、新聞や寄席や活動寫眞や盆踊等に對しては馬耳東風何の意見も要求もない樣である。勿論、學校教育に專心し、幼年兒童の教養に熱心誠實に從事することは、今日の教育者本來の重要任務で、これ丈を立派にやり上げる丈に惟れ日も足らぬ重要任務である。それをよい程にし生半可にして、外に飛び廻るがよいとはいへぬ。大多數の教師は、勿論、この狹い意味の學校教育に專心沒頭し、又は更に其の中の或る一方面に專心沒頭しても、何等尤むべきでない。自分等の仕事が、社會國家の他の事業と、如何なる交渉を有し、學校教育は、家庭や社會と如何なる交渉を有するかを、眞に理解して居つてくれて居る以上、決して尤むべきではない。只、忘れて欲しくないのは、教育とはこれのみに限るといふ樣に、自分で範圍を限つて、其方の川が濟めば、コクリ〳〵と居睡りをして居る梟や鴟の樣な教育者ばかりであつてはならぬといふのである。何割かの人は、畫の世界にも目の利く者がほしいといふのである。子供の誘導の外に大人の誘導をも出來る人が若干ほしいといふのである。そして、それが、子供の誘導の事業に教育者の有難さを感じさせる上に、何等の害がないのみならず、非常に生きた光を投げるといふのである。

行く〳〵は、中央政府にも、米國の樣に、家庭教育課を置かねばならぬ。又、社會教育にも內務省文部省などに、適當の局課を置く樣にならねばならぬ。今の場合、中央に十分の指導者なく、地方に十分の覺醒者なく、突發的に彼我無交渉の儘に行はれて居るが、これは、早晩改良されねばならぬ。そして、之を改良し、助長發達せしむる當然の責任者は、教育社會より出でねばならぬ。

日本全國を見渡した所、家庭改良や家庭教育の方面では著しい進步を見せて居る所はない。社會教育の方でも、大阪市の社會教育などが、先づ目ぼしい所であらうが、他には、一向聞き及んで居らぬ。

思へば我が國の教育は、學校教育の範圍內に於て、內容を改め、深さを增す意味の改良も心要であるが、家庭教育とか社會教育とかいふ樣に、教化の手を擴げ、廣さを加へる意味での改良も忽に出來ぬ。近來の流行たる動員といふ言葉をかりて、廣さの方面にも、教育者動員令を發布する。——七・八・一——

五三　臨時教育調査會に望む

臨時教育調査會の決議は、實行を促進する權威ありと目せらるゝ點に於て、從來になき多大の興味を以て、一般教育社會の注意する所となりつゝあるは疑を容れぬ。其の決議せる所は大學教育の改良、中等竝に高等教育の教員の待遇の改善、府縣師範學校の年限改正、及び經費復舊等、贊成を表すべきもの少なからず、又、視學官制度を改良し、斯道に精通せる視學官を任用して、法律專門のものを斥ぞけんとするが如きも、多年教育界の希望せる所にして、今や將に其の實現を見んとするに至れるは、皆よく教育界の輿論に鑑みたるものといふべく、吾人の大に同會に感謝せんと欲する所である。

師範教育中高等師範問題は、今尙何等纒まりたり提案あるを聞かず、惟ふに、普通教育の源泉たる高等師範學校は、一體に大學と同等の程度に高むるか、少なくとも教育大學を其の上に置き教育に關する最高の研究機關たらしめざるべからず。高等師範學校卒業生が、斯界に貢献せる所を陽に賞贊しつゝ、陰に同校の發達を喜ばざるが如き私情に囚はれず、國家教育の發展のために公平に判斷することを要する。大學の文科理科は、行き詰る一方である。今度、又々、東北大學に文科を設ける樣であるが、這入り手がないのに、新設を計畫する程の餘裕が、日本の一方にはあると見える。日本の大學は、綜合病にかゝつて、學生もない學部の增設に忙しい。他の方面では、些細の經費で效果の十分に擧がることがあつても、見殺しになつて居る。奇體な世の中ではないか。

次に、吾人の最も遺憾に堪へざるは、義務教育の延長に對する臨時教育會議の餘りに消極的なりしことである。戰後の教育經費といはず、戰中の教育經營に於て、英といひ佛といひ實に思ひ切つた改善策を議會の問題として居ることは、恐らくは、調査會員の熟知せらるゝ所であらう。國民の普通教育及び補習教育を義務的强制的にして、滿十八才までにせんとする佛國文部大臣の案竝に、之と符節を合したるが如き英國文部大臣の案は、假令多少の修正を經て法律となるとしても、滿十六才までの義務教育制度は、最早疑を容れざる所である。我が日本は國語の六かしい國であつて、僅かに滿十二才までの普通教育だけを施して滿足せんとするが、これが、少なくともこゝ數年乃至十年を維持すべき教育改良案として、臨時教育調査會は、其の儘に見ぬふりをし得べき程、不急のものであらうか。「尋常小學校の課程を整理按排して、兒童心身の發達に適應せしめ、殊に第五學年よりの兒童の負擔を激增する現制に改正を施すと共に、國史の教科に一層重き